

# 2020 単位修得要領

京都女子大学

「2020 単位修得要領」は、2020 年度に入学した学生が卒業するために必要な学的事項を記載した冊子です。回生が変わっても、卒業するまで使用します。大切に保管してください。

カリキュラムは、年次の途中で変更になる可能性があります。

自分の入学年度以外の年度に発行された単位修得要領等は、内容が異なりますので参考にしないでください。

京都女子大学 HP（在学生のページ）に単位習得要領が掲載されています。



## はじめに

この「2020単位修得要領」には、学生の皆さんが、自分自身でこの4年間の学生生活を計画し、実現していくために、欠かすことができない、基本的かつ重要な情報がまとめられています。

「単位修得要領」は、Ⅰ. 京都女子大学のカリキュラム、Ⅱ. 履修科目表・カリキュラムマップ、Ⅲ. 免許・諸資格、Ⅳ. 履修要項等諸規則、等が記載されています。

大学では、「学則」や諸規定で定められたルールに従って、学生自身が自分の判断で授業科目を選択し、履修登録をして学修を進めていかなければなりません。

所属する学部学科・専攻の教育課程の目的に応じて卒業に必要な単位数があり、必ず履修しなければならない科目がありますが、希望する進路や興味・関心に応じて履修する選択科目も多く開講されています。また、資格取得を希望する人は、その資格ごとに定められた科目を履修しなければなりません。

今、大学では「学びの質」が問われています。1年間に登録できる単位数に上限を設けています（CAP制）。これは、授業時間に学ぶだけでなく、その科目の授業を受けるための準備や関心のある事柄について、理解を深める学習の時間を確保し、学びを深める必要があるからです。単位数の多さではなく、大学でどのような力を身につけたのか、何ができるようになったのか、社会で通用する力を確実に身につけてきているのか、など、「自ら考え行動する人材」を社会は求めています。履修登録はパソコンを使ってのWEB登録です。自分で責任をもって登録し、学習目標に沿って確実に力をつけていってください。

「単位修得要領」や「京女ポータル」で公開しているシラバス（授業計画書）を十分に読んで、時間割表を見ながら、自分自身で一年間の履修計画をしっかりと立て、確実に、学修を進めてください。シラバスには、授業の到達目標、カリキュラムマップの6つの能力、授業の概要や計画、時間外学習等について記載してありますので、熟読して、授業に臨んでください。

皆さん一人ひとりの夢や希望がかなえられるよう、この「単位修得要領」を卒業まで手元において活用し、学びを積み重ね、「一生つづくチカラ」をつけていくことを望みます。

京都女子大学において、4年間有意義な学生生活を送れることを、期待しています。

# 2020 単位修得要領 目次

## I. 京都女子大学のカリキュラム

卒業に必要な単位数	P.2
「単位」と学修時間	P.3
履修登録	P.4
履修登録可能科目、履修登録単位数の上限（CAP 制） 自動登録科目、予備登録科目、再履修	
他大学で修得した単位の認定について	P.7
授業科目の構成・カリキュラム表の見方	P.8
カリキュラム表の見方、開講学期と単位数、カリキュラムマップ、ナンバリング	
各科目区分の履修登録に伴う確認一覧表	P.11
シラバスについて	P.11
授業科目の不開講について	P.11
入学前既修得単位や語学検定試験の単位認定について	P.12
京女高大連携科目履修により修得した単位の認定 本学入学前に他大学で修得した単位の認定（編入学を除く） 外国語検定等による単位の認定	
履修登録確認表の見方	P.14
成績通知書の見方	P.16
学科・専攻別 専門科目 必修・選択単位数 現代社会学科の単位修得状況の見方	
成績評価について	P.19
京都女子大学副専攻プログラム	P.20

## II. 履修科目表・カリキュラムマップ

共通領域	P.26
諸課程履修科目	P.34
専門領域	
文学部	
国文学科	P.39
英文学科	P.42
史学科	P.45
発達教育学部	
教育学科教育学専攻	P.50
教育学科養護・福祉教育学専攻	P.53
教育学科音楽教育学専攻	P.55
児童学科	P.58
心理学科	P.60
家政学部	
食物栄養学科	P.62
生活造形学科	P.64
現代社会学部	
現代社会学科	P.68
法学部	
法学科	P.74

## III. 免許・諸資格

教職課程	P.79
教員免許の取得にあたって	P.80
教員免許の科目履修表	P.84
諸資格	P.109
諸資格の科目履修表	P.110

## IV. 履修要項等諸規則

人材養成・教育研究上の目的に関する規程	P.128
履修要項	P.138

巻末

外国語検定試験の単位認定基準	P.147
----------------	-------

# I. 京都女子大学のカリキュラム

詳細については履修要項 (P.138) を熟読してください。

# 卒業に必要な単位数

卒業するためには、所定の授業科目を履修し合計 132 単位以上の修得が必要です。(履修要項第 1 条)

領域	科目区分	卒業要件単位数		
		必修	選択	
共通領域	仏教学	8 単位	「共通領域」から自由に 6 単位選択	
	言語コミュニケーション科目	8 単位		
	情報コミュニケーション科目	2 単位		
	健康科学科目	2 単位		
	京女の教養学	—		「共通領域」及び 「専門領域」から 更に 34 単位以上 選択
	キャリア形成科目			
	連携活動科目			
	学科・専攻開放科目			
他大学単位修得科目				
専門領域	専門科目	72 単位	(※) 必修・選択含む	
合計		132 単位 (= 網掛け合計)		

(※) 専門科目については P.18 参照

## — 表の見方 —

卒業に必要な単位数 (132 単位) のうち、共通領域 計 26 単位 (下図①・②) 及び専門領域 72 単位 (下図③) は各科目群の定めるところとし、残りの 34 単位 (下図④) については、共通領域・専門領域から自由に選択・履修することができます。

領域	科目区分	卒業要件単位数		
		必修	選択	
共通領域	① 仏教学	8 単位	② 「共通領域」から自由に 6 単位選択	
	言語コミュニケーション科目	8 単位		
	情報コミュニケーション科目	2 単位		
	健康科学科目	2 単位		
	京女の教養学	—		④ 「共通領域」及び 「専門領域」から 更に 34 単位以上 選択
	キャリア形成科目			
	連携活動科目			
	学科・専攻開放科目			
他大学単位修得科目				
③ 専門領域	専門科目	72 単位	(※) 必修・選択含む	
合計		132 単位 (= 網掛け合計)		

① 共通領域 必修 20 単位	+	② 共通領域 選択 6 単位	+	③ 専門領域 72 単位	+	④ 共通領域・専門領域 34 単位	= 132 単位
--------------------	---	-------------------	---	-----------------	---	----------------------	----------

## 「単位」と学修時間

1 単位を修得するために必要な学修時間は、45 時間と定められています。(履修要項第 7 条)  
授業科目ごとに単位数が定められています。(P.8 参照)

2 単位の授業科目の場合、90 時間の学修時間 (45 時間×2 単位=90 時間) が必要になります。

【表】のとおり、「45 時間」あるいは「90 時間」の学修時間を満たすには、講義や実験・実習などの大学での授業時間に加え、予習・復習などの自己学修が必要です。

$$\text{学修時間} = \text{授業時間} + \text{自己学修時間}$$

授業時間は「講時」で表し「1 講時=2 時間」とみなして計算します。(履修要項第 16 条)

授業は半期 (前期又は後期) 15 週 (15 回) にわたり実施することで 30 時間の授業時間とみなします。

【表】

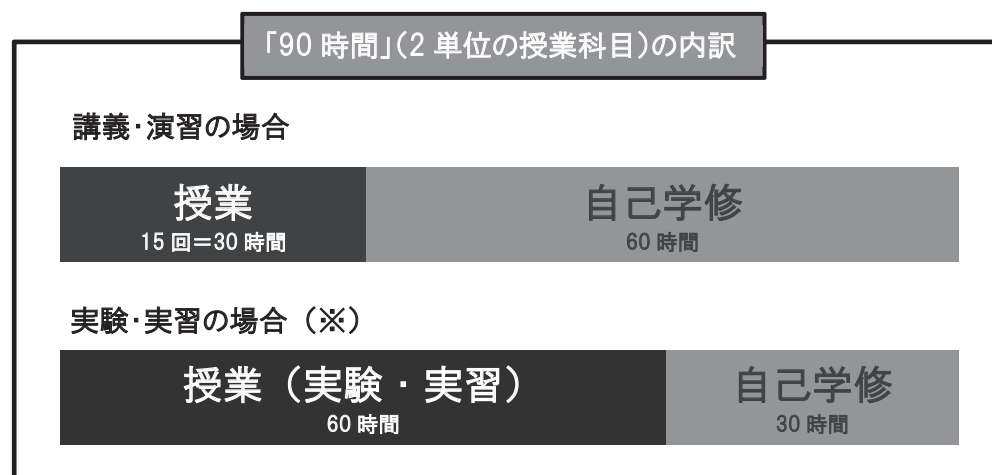
### 【履修要項 第 7 条】

1 単位 = 45 時間 の学修時間が必要

2 単位 = 1 単位(45 時間)×2 = 90 時間 の学修時間が必要

### 【履修要項 第 16 条】

授業時間は、講時で表し 1 講時を 2 時間とみなして計算する。



(※) 同じ 2 単位の授業でも、実験・実習の場合は、授業時間の割合が増えます。

例えば、2 単位の講義科目を履修する場合、週に 1 回の授業 (2 時間とみなす) に加えて、1 週間あたり 4 時間の自己学修が必要となります。

授業時間だけではなく、自己学修の時間も考えて、履修登録・時間割を組み立てましょう。

## 履修登録

大学の授業を履修するためには、毎年度当初に履修登録の手続きを行う必要があります。

(履修要項第4条)

履修登録とは、定められた期間にその年度に履修する科目を登録する手続きのことです。

履修登録をしていない授業に出席して試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録にあたっては、P.2に掲載した「卒業に必要な単位数」を熟知し、4年間で必要単位を修得できるよう、履修計画を立てたうえで行ってください。

また、定められた期間外に履修登録・修正を行うことはできません。履修登録忘れや履修登録手続きの不備による不利益は学生本人の責任となりますので注意してください。

### 履修登録可能科目

履修登録が可能な科目は、共通領域の科目、諸課程履修科目及び所属学科・専攻で開講される専門領域の科目（当該回生以下の科目）に限ります。P.26以降に掲載する科目表を確認してください。

#### 【履修登録ができない科目】

- ・他学科・専攻で開講される科目（※）
- ・上回生対象の科目
- ・修得済みの科目

(※) 共通領域の科目を再履修する場合は、他学科・専攻で開講される同じ科目を履修登録できる場合があります。詳細はP.6の「再履修」を確認してください。

### 履修登録単位数の上限 (CAP<sup>キャップ</sup>制)

本学では、1年間に履修登録できる単位数に上限を設ける「CAP<sup>キャップ</sup>制」を導入しています。

卒業要件として修得すべき単位のうち、1年間に履修登録できる単位数の上限は49単位です。

上限を超えて履修登録することはできません。

$$\boxed{\text{前期履修登録単位数}} + \boxed{\text{後期履修登録単位数}} = 49 \text{ 単位まで}$$

上限は登録単位数の合計であり、修得単位数の合計ではありません。

前期終了時点で修得できなかった科目(59点以下又はD評価)があった場合でも、その単位数分の授業科目を後期の履修登録修正期間に追加することはできません。(前期成績の結果により1年間の履修登録単位数の上限が変動することはありません。)

\*卒業年次においても、履修登録単位数の上限は49単位です。注意してください。

\*卒業に必要な単位としてカウントされない科目(「諸課程履修科目」等)は、CAP制の対象外ですので、上限を超えて履修登録することができます。



## <CAP 制の対象科目>

卒業に必要な単位としてカウントできる科目は、CAP 制の対象となるのが原則です。

ただし、卒業に必要な単位としてカウントできる科目のうち、卒業論文又は卒業研究、校外実習及び校外研修を中心とする科目及び当該実習指導に関する科目は CAP 制から除外されます。

### ※卒業に必要な単位としてカウントできる科目のうち、CAP 制から除外される科目

領域	科目区分	科目名
共通領域	言語コミュニケーション科目の〔語学研修科目(集中)〕	言語と文化(1~10)
	キャリア形成科目	職業体験実習
専門領域	<b>全学部 専門科目</b>	<b>卒業論文又は卒業研究</b>
	教育学科教育学専攻 専門科目	教育実習(I、II)、教育実習論(I、II)
		特別支援教育実習、特別支援教育実習論
		社会教育基礎実習、社会教育実習
	教育学科養護・福祉教育学専攻 専門科目	養護教育実習、養護教育実習論
		教育実習
		中学校教育実習
		教育実習論
		看護臨床実習、看護臨床実習指導
		社会福祉援助技術現場実習、社会福祉援助技術現場実習指導
		スクールソーシャルワーク実習
		スクールソーシャルワーク実習指導
	教育学科音楽教育学専攻 専門科目	教育実習
		中学校教育実習
		教育実習論
		社会教育基礎実習
		社会教育実習
	児童学科 専門科目	保育実習 I、保育実習指導 I
		保育実習 II、保育実習指導 II
		保育実習 III、保育実習指導 III
		教育実習、教育実習論
		社会教育基礎実習
		社会教育実習
心理学科 専門科目	心理実習	
食物栄養学科 専門科目	給食運営校外実習	
	臨地実習(臨床栄養学 I・II・III、公衆栄養学、給食経営管理論)	
	臨地実習事前事後指導	
	給食運営校外実習事前事後指導	
生活造形学科 専門科目	テキスタイルアドバイザー実習	
現代社会学科 専門科目	多文化理解実習	
	短期英語研修A	
	短期英語研修B	

\*この他、本学入学前に他大学で修得した科目や、京女高大連携科目、外国語認定科目など、認定された科目(成績表に「N」と表記される科目)は卒業に必要な単位としてカウントされませんが、CAP 制からは除外されます。

\*卒業に必要な単位としてカウントされない科目(「諸課程履修科目」等)は、もともと CAP 制から除外されています。

## 自動登録科目

1 回生対象の必修科目の一部や卒業回生で履修する卒業論文又は卒業研究などは、自動登録されます。履修登録期間中、履修登録画面で既に科目が登録されている状態になります。各自で履修登録の手続きを行う必要はありません。(事情があつて自動登録対象科目を履修しない場合は履修登録期間中に各自で登録された科目を削除してください。)

自動登録の対象科目については、P.11 の表で確認してください。

### 自動登録科目の注意点

※1回生の必修科目の一部は自動登録されますが、2・3・4回生対象の必修科目は履修登録期間に各自で登録する必要がありますので、注意してください。(2回生以上の学生が1回生対象の科目を再履修する場合も、各自で登録する必要があります。)

卒業回生は、「卒業論文」又は「卒業研究」が自動登録の対象となります。

※1回生対象科目のうち、自動登録される科目は新入生ガイダンスでお知らせします。

※自動登録対象科目は、年度により変更になる可能性があります。変更があつた場合は京女ポータル等で事前にお知らせします。

## 予備登録科目

2 回生以上を対象とした一部の科目には、4 月の履修登録期間より前に予備登録をしておかなければならないものがあります。例年、3 月下旬に登録期間を設けており、期間外の登録はできません。

予備登録期間や対象科目はあらかじめ(次年度時間割発表日頃)京女ポータルでお知らせしますので、必ず確認してください。

予備登録対象科目を定められた期間に予備登録しなかった場合、当該科目は履修できませんので注意してください。

## 再履修

不合格になった科目や、開講年次に履修登録できなかった科目は、次年度に履修(再履修)することができます。複数の学科で開講されている共通領域科目及び諸課程履修科目が不合格になった場合は、以下の履修方法に従って再履修してください。

科目名	再履修の方法
仏教学 英語 運動と健康科学 スポーツ実践(*)	所属学科・専攻で開講されている授業を履修することが原則です。 下回生の科目は、クラスを自由に選択することができます。 ただし、履修すべき必修科目等と時間割が重なった場合は、他学部・他学科開講授業の履修も認めます。 (*)「スポーツ実践」は、初回の授業で実技の種目を決めます。
初修外国語 ・ドイツ語 ・フランス語 ・中国語 ・コリア語	所属学科・専攻で開講されている授業を履修することが原則です。 下回生の科目は、クラスを自由に選択することができます。 ただし、履修すべき必修科目等と時間割が重なった場合は、他学部・他学科開講授業の履修も認めます。 また、前期・後期を変更して開講する「再履修クラス」を受講することもできます。
情報リテラシー基礎	再履修クラスを登録して履修してください。(開講時期は同じです。) ただし、履修すべき必修科目等と時間割が重なった場合は、所属学科・専攻の通常クラス又は他学部・他学科開講授業の履修も認めます。
諸課程履修科目	所属学科・専攻で開講されている授業を履修してください。 <u>他学科・専攻で開講している授業は履修登録できません。</u> 履修すべき必修科目等と時間割が重なり、所属学科・専攻で開講されている授業を履修できない場合は、教務課に相談してください。

# 他大学で修得した単位の認定について

大学コンソーシアム京都の単位互換制度、国内協定大学留学制度、海外協定大学留学制度等を利用し、他大学又は短期大学で修得した単位を本学の卒業に必要な単位に含めることができます。

卒業に必要な単位に含めることができる単位数の上限は、外国語検定試験により認定を受けた科目等（P.13 参照）の単位数と併せて **60 単位**までです。

## 大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

### ◆単位互換科目（他大学の授業科目）の受講方法

大学コンソーシアム京都の単位互換包括協定に加盟している大学の学生が、他の加盟大学が開講する科目を履修でき、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度です。この制度を利用して受講することができる科目を単位互換科目といいます。

**単位互換科目の受講は、2 回生から 4 回生前期の期間のみ可能です。**

年度始めの 4 月初旬に、単位互換科目の受講を希望する学生を対象とした履修ガイダンスを行い、受講するために必要な手続き等について説明します。

### ◆単位互換科目の受講に関する注意事項

- ・大学コンソーシアム京都の単位互換制度を利用して修得した単位は、共通領域の科目区分「他大学単位修得科目」の修得単位としてカウントされます。
- ・単位互換科目は、履修登録後に登録を取り消すことができません。
- ・単位互換科目の単位数も、CAP 制（1 年間に登録できる単位数の上限）に含まれます。（※）
- ・他大学で開講される教職関連科目の単位を修得しても、本学における教員免許取得のための単位として扱うことはできません。
- ・単位互換科目は再試験の対象にはなりません。卒業回生は注意してください。  
（再試験については、履修要項第 31～36 条を確認してください。）

（※）外国語認定科目等（P.13 参照）の単位数と併せて 60 単位を超えるものについては、卒業に必要な単位に含まれない為 CAP 制の対象外となります。

## 国内留学制度について

本学と協定を結んだ国内の大学に一年間又は半年間留学する制度を利用した場合、本学に学費を支払うことで留学先の学費が免除されます。

協定大学への留学期間は本学在学期間とみなされるため、休学することなく 4 年で卒業を目指すことができます。また、留学先での修得単位の一部（上限あり）は、授業内容に応じて本学における履修科目の単位として認定されます。

詳細については教務課にお問い合わせください。

## 海外協定大学留学制度について

本学と協定を結んだ海外の大学に一年間又は半年間留学する「協定大学留学」には、留学期間中の本学の学費相当額が協定留学生奨学金として給付される「派遣留学」と、本学に学費を支払うことで留学先の学費が免除される「交換留学」の 2 種類があります。

協定大学への留学期間は本学在学期間とみなされるため、休学することなく 4 年で卒業を目指すことができます。また、留学先での修得単位の一部（上限あり）は、授業内容に応じて本学における履修科目の単位として認定されます。

詳細については国際交流課にお問い合わせください。

# 授業科目の構成・カリキュラム表の見方

## 必選の別

「必」…卒業要件となる必修科目  
「選」…選択科目または選択必修科目

## ナンバリング

P. 10 参照

## 単位数計

P. 3 参照

## 開講学期と単位数

P. 9 参照

## カリキュラムマップ

P. 9 参照

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ						備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解	知識	汎用的技能	判断・思考	相互理解・対話	社会性・自律性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
A11111001	仏教学 I A	必	2	2									◎					○	アドバンスト科目 修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。
A11111002	仏教学 I B	必	2		2								◎					○	
A11311003	仏教学 II A	必	2					2					◎					○	
A11311004	仏教学 II B	必	2						2				◎					○	
A13212005	現代と仏教A	選	2			2							◎					○	
A13212006	現代と仏教B	選	2				2						◎					○	
A11212007	仏教文学A	選	2			2							◎		○				
A11212008	仏教文学B	選	2				2						◎		○				
A11212009	仏教文化A	選	2				2						◎		○				
A11212010	仏教文化B	選	2					2					◎		○				
F15332003	職業体験実習	選	2						2						○		◎	○	

通年科目

## 開講学期と単位数

開講学期と単位数の欄には、履修可能回生と、開講される時期（前期・後期）に単位数が記載されています。

1年を通して履修する「通年」の科目は、前期・後期のマスが1つになり、単位数が記載されています。（例：「職業体験実習」）

また、各回生を前期・後期に分け、4年間で8つの区分に分けた名称を「セメスター」といいます。例えば、1回生前期は「1セメスター」、3回生後期は「6セメスター」といいます。

## カリキュラムマップ

カリキュラムマップは、学位授与の方針に基づく6つの能力と個々の授業科目（群）との関連性を示したものです。科目一覧表には、各科目においてそれぞれの能力と特に深い関連性のある項目は「◎」、ある程度関連性のある項目は「○」を付しています。

各学科・専攻の学位授与の方針については「IV.履修要項等諸規則」のP.130に掲載しています。

### 1. 知識・理解

- ①専門分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
- ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
- ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力を有している。

### 2. 汎用的技能

- ①日本語を正確に理解・表現できる。
- ②母語以外の特定の外国語が運用できる。
- ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
- ④情報通信技術(ICT)を活用することができる。

### 3. 思考・判断

- ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
- ②専門分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
- ③主体的に課題を発見・解決できる。

### 4. 対話・相互理解

- ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度による対話ができる。
- ②対話・議論を通して、他者（異文化も含めて）との相互理解・協調に努めることができる。

### 5. 社会性・自律性

- ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
- ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
- ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
- ④適切なリーダーシップを発揮できる。
- ⑤専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

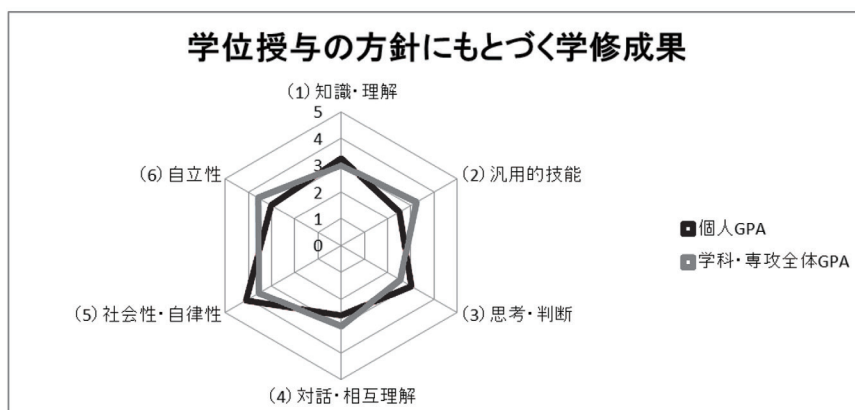
### 6. 自立性

- ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

## ーカリキュラムマップを活用した学修成果の可視化についてー

修得した科目の成績から算出された6つの能力ごとのGPAの数値を線でつなぎ、レーダーチャートに表したグラフを、学修ポートフォリオで確認することができます。

学修成果を視覚的に確認することにより、自身の強みや弱みを知り、履修科目の検討、進路決定や就職活動等に活用することができます。



# ナンバリング

ナンバリングは、学修の順序や当該科目の位置付け・体系性を視覚化するため、全ての開講科目に規則的な番号を付番したものです。

**例)国文学科開講科目「国文学基礎講座 A」**

L1   1   1   1   1   001  
 ①   ②   ③   ④   ⑤   ⑥

①:開講元ごとに付与する英字+数字の記号 (例)L1…国文学科  
 ②:学位授与の方針に示された6つの能力のうち、カリキュラムマップが示す、科目と最も関連性の深い能力の区分 (例)1…知識・理解  
 ③:開講年次に合わせて4種類に区分 (例)1…1回生  
 ④:開講形態に合わせて4種類に区分 (例)1…講義  
 ⑤:卒業要件に対して必修もしくは選択に区分 (例)1…必修(※)  
 ⑥:整理番号(単位修得要領に掲載される科目の順番に付番)

(※)卒業要件としての必修・選択を示し、履修要項の「必選の別」に合わせます。

## ①開講元識別

共通領域	仏教学	A1	
	言語コミュニケーション科目	B1	(英語)
		B2	(ドイツ語)
		B3	(フランス語)
		B4	(中国語)
		B5	(コリア語)
		B6	(日本語)
	情報コミュニケーション科目	C1	
	健康科学科目	D1	
	京女の教養学	E1	
キャリア形成科目	F1		
連携活動科目	G1		
専門領域	文学部共通専門科目	L0	
	国文学科専門科目	L1	
	英文学科専門科目	L2	
	史学科専門科目	L3	
	教育学科共通科目	M0	
	教育学専攻専門科目	M1	
	養護・福祉教育学専攻専門科目	M2	
	音楽教育学専攻専門科目	M3	
	児童学科専門科目	M4	
	心理学科専門科目	M5	
	食物栄養学科専門科目	N1	
	生活造形学科専門科目	N2	
	現代社会学科専門科目	P1	
	法学科専門科目	Q1	
諸課程	教職課程科目	V1	
	学芸員課程科目	V2	
	司書課程科目	V3	
	日本語教師課程	V4	
	学校司書課程	V5	

## ②学位授与の方針との関連識別

知識・理解	1
汎用的技能	2
思考・判断	3
対話・相互理解	4
社会性・自律性	5
自立性	6

※諸課程科目はカリキュラムマップが設定されていない為、「0」と表示されます。

## ③開講学年識別

1回生	1
2回生	2
3回生	3
4回生	4

## ④授業形態識別

講義	1
演習・講読	2
実験・実習	3
その他(卒業論文・卒業研究)	5

## ⑤必選識別

必修	1
選択	2

## 各科目区分の履修登録に伴う確認一覧表

領域	科目区分	卒業に必要な単位に含まれる科目	CAP 制対象科目	自動登録	自動登録対象科目
共通領域	仏教学	○	○	○	1回生 必修科目
	言語コミュニケーション科目	○	○ <sup>(※1)</sup>	○	1回生 必修科目
	情報コミュニケーション科目	○	○	○	1回生 必修科目
	健康科学科目	○	○	○	1回生 必修科目
	京女の教養学	○	○	×	-
	キャリア形成科目	○	○ <sup>(※1)</sup>	×	-
	連携活動科目	○	○	×	-
	学科・専攻開放科目	○	○	×	-
	他大学単位修得科目 (P.7)	○	○	×	-
専門領域	専門科目	○	○ <sup>(※1)</sup>	○ <sup>(※2)</sup>	<1回生> ・必修科目(学科・専攻により対象外の科目有り) <卒業回生> ・「卒業論文」又は「卒業研究」
その他	諸課程履修科目	×	対象外	△ <sup>(※2)</sup>	教員免許状取得希望者のみ「教育実習」を自動登録

(※1) 一部、CAP 制の対象外となる科目があります。詳細は P.5 を確認してください。

(※2) 教員免許状の取得を目指す学生が履修する「教育実習」は、全回生自動登録の対象となります。発達教育学部教育学科・児童学科の場合、「教育実習」を専門科目として履修しますが、その他の学部・学科の場合は諸課程履修科目として履修します。(いずれも自動登録の対象となります。)

## シラバスについて

シラバスとは、授業を担当する教員が授業科目の目的や授業計画、成績評価方法・基準、準備学修等について記した講義概要です。シラバスは京女ポータルから閲覧できます。教科書や参考書購入の有無についても掲載されているので、履修予定の授業科目のシラバスは事前に必ず確認してください。

## 授業科目の不開講について

履修登録期間終了時点で受講者数が 4 名以下の授業科目については、不開講となる場合があります。不開講となった科目は登録が削除されます。(該当者には京女ポータルで個別に連絡します。)

## ■ 入学前既修得単位や語学検定試験の単位認定について

1. 京女高大連携科目履修により修得した単位の認定
2. 本学入学前に他大学で修得した単位の認定（編入学を除く）
3. 外国語検定等による単位の認定

本学入学前に大学等において修得した単位や、語学検定等において基準となる点数を取得した場合は、本学の授業科目に読み替えて単位を認定することができます。

単位が認定された科目については、本学入学後に改めて同じ科目を履修する必要はなく、「入学後に他大学で修得した単位（P.7参照）」と併せて60単位を上限として卒業に必要な単位に含めることができます。

単位の認定を希望する場合は、所定の期間内に教務課に必要書類を提出してください。申請受付の日程等の詳細は、京女ポータルに掲示します。

### 認定単位（本学の授業科目に読み替えた単位）の扱いについて

- ・認定単位は、CAP制の対象外となります。
- ・認定単位は成績表に「N」と記載されます。GPAの算出対象からは除外されます。

#### 1. 京女高大連携科目履修により修得した単位の認定

京女高大連携科目とは、本学と京都女子高等学校で締結された協定に基づき、京都女子高等学校の生徒が受講できる本学の授業科目のことを言います。

京都女子高等学校在学中に京女高大連携科目を受講し、**本学入学後（2020年4月初旬）**に教務課に申請書を提出すれば、単位が認定されます。

受講した京女高大連携科目が、本学の入学先学科・専攻で開講されていない科目であった場合は、単位は認定されません。

#### 2. 本学入学前に他大学で修得した単位の認定（編入学を除く）

本学入学前に大学または短期大学において修得した単位を、本学の授業科目に読み替えて単位認定します。認定を希望する場合は、**本学入学後（2020年4月初旬）**に教務課に申請書を提出してください。（申請には当該科目の成績がわかる「成績証明書」及び「シラバス」が必要です。）

認定単位の上限は30単位です。（他の入学前既修得単位や語学検定試験の認定単位の上限60単位に含まれます。）



### 3. 外国語検定等による単位の認定

#### (1) 入学前に外国語検定等に合格又は基準となる点数を取得した場合

1 回生を対象として、本学入学前に英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の外国語検定試験等に合格又は基準となる点数を取得した場合は、本学の授業科目に読み替えて単位を認定することができます。

外国人留学生の場合は、本学入学前に「日本語能力試験」又は「日本留学試験（日本語）」において合格又は基準となる点数を取得した場合は、「日本語 I A1」、「日本語 I A2」、「日本語 I B1」、「日本語 I B2」の単位（合計 4 単位）を認定することができます。

単位の認定を希望する者は、2020 年 4 月初旬に成績を証明する書類の写しと印鑑を持参して教務課に申し出てください。

#### (2) 入学後に外国語検定等に合格又は基準となる点数を取得した場合

本学入学後、2020 年度中（1 回生時）に英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の外国語検定試験等に合格又は基準となる点数を取得した場合は、本学の授業科目に読み替えて単位を認定することができます。単位の認定を希望する者は、**2020 年 9 月初旬又は 2021 年 4 月初旬**に成績を証明する書類の写しと印鑑を持参して教務課に申し出てください。

また、外国人留学生が本学の「日本語プログラム科目」を履修して必要な単位を修得した場合、当該修得単位を初修外国語（日本語）の単位として認定することができます。

**外国語検定試験の単位認定基準は、巻末（P. 147）に掲載しています。**

# 履修登録確認表の見方

履修登録確認表は前期・後期の履修登録（修正）期間に行った登録内容を確認するためのものです。履修登録時に取得希望申請を行った免許・資格も記載されます。

自分が履修登録した内容に間違いがないかを必ず確認してください。

履修登録（修正）期間後、Campusmate-J からダウンロードできます。

## 【例：3回生 4月履修登録時点の「履修登録確認表」】

**期間・曜日講時・講義コード・講義名**

**担当教員名**

※1つの科目を複数で担当している場合（オムニバス講義）は、代表の先生のみ表示されます。

履修年度:2021年度  
学年 :3  
学籍番号:19211000 東山 花子  
所属 :文学部 国文学科

履 修 登 録 確 認 表

期間	曜日時限	講義名	担当教員名	教室名	得点	評価	単位	エラー情報
前期	月2講時	#### 音楽言語学	〇〇〇〇				2	
前期	月4講時	#### 国文学特殊講義3A	〇〇〇〇	(例)	85	A	2	
前期	火1講時	#### 演習1A(中世)	〇〇〇〇				2	
前期	火2講時	#### 現代と仏教A	〇〇〇〇				2	
前期	水2講時	#### 日本文化特殊講義A	〇〇〇〇				2	
前期	水3講時	#### 仏教学IIA	〇〇〇〇				2	
前期	木2講時	#### 図書館情報技術論	〇〇〇〇				2	
前期	木4講時	#### 国文学特殊講義4A	〇〇〇〇				2	
前期	金5講時	#### 演習1A(近世)	〇〇〇〇				2	
後期	月2講時	#### 国文学特殊講義3B	〇〇〇〇				2	
後期	月3講時	#### 現代と仏教B	〇〇〇〇				2	
後期	火1講時	#### 演習1B(中世)	〇〇〇〇				2	
後期	火2講時	#### 教養科目C(京都を学ぶ)	〇〇〇〇				2	
後期	水2講時	#### 日本文化特殊講義B	〇〇〇〇				2	
後期	水3講時	#### 仏教学IIB	〇〇〇〇				2	
後期	木2講時	#### 社会心理学	〇〇〇〇				2	
後期	木4講時	#### 音楽心理学	〇〇〇〇				2	
後期	金2講時	#### 国文学特殊講義1B	〇〇〇〇				2	
後期	金5講時	#### 演習1B(近世)	〇〇〇〇				2	

**後期履修登録修正時（9月）の確認表には、前期の成績（「得点」「評価」）が表示されます。**

**修得単位履修登録状況欄（★）**

自分の単位修得状況を確認することができます。

表の見方については次のページを参照してください。

		前期	後期	エラー情報	
単位数	上限	16	18		34
	下限				

累計条件	卒業要件	修得済	履修中	合計単位	不足
仏教学(必修)	8	4	4	8	8
英語(必修)	4	4		4	4
初修外国語(必修)	4	4		4	4
情報コミュニケーション科目(必修)	2	2		2	2
健康科学(必修)	2	2		2	2
共通領域(選択)	6	6		6	6
専門領域(必修)	26	16		16	10
専門領域(選択)	46	30	16	46	
その他卒業に必要な単位(選択)	34	16	14	30	4
卒業要件(合計)	132				
総修得単位数【(※)卒業要件以外の単位も含む。】					
共通領域修得単位		28	14	42	
専門領域修得単位		56	20	76	
諸課程・随意(卒業要件外)		24	4	28	
総修得単位数(合計)		108	38	146	

**資格申請情報**

資格名	申請年度	資格名	申請年度
図書館司書	2019		

### 資格申請情報

取得希望申請を行った免許・資格が反映されます。

※ 履修登録確認表の様式は変更になる場合があります。

14

－ P.14 履修登録確認表の修得単位履修登録状況欄 (★) の見方 －

$$\textcircled{2} + \textcircled{3} = \textcircled{4}$$

(修得済) (履修中) (合計単位)

「④合計単位」数は「①卒業要件」単位数を超えて表示されることはありません。

$$\textcircled{1} - \textcircled{4} = \textcircled{5}$$

(卒業要件) (合計単位) (不足単位)

集計条件	① 卒業要件	② 修得済	③ 履修中	④ 合計単位	⑤ 不足
仏教学 (必修)	8	4	4	8	
英語 (必修)	4	4		4	
初修外国語 (必修)	4	4		4	
情報コミュニケーション	2	2		2	
健康科学 (必修)	2	2		2	
共通領域 (選択)	6	6		6	
専門領域 (必修)	26	16		16	10
専門領域 (選択)	46	30	16	46	
その他卒業に必要な単位 (選択)	34	16	14	30	4
卒業要件単位数 (合計)	132				
【総修得単位数】(※) 卒業要件以外の単位も含む。					
共通領域修得単位		28	14	42	
専門領域修得単位		56	20	76	
諸課程・随意 (卒業要件外)		24	4	28	
総修得単位数 (合計)		108	38	146	

単位数は学科・専攻によって異なります。  
(P. 18 参照)

入学してからこれまでに修得した単位数の集計欄です。  
卒業要件以外の単位も全て含めた合計単位数が表示されます。

共通領域 (選択) <6 単位> を超えた単位数 + 専門領域 (選択) <46 単位(※)> を超えた単位数  
(※) 単位数は学科・専攻によって異なります。



## ②成績通知書の単位修得状況欄

自分の単位修得状況を確認することができます。

① (必要) — ② (修得済) = ③ (未修得)

「②修得済」単位数は「①必要」単位数を超えて表示されることはありません。

※履修中の科目は未修得としてカウントされます。

単位修得状況	①	②	③
	必要	修得済	未修得
仏教学 (必修)	8	6	2
英語 (必修)	4	4	
初修外国語 (必修)	4	4	
情報コミュニケーション科目 (必修)	2	2	
健康科学 (必修)	2	2	
共通領域 (選択)	6	6	
専門領域 (必修)	26	16	10
専門領域 (選択)	46	40	6
その他卒業に必要な単位 (選択)	34	22	14
卒業要件単位数 (合計)	132		
【総修得単位数】(※)卒業要件以外の単位も含む。			
共通領域修得単位	-	34	-
専門領域修得単位	-	66	-
諸課程・随意 (卒業要件外)	-	26	-
総修得単位数 (合計)		126	-

単位数は学科・専攻によって異なります。(P.18参照)

入学してからこれまでに修得した単位数の集計欄です。  
ここでは卒業要件の132単位に含まれない単位も全て含まれています。

共通領域 (選択) <6単位> を超えた単位数 + 専門領域 (選択) <46単位(※)> を超えた単位数  
(※)単位数は学科・専攻によって異なります。

※成績通知書は、学期ごとに保護者宛に送付します。

## 学科・専攻別 専門科目 必修・選択単位数

卒業に必要な単位数（132 単位）のうち、専門科目からは必修・選択合わせて 72 単位必要ですが、専門科目の必修単位数・選択単位数は学部・学科・専攻ごとに異なります。

学科(専攻)	必修単位数	選択単位数	学科(専攻)	必修単位数	選択単位数
国文学科	26	46	児童学科	44	28
英文学科	36	36	心理学科	30	42
史学科	22	50	食物栄養学科	48	24
教育学専攻	35	37	生活造形学科	20	52
養護・福祉教育学専攻	28	44	現代社会学科	26	46
音楽教育学専攻	42	30	法学科	28	44

※選択単位数には「選択必修」も含まれます。

## 現代社会学科の単位修得状況の見方

専門科目の中にあるクラスター科目の履修方法は以下の通りです。

①主選択クラスターから 12 単位 ②副選択クラスターから 10 単位 ③全クラスターから 4 単位	合計 26 単位以上修得
--	--------------

各専攻で決められたクラスターの条件を満たした時点で、【専門領域（選択）】の修得済み単位として計算されます。

### ①主選択クラスター（12 単位）

#### 【現代社会専攻】

「人間・環境」  
「心理・文化」  
「家族・地域社会」  
「政治・公共政策」  
「経済・ビジネス」

5つのうち修得単位数が最も多いクラスターを主選択として計算。

#### 【国際社会専攻】

「国際社会」を主選択クラスターとして計算

#### 【情報システム専攻】

「情報」を主選択クラスターとして計算

### ②副選択クラスター（10 単位）

主選択クラスターを除く全クラスターのうち、修得単位数が最も多いクラスターを副選択として計算します。

修得済み単位として反映されるのは、10 単位以上修得してからです。10 単位未満のとき、修得単位は表示されません。

### ③全クラスターから（4 単位）

全クラスターの中から、修得済み単位のいずれか 4 単位を計算。

※主選択や副選択で選んだクラスターも含む。

修得済み単位として反映されるのは、4 単位以上修得してからです。4 単位未満のとき、修得単位は表示されません。

# 成績評価について

## 成績評価

授業科目の成績評価は、試験やレポート、平常成績等を総合して判断し、上位より SS、S、A、B、C 及び D をもって表示します。(履修要項第 41 条)

また、それぞれの成績評価の GP (グレードポイント) から算出した単位当たりの平均値 (GPA) を成績通知書に記載します。(履修要項第 42 条)

## GPA

GPA とは「Grade Point Average」の略で、履修登録したすべての科目の成績評価を GP に置き換え、算出した平均値 (Average) のことをいいます。教職課程の履修、奨学金受給者の選出や就職活動、留学生選考等に使用する大切な基準です。

- ・卒業要件に含まれない科目の成績も GPA の計算に含まれます。
- ・100 点満点の採点を行わず、成績評価を「合格 (G) 又は不合格 (D)」、「認定 (N)」で表記する科目は GP が算出できないため、GPA の算出対象科目から除外します。

### (1) GP (Grade Point) 算出方法

100 点満点による採点結果 (素点) から GP を求めます。

$$GP = \text{採点結果 (素点)} \times 1/10 - 5$$

種別	採点結果	成績評価	GP	判定の基準
合格	100 点	SS	5.0	授業科目の目標を完全に達成している。
	90 点～99 点	S	4.0～4.9	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
	80 点～89 点	A	3.0～3.9	授業科目の目標を相応に達成している。
	70 点～79 点	B	2.0～2.9	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
	60 点～69 点	C	1.0～1.9	授業科目の目標の最低限を満たしている。
	G	G	—	100 点法では評価できない科目の合格。(※)
不合格	D 0 点～59 点	D	0.0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
単位認定合格	N	N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

(※) 教職実践演習及び教育実習等の学外実習・研修にかかる授業科目の成績評価は、G、D をもって表わし、G を合格とする。

### (2) GPA の算出方法

$$GPA = \frac{[(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得た GP})] \text{ の総和}}{(\text{登録科目の単位数}) \text{ の総和}}$$

## 学修面談

GPA が一定基準 (※) を下回った場合、本学教員による面談を受けなければなりません。(履修要項第 42 条の 2)

(※) GPA の基準 (GPA の基準は変更になる可能性があります。)

- ・当該学期の GPA が 2.0 未満の場合
- ・その他、学科・専攻において特に面談が必要と認めた場合

# 京都女子大学副専攻プログラム

副専攻プログラムとは、学部・学科等の専門領域以外の特定分野や特定課題について、授業科目を体系的に編成したプログラムであり、複眼的な視野を持って社会で活躍する人材を育成することを目的とした、全学共通のプログラムです。

2020年度入学生の副専攻プログラムには『仏教プログラム』と『女性地域リーダー養成プログラム』があります。それぞれに定められた科目を履修し単位を修得することで、当該副専攻プログラムの「修了証」が授与されます。

## 履修方法

各副専攻プログラムの修了に必要な科目は全て共通領域の科目であり、全学生が履修することができます。また、修得した単位は卒業要件に含めることができます。

各副専攻プログラムの科目表は P.21～P.22 に掲載しています。

※副専攻プログラムの履修は、申込みの必要はありません。また、履修にかかる費用等も発生しません。各副専攻プログラムの科目表に従い、4年間で所定の科目を履修してください。

## 修了証の授与

副専攻プログラムを修了した学生に対して、その学修成果を認定し、京都女子大学副専攻プログラム修了証が学長より授与されます。修了証の発行を希望する者は、3回生終了時又は4回生終了時に修了証発行申請を行う必要があります。

### 修了証発行申請時期と修了証授与時期について

3回生終了時（2023年3月）に申請 ⇒ 4回生4月に授与  
4回生終了時（2024年3月）に申請 ⇒ 卒業式に授与

※修了証は再発行できません。

※成績表に副専攻プログラム名は掲載されません。履修した科目は、副専攻プログラムとしてではなく、共通領域の科目として掲載されます。

※副専攻プログラムの修了を証明するものは「修了証」のみとなります。

### 京都女子大学副専攻プログラム規程

(目的)

第1条 この規程は、京都女子大学学則第14条の2の規定に基づき、京都女子大学副専攻プログラム（以下、「副専攻」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(副専攻の区分及び修得単位)

第2条 副専攻の区分及び修了に必要な単位数は、別に定める。

(履修)

第3条 副専攻の履修に必要な手続きについては、本学の履修要項を準用する。

(修了認定)

第4条 副専攻の修了認定は、当該プログラムを運営するセンター・研究所または委員会の判定を経て、学長が行う。

2 学長は、副専攻の修了認定を受けた者に修了証を授与する。

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、大学部局長会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学生から適用する。



## 京都女子大学副専攻 仏教プログラム

本学は親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく教育を建学の精神に掲げています。その理念を達成するうえで、仏教学の学修は中核に位置づけられます。必修科目で学ぶ基礎的な知識とともに、より発展的・実践的な科目群において学びを深め、体系的な学修を行うことで、自己と社会のあり方を深く洞察できる心豊かな人間を育成することを目的としています。

### 到達目標

必修科目である「仏教学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」において、釈尊と親鸞聖人の生涯及びその教えについて基礎的な知識を修得します。加えて、仏教の思想と文化、あるいは現代社会の諸問題を仏教的視点から考察する「アドバンスト科目」および指定された科目を履修し、体系的な知識を修得することを目指します。これにより仏教を通じて自己と社会のあり方を問う視点を身につけます。

### 仏教プログラム 科目表

卒業必修科目 8 単位を含めて合計 16 単位以上修得すること。

科目名	単位数	科目区分	備考	
仏教学ⅠA	2	仏教学 卒業必修科目	8 単位必修	
仏教学ⅠB	2			
仏教学ⅡA	2			
仏教学ⅡB	2			
現代と仏教A	2	仏教学 アドバンスト科目	合計 8 単位以上 修得すること	
現代と仏教B	2			
仏教文学A	2			
仏教文学B	2			
仏教文化A	2			
仏教文化B	2			
仏教思想A	2			
仏教思想B	2			
外国語で読む仏教A	2			
外国語で読む仏教B	2			
地域と仏教演習	2			
社会と仏教特論	2			
日本文化特殊講義A	2			学科・専攻開放科目 (国文学科提供)
日本文化特殊講義B	2			
合計 16 単位以上修得すること。				

## 京都女子大学副専攻 女性地域リーダー養成プログラム

女性地域リーダー養成プログラムは、各学科・専攻で修得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域のリーダーとなりうる女性の養成を目的としています。

### 到達目標

導入科目である「連携活動入門」では、大学・企業をはじめとして社会全体で連携活動が求められている背景、及び連携活動に従事するにあたって知っておくべき基礎知識を学びます。連携活動科目及び指定された科目の履修を通して、各種の連携活動に関する専門知識を修得します。

「連携課題研究」において、連携活動に求められる実践力の涵養を図ります。連携活動を体系的に学ぶことによって、地域社会の担い手として、地域社会が抱える諸課題を考察し、その解決に対応できる科学的思考力を身につけます。

### 女性地域リーダー養成プログラム 科目表

必修科目を含めて合計 12 単位以上修得すること。

科目名	単位数	科目区分	備考
連携活動入門	2	連携活動科目	2 単位必修
地域連携講座 A 1	2		地域連携講座 1 科目、産学連携講座 1 科目を含む計 4 科目 8 単位以上修得すること
地域連携講座 A 2	2		
地域連携講座 B 1	2		
地域連携講座 B 2	2		
産学連携講座 A 1	2		
産学連携講座 A 2	2		
産学連携講座 A 3	2		
産学連携講座 B 1	2		
産学連携講座 B 2	2		
産学連携講座 B 3	2		
地域社会学	2	学科・専攻開放科目 (現代社会学科提供)	
民俗文化論	2		
教養科目 C (京都を学ぶ)	2	京女の教養学	
連携課題研究	2	連携活動科目	2 単位必修
合計 12 単位以上修得すること			

## II. 履修科目表・カリキュラムマップ

---

### 目次

共通領域 (全学科・専攻共通の科目)	.....	P.26
諸課程履修科目 (全学科・専攻共通の科目)	.....	P.34
専門領域		
文学部	国文学科	..... P.39
	英文学科	..... P.42
	史学科	..... P.45
発達教育学部	教育学科 教育学専攻	..... P.50
	教育学科 養護・福祉教育学専攻	..... P.53
	教育学科 音楽教育学専攻	..... P.55
	児童学科	..... P.58
	心理学科	..... P.60
家政学部	食物栄養学科	..... P.62
	生活造形学科	..... P.64
現代社会学部	現代社会学科	..... P.68
法学部	法学科	..... P.74



# 共通領域

全学共通

仏教学

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・批判的思考・相互理解	社会性・自律性		自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
A11111001	仏教学 I A	必	2	2						◎					○	アドバンスト科目 修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。
A11111002	仏教学 I B	必	2	2						◎					○	
A11311003	仏教学 II A	必	2				2			◎					○	
A11311004	仏教学 II B	必	2				2			◎					○	
A13212005	現代と仏教A	選	2		2						◎				○	
A13212006	現代と仏教B	選	2			2					◎				○	
A11212007	仏教文学A	選	2		2					◎		○				
A11212008	仏教文学B	選	2			2				◎		○				
A11212009	仏教文化A	選	2		2					◎		○				
A11212010	仏教文化B	選	2			2				◎		○				
A11212011	仏教思想A	選	2		2					◎		○				
A11212012	仏教思想B	選	2			2				◎		○				
A11222013	外国語で読む仏教A	選	2		2					◎	○					
A11222014	外国語で読む仏教B	選	2			2				◎	○					
A11222015	地域と仏教演習	選	2			2				◎			○			
A15212016	社会と仏教特論	選	2			2				○				◎		

言語コミュニケーション科目

「英語」と「ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語のうち一外国語」のそれぞれにつき、I A1、I A2、I B1、I B2の合計8科目8単位を修得しなければならない。

英語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・批判的思考・相互理解	社会性・自律性		自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
B12121001	英語 I A1	必	1	1						○	◎					修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。
B12121002	英語 I A2	必	1	1						○	◎					
B12121003	英語 I B1	必	1		1					○	◎					
B12121004	英語 I B2	必	1		1					○	◎					
B12222005	英語 II A1	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222006	英語 II A2	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222007	英語 II A3	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222008	英語 II A4	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222009	英語 II A5	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222010	英語 II A6	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222011	英語 II A7	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222012	英語 II A8	選	1	(1)		1				○	◎					
B12222013	英語 II B1	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222014	英語 II B2	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222015	英語 II B3	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222016	英語 II B4	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222017	英語 II B5	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222018	英語 II B6	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222019	英語 II B7	選	1		(1)		1			○	◎					
B12222020	英語 II B8	選	1		(1)		1			○	◎					
B12322021	英語 III A1	選	1			(1)		1		○	◎					
B12322022	英語 III A2	選	1			(1)		1		○	◎					
B12322023	英語 III B1	選	1				(1)		1	○	◎					
B12322024	英語 III B2	選	1				(1)		1	○	◎					

ドイツ語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B22122025	ドイツ語 I A1	選	1	1								○	◎		○				ドイツ語を選択した者は必修
B22122026	ドイツ語 I A2	選	1	1								○	◎		○				
B22122027	ドイツ語 I B1	選	1		1							○	◎		○				
B22122028	ドイツ語 I B2	選	1		1							○	◎		○				
B22222029	ドイツ語 II A1	選	1	(1)		1						○	◎		○				修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。  ドイツ語Ⅲの単位を修得するためには、ドイツ語Ⅱ6科目のうち、ドイツ語ⅡA1を含む3科目の単位を修得しなければならない。
B22222030	ドイツ語 II A2	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B22222031	ドイツ語 II A3	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B22222032	ドイツ語 II B1	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B22222033	ドイツ語 II B2	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B22222034	ドイツ語 II B3	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B22322035	ドイツ語ⅢA1	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B22322036	ドイツ語ⅢA2	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B22322037	ドイツ語ⅢB1	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B22322038	ドイツ語ⅢB2	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B22422039	ドイツ語ⅢA3	選	1					(1)		1		○	◎		○				
B22422040	ドイツ語ⅢB3	選	1						(1)		1	○	◎		○				

フランス語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B32122041	フランス語 I A1	選	1	1								○	◎		○				フランス語を選択した者は必修
B32122042	フランス語 I A2	選	1	1								○	◎		○				
B32122043	フランス語 I B1	選	1		1							○	◎		○				
B32122044	フランス語 I B2	選	1		1							○	◎		○				
B32222045	フランス語 II A1	選	1	(1)		1						○	◎		○				修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。  フランス語Ⅲの単位を修得するためには、フランス語Ⅱ6科目のうち、フランス語ⅡA1を含む3科目の単位を修得しなければならない。
B32222046	フランス語 II A2	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B32222047	フランス語 II A3	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B32222048	フランス語 II B1	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B32222049	フランス語 II B2	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B32222050	フランス語 II B3	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B32322051	フランス語ⅢA1	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B32322052	フランス語ⅢA2	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B32322053	フランス語ⅢB1	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B32322054	フランス語ⅢB2	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B32422055	フランス語ⅢA3	選	1					(1)		1		○	◎		○				
B32422056	フランス語ⅢB3	選	1						(1)		1	○	◎		○				

中国語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B42122057	中国語 I A1	選	1	1								○	◎		○				中国語を選択した者は必修
B42122058	中国語 I A2	選	1	1								○	◎		○				
B42122059	中国語 I B1	選	1		1							○	◎		○				
B42122060	中国語 I B2	選	1		1							○	◎		○				
B42222061	中国語 II A1	選	1	(1)		1						○	◎		○				修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。  中国語Ⅲの単位を修得するためには、中国語Ⅱ6科目のうち、中国語ⅡA1を含む3科目の単位を修得しなければならない。
B42222062	中国語 II A2	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B42222063	中国語 II A3	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B42222064	中国語 II B1	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B42222065	中国語 II B2	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B42222066	中国語 II B3	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B42322067	中国語ⅢA1	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B42322068	中国語ⅢA2	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B42322069	中国語ⅢB1	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B42322070	中国語ⅢB2	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B42422071	中国語ⅢA3	選	1					(1)		1		○	◎		○				
B42422072	中国語ⅢB3	選	1						(1)		1	○	◎		○				

韓国語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B52122073	韓国語 I A1	選	1	1								○	◎		○				韓国語を選択した者は必修
B52122074	韓国語 I A2	選	1	1								○	◎		○				
B52122075	韓国語 I B1	選	1		1							○	◎		○				
B52122076	韓国語 I B2	選	1		1							○	◎		○				
B52222077	韓国語 II A1	選	1	(1)		1						○	◎		○				修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。 韓国語Ⅲの単位を修得するためには、韓国語Ⅱ6科目のうち、韓国語ⅡA1を含む3科目の単位を修得しなければならない。
B52222078	韓国語 II A2	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B52222079	韓国語 II A3	選	1	(1)		1						○	◎		○				
B52222080	韓国語 II B1	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B52222081	韓国語 II B2	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B52222082	韓国語 II B3	選	1		(1)		1					○	◎		○				
B52322083	韓国語ⅢA1	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B52322084	韓国語ⅢA2	選	1			(1)		1				○	◎		○				
B52322085	韓国語ⅢB1	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B52322086	韓国語ⅢB2	選	1				(1)		1			○	◎		○				
B52422087	韓国語ⅢA3	選	1					(1)		1		○	◎		○				
B52422088	韓国語ⅢB3	選	1						(1)		1	○	◎		○				

日本語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B62122099	日本語 I A1	選	1	1								○	◎		○				日本語は外国人留学生に限り履修することができる。
B62122100	日本語 I A2	選	1	1								○	◎		○				
B62122101	日本語 I B1	選	1		1							○	◎		○				
B62122102	日本語 I B2	選	1		1							○	◎		○				

外国人留学生は、言語コミュニケーション科目として母語を履修することはできない。  
 英語を母語とする外国人留学生は、「ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語」より二外国語を選択し、それぞれにつき、I A1、I A2、I B1、I B2を修得して言語コミュニケーション科目の必修単位(合計8科目8単位)とすること。

語学研修科目

修得単位のうち、8単位までを卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
B12122089	言語と文化1	選	2				2					○	◎		○				(英語 国内)
B12122090	言語と文化2	選	4				4					○	◎		○				(英語 カナダ)
B12122091	言語と文化3	選	4				4					○	◎		○				(英語 英国)
B12122092	言語と文化4	選	4				4					○	◎		○				(英語 オーストラリア)
B42122093	言語と文化5	選	4				4					○	◎		○				(中国語 中国)
B22122094	言語と文化6	選	4				4					○	◎		○				(ドイツ語 オーストラリア)
B32122095	言語と文化7	選	4				4					○	◎		○				(フランス語 フランス)
B52122096	言語と文化8	選	4				4					○	◎		○				(韓国語 韓国)
B12122097	言語と文化9	選	2				2					○	◎		○				(英語 米国:ハワイ)
B42122098	言語と文化10	選	2				2					○	◎		○				(中国語 台湾)

情報コミュニケーション科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
C12121001	情報リテラシー基礎	必	2	2								○	◎						
C12122002	情報リテラシー応用	選	2		2							○	◎						
C12222003	情報コミュニケーションA	選	2				2					○	◎						アドバンスト科目 修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。 アドバンスト科目は、情報リテラシー基礎の単位を修得しなければ履修できない。
C12222004	情報コミュニケーションB	選	2			2						○	◎						
C12222005	情報コミュニケーションC	選	2			2						○	◎						
C12222006	情報コミュニケーションD	選	2			2						○	◎						
C12222007	情報コミュニケーションE	選	2			2						○	◎						
C12222008	情報コミュニケーションF	選	2			2						○	◎						
C12222009	情報コミュニケーションG	選	2			2						○	◎						
C12222010	情報コミュニケーションH	選	2			2						○	◎						



健康科学科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解		対話・自律性・社会性	自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
D15111001	運動と健康科学	必	2	2	(2)											◎	
D15132002	スポーツ実践	選	1	1	(1)											◎	

京女の教養学

修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解		対話・自律性・社会性	自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
E11112001	教養科目A(文学と思想1)	選	2	2						◎							
E11112002	教養科目A(文学と思想2)	選	2	2						◎							
E11112003	教養科目A(言語と文化1)	選	2	2						◎							
E11112004	教養科目A(言語と文化2)	選	2	2						◎							
E11112005	教養科目A(歴史と文化1)	選	2	2						◎							
E11112006	教養科目A(歴史と文化2)	選	2	2						◎							
E11112007	教養科目A(芸術と表現1)	選	2	2						◎							
E11112008	教養科目A(芸術と表現2)	選	2	2						◎							
E11112009	教養科目A(市民と社会1)	選	2	2						◎							
E11112010	教養科目A(市民と社会2)	選	2	2						◎							
E11112011	教養科目A(福祉とくらし1)	選	2	2						◎							
E11112012	教養科目A(福祉とくらし2)	選	2	2						◎							
E11112013	教養科目A(心とからだ1)	選	2	2						◎							
E11112014	教養科目A(心とからだ2)	選	2	2						◎							
E11112015	教養科目A(環境と生命1)	選	2	2						◎							
E11112016	教養科目A(環境と生命2)	選	2	2						◎							
E11112017	教養科目A(数と情報1)	選	2	2						◎							
E11112018	教養科目A(数と情報2)	選	2	2						◎							
E11212019	教養科目B(文学と思想3)	選	2		2					◎							
E11212020	教養科目B(文学と思想4)	選	2		2					◎							
E11212021	教養科目B(言語と文化3)	選	2		2					◎							
E11212022	教養科目B(言語と文化4)	選	2		2					◎							
E11212023	教養科目B(歴史と文化3)	選	2		2					◎							
E11212024	教養科目B(歴史と文化4)	選	2		2					◎							
E11212025	教養科目B(芸術と表現3)	選	2		2					◎							
E11212026	教養科目B(芸術と表現4)	選	2		2					◎							
E11212027	教養科目B(市民と社会3)	選	2		2					◎							
E11212028	教養科目B(市民と社会4)	選	2		2					◎							
E11212029	教養科目B(福祉とくらし3)	選	2		2					◎							
E11212030	教養科目B(福祉とくらし4)	選	2		2					◎							
E11212031	教養科目B(心とからだ3)	選	2		2					◎							
E11212032	教養科目B(心とからだ4)	選	2		2					◎							
E11212033	教養科目B(環境と生命3)	選	2		2					◎							
E11212034	教養科目B(環境と生命4)	選	2		2					◎							
E11212035	教養科目B(数と情報3)	選	2		2					◎							
E11212036	教養科目B(数と情報4)	選	2		2					◎							
E11212037	教養科目C(京都を学ぶ)	選	2			2				◎							
E11212038	教養科目C(英語で京都を学ぶ)	選	2			2				◎							
E11212039	教養科目C(女性を生きる)	選	2			2				◎							
E11212040	教養科目C(くらしを科学する)	選	2			2				◎							
E11212041	教養科目C(多様な社会を理解する)	選	2			2				◎							

キャリア形成科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解		対話・自律性・社会性	自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
F15112001	キャリア開発 I	選	2	2						◎						◎	◎
F15212002	キャリア開発 II	選	2		2	(2)				◎						◎	◎
F15332003	職業体験実習	選	2				2				◎					◎	◎

### 連携活動科目

修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ						備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・思考・相互理解		社会性・自律性	自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
G15112001	連携活動入門	選	2	2							○			◎		
G15112002	地域連携講座A1	選	2	2							○			◎		
G15112003	地域連携講座A2	選	2	2							○			◎		
G15212004	地域連携講座B1	選	2		2						○			◎		
G15212005	地域連携講座B2	選	2		2						○			◎		
G15112006	産学連携講座A1	選	2	2							○			◎		
G15112007	産学連携講座A2	選	2	2							○			◎		
G15112008	産学連携講座A3	選	2	2							○			◎		
G15212009	産学連携講座B1	選	2		2						○	○	○	◎		
G15212010	産学連携講座B2	選	2		2						○			◎		
G15212011	産学連携講座B3	選	2		2						○			◎		
G15222012	連携課題研究	選	2			2								◎	○ 集中講義(演習)	

学科・専攻開放科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・思考・相互理解	社会的・自律性・自立性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
L3222096	東アジア史A	選	2		2					○	◎	○				文学部共通専門科目
L3222097	東アジア史B	選	2			2				○	◎	○				
L32212098	ヨーロッパ史A	選	2		2					○	◎	○				
L32212099	ヨーロッパ史B	選	2			2				○	◎	○				
L32212100	20世紀史A	選	2		2					○	◎	○				
L32212101	20世紀史B	選	2			2				○	◎	○				
L32112102	漢文A	選	2	2							◎		○			
L32112103	漢文B	選	2		2						◎		○			
L32222104	ラテン語A	選	2		2						◎		○			
L32222105	ラテン語B	選	2			2					◎		○			
L32212108	日本美術史A	選	2		2					○	◎					
L32212109	日本美術史B	選	2			2				○	◎					
L32212110	東洋美術史	選	2			2				○	◎					
L32212111	西洋美術史	選	2		2					○	◎					
L01212001	ことばとコミュニケーション	選	2		2					◎			○			
L01212002	中国文学史A	選	2		2					◎		○				
L01212003	中国文学史B	選	2			2				◎		○				
L01212004	近代フランス文学論	選	2			2				◎		○				
L01212005	朝鮮語史概論	選	2			2				◎		○				
L01212006	ドイツ文学論	選	2			2				◎		○				
L02222007	観光ドイツ語	選	2			2				○	◎					
L02222008	観光フランス語	選	2			2				○	◎					
L02222009	観光中国語	選	2			2				○	◎					
L02222010	観光コリア語	選	2			2				○	◎					
L11212011	国文学史2A	選	2		2					◎		○				国文学科
L11212012	国文学史2B	選	2			2				◎		○				
L11212013	国語史A	選	2		2					◎		○				
L11212014	国語史B	選	2			2				◎		○				
L13312067	日本文化特殊講義A	選	2				2			○	○	◎				
L13312068	日本文化特殊講義B	選	2					2		○	○	◎				
L21112023	英語学基礎講義	選	2	2						◎		○	○			英文学科
L23312047	ジェンダー批評	選	2				2			○		◎	○			
L32322023	日本古文書II A	選	2				2			○	◎	○				史学科
L32322024	日本古文書II B	選	2					2		○	◎	○				
L32422025	日本古文書II C	選	2						2	○	◎	○				
L32422026	日本古文書II D	選	2							2	○	◎	○			
M01312003	教育・福祉連携論	選	2					2		◎			○			教育学科
M14312074	多文化教育論	選	2					2		○		○	◎			教育学科 教育学専攻
M13212075	アートとメディアリテラシー教育	選	2		2					○		◎	○			
M11212079	ジェンダーと教育	選	2			2				◎		○		○		
M21312047	公衆衛生学	選	2				2			◎	○					教育学科 養護・福祉教育学専攻
M21412080	介護福祉論	選	2						2	◎						
M31312039	音楽音響学	選	2				2			◎						教育学科 音楽教育学専攻
M31312045	音楽心理学	選	2					2		◎		○				
M44112020	現代文化・芸術論	選	2		2					○			◎			児童学科
M51112008	医療倫理学	選	2		2					◎		○		○		心理学科
M53312035	生徒指導心理学	選	2					2				◎		○		
M53312036	発達障害児の心理と教育	選	2					2		○		◎	○			
M53312037	教育認知心理学	選	2						2	○		◎				
N11412071	食空間プロデュース論	選	2						2	◎						食物栄養学科
N11412074	フードコーディネータ論	選	2						2	◎						
N21212048	西洋服飾史	選	2			2				◎		○				生活造形学科
N21312091	ファッション文化論	選	2					2		◎		○				

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理 解 ・ 知 識	技 能	判 断 ・ 思 考	相 互 理 解 ・ 対 話	社 会 性 ・ 自 律 性	自 立 性		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
P15212037	倫理学	選	2			2						○		○		◎			現代社会学科
P11212039	自然環境と生態系	選	2			2						◎	○	○					
P11212040	環境政策論	選	2			2						◎	○	○					
P11212041	生命倫理学	選	2				2					◎		○		○			
P11212042	生命の起源と進化	選	2				2					◎		○					
P11312044	多様性の生物学	選	2					2				◎	○						
P12312045	環境開発論	選	2					2				○	◎						
P11312046	応用倫理学	選	2						2			◎	○			○			
P12312047	エネルギーと環境	選	2						2			○	◎						
P13312048	環境社会学	選	2						2			○		◎					
P11212063	地域社会学	選	2			2						◎		○		○			
P12212066	民俗文化論	選	2				2					○	◎						
P11212117	現代イスラーム地域論	選	2				2					◎		○					
Q13312093	平和と女性	選	2					2				○		◎	○				法学科

# 諸課程履修科目

※修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができません。

諸課程履修科目

修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができない。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
V10112001	教職論	選	2	2	(2)									中学校教諭、高等学校教諭及び栄養教諭の免許状取得の所要資格を得るための「教職課程に関する科目」 ・教育職員免許状取得の所要資格を得るために必要な科目、単位及び必選の別については、別に定める免許状取得要領に従い履修すること。 ・発達教育学部における「教職課程に関する科目」は、各学科・専攻の専門科目を履修すること。  (生徒指導と教育相談)
V10112002	教育原論	選	2	2	(2)									
V10112003	教育心理学	選	2	2	(2)									
V10312004	教育行政学	選	2					2	(2)					
V10212005	教育課程論	選	2			2	(2)							
V10212006	特別支援教育論	選	1			1	(1)							
V10212007	道徳教育論	選	2			2	(2)							
V10312008	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	選	2					2	(2)					
V10212009	教育方法論	選	2			2	(2)							
V10312010	生徒指導論	選	2					2	(2)					
V10312011	進路指導論	選	2					2	(2)					
V10412012	教育実習論	選	1									1		
V10432013	教育実習	選	2									2		
V10432014	中学校教育実習	選	2									2		
V10422015	教職実践演習(中・高)	選	2									2		
V10212016	人権教育論	選	1			1	(1)							
V10212017	日本国憲法	選	2			2	(2)							
V10412018	栄養教育実習指導	選	1									1		
V10432019	栄養教育実習	選	1									1		
V10422020	教職実践演習(栄養教諭)	選	2									2		
V20112001	生涯学習概論	選	2	2	(2)									
V20212002	博物館概論	選	2			2								
V20212003	博物館経営論	選	2				2							
V20212004	博物館資料論	選	2				2							
V20312005	博物館資料保存論	選	2					2						
V20312006	博物館展示論	選	2					2						
V20212007	博物館情報論	選	1				1							
V20212008	視聴覚教育メディア論	選	1			1	(1)							
V20212009	博物館教育論	選	2				2							
V20332010	博物館実習 I	選	2						2					
V20432011	博物館実習 II	選	2									2		
V30112001	生涯学習概論	選	2	2	(2)									
V30112002	図書館概論	選	2	2	(2)									
V30212003	図書館制度・経営論	選	2			2	(2)							
V30212004	図書館情報技術論	選	2			2	(2)							
V30112005	図書館サービス概論	選	2	2	(2)									
V30112006	情報サービス論	選	2	2	(2)									
V30112007	児童サービス論	選	2	2	(2)									
V30222008	情報サービス演習	選	2			2	(2)							
V30112009	図書館情報資源概論	選	2	2	(2)									
V30112010	情報資源組織論	選	2	2	(2)									
V30222011	情報資源組織演習 I	選	1			1	(1)							
V30222012	情報資源組織演習 II	選	1			1	(1)							
V30212013	図書館基礎特論	選	2			2	(2)							
V30212014	図書館サービス特論	選	2			2	(2)							
V30212015	図書館情報資源特論	選	2			2	(2)							
V30212016	図書・図書館史	選	2			2	(2)							
V30212017	図書館施設論	選	2			2	(2)							
V30322018	図書館総合演習	選	2					2	(2)					
V30432019	図書館実習	選	2									2		
V30112020	学校経営と学校図書館	選	2	2	(2)									
V30112021	学校図書館メディアの構成	選	2	2	(2)									
V30112022	学習指導と学校図書館	選	2	2	(2)									
V30112023	読書と豊かな人間性	選	2	2	(2)									
V30112024	情報メディアの活用	選	2	2	(2)									
V30112025	学校図書館サービス論	選	2			2	(2)							

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
P12312056	メディア文化論	選	2					2					情報処理士の資格取得に必要な科目 ・資格取得に必要な科目、単位及び必選の別については、別に定める履修科目表に従い履修すること。
P11212104	情報文明論	選	2				2						
P11212064	市民活動論	選	2					2					
P13212092	組織マネジメント論	選	2				2						
P11212102	社会情報学	選	2			2							
P11212052	社会心理学	選	2				2						
P11312083	都市政策論	選	2						2				
V40112001	日本語教育入門	選	2	2	(2)							日本語教師課程の修了認定を受けるために必要な科目	
V40112002	言語と社会	選	2	2	(2)								
V40112003	言語と心理	選	2	2	(2)								
V40112004	言語と教育	選	2	2	(2)								
V40112005	日本語の構造	選	2	2	(2)								
V40332006	日本語教育実習	選	2					2		(2)			事前・事後指導を含む。





専門領域

文学部

文学部共通専門科目

◆修得した単位は所属する学科の専門科目の単位に含めることができる。  
◆「学科・専攻開放科目」に該当する科目も、文学部共通専門科目として扱う。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	汎用的技能	判断・思考・相対理解	自律性・社会性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
L12212073	民俗学	選	2		2						○	◎			○		国文学科提供科目		
L12212074	風俗文化史A	選	2		2						○	◎			○				
L12212075	風俗文化史B	選	2			2					○	◎			○				
L13312076	東洋思想史A	選	2				2				○	○	◎						
L13312077	東洋思想史B	選	2					2			○	○	◎						
L23212031	英語圏研究1	選	2		2						○		◎	○			英文学科提供科目		
L23212037	英語圏研究2	選	2			2					○		◎	○					
L23212042	英語圏研究3	選	2			2					○	○	◎						
L32222021	日本古文書 I A	選	2		2						○	◎	○				史学科提供科目		
L32222022	日本古文書 I B	選	2			2					○	◎	○						
L32122095	くずし字入門	選	2	2							○	◎							
L32222096	東アジア史A	選	2		2						○	◎	○						
L32222097	東アジア史B	選	2			2					○	◎	○						
L32212098	ヨーロッパ史A	選	2		2						○	◎	○						
L32212099	ヨーロッパ史B	選	2			2					○	◎	○						
L32212100	20世紀史A	選	2		2						○	◎	○						
L32212101	20世紀史B	選	2			2					○	◎	○						
L32112102	漢文A	選	2	2								◎		○					
L32112103	漢文B	選	2		2							◎		○					
L32222104	ラテン語A	選	2		2							◎		○					
L32222105	ラテン語B	選	2			2						◎		○					
L32322106	ギリシア語A	選	2				2					◎		○					
L32322107	ギリシア語B	選	2					2				◎		○					
L32212108	日本美術史A	選	2		2						○	◎							
L32212109	日本美術史B	選	2			2					○	◎							
L32212110	東洋美術史	選	2			2					○	◎							
L32212111	西洋美術史	選	2		2						○	◎							
L01212001	ことばとコミュニケーション	選	2		2						◎			○			外国語準学科提供科目		
L01212002	中国文学史A	選	2		2						◎		○						
L01212003	中国文学史B	選	2			2					◎		○						
L01212004	近代フランス文学論	選	2			2					◎		○						
L01212005	朝鮮語史概論	選	2			2					◎		○						
L01212006	ドイツ文学論	選	2			2					◎		○						
L02222007	観光ドイツ語	選	2			2					○	◎		○					
L02222008	観光フランス語	選	2			2					○	◎		○					
L02222009	観光中国語	選	2			2					○	◎		○					
L02222010	観光ロシア語	選	2			2					○	◎		○					

## 文学部国文学科

### 国文学科専門科目

- ◆「国文学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。
- ◆別掲の「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理 解 ・ 知 識	汎 用 的 技 能	判 断 ・ 思 考	対 話 ・ 相 互 理 解	社 会 性 ・ 自 律 性	自 立 性			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
L1111001	国文学基礎講座A	必	2	2							◎	○						(音声言語及び文章表現を含む)		
L1111002	国文学基礎講座B	必	2	2							◎	○								
L1111003	国語学概説A	必	2	2							◎	○								
L1111004	国語学概説B	必	2	2							◎	○								
L11121005	入門演習A	必	2	2							◎	○		○						
L11121006	入門演習B	必	2	2							◎	○		○						
L14221007	基礎演習A	必	2		2						○		○	◎						
L14221008	基礎演習B	必	2			2					○		○	◎						
L11112009	国文学史1A	選	2	2	2						◎	○							合計8単位以上 修得すること。	
L11112010	国文学史1B	選	2	2	2						◎	○								
L11112011	国文学史2A	選	2	2	2						◎	○								
L11112012	国文学史2B	選	2	2	2						◎	○								
L11112013	国語史A	選	2	2	2						◎	○								
L11112014	国語史B	選	2	2	2						◎	○								
L11122015	講読上代A	選	2	2	2						◎	○								
L11122016	講読上代B	選	2	2	2						◎	○								
L11122017	講読中古A	選	2	2	2						◎	○								
L11122018	講読中古B	選	2	2	2	2					◎	○								
L11122019	講読中世A	選	2	2	2						◎	○						合計20単位以上 修得すること。		
L11122020	講読中世B	選	2	2	2						◎	○								
L11122021	講読近世A	選	2	2	2						◎	○								
L11122022	講読近世B	選	2	2	2						◎	○								
L11122023	講読近代A	選	2	2	2						◎	○								
L11122024	講読近代B	選	2	2	2						◎	○								
L11122025	講読漢文A	選	2	2	2						◎	○								
L11122026	講読漢文B	選	2	2	2						◎	○								
L11122027	講読国語学A	選	2	2	2						◎	○								
L11122028	講読国語学B	選	2	2	2						◎	○								
L13322029	演習 I A(上代)	選	2			2						○	◎	○				8単位選択必修		
L13322030	演習 I B(上代)	選	2				2					○	◎	○						
L13322031	演習 I A(中古)	選	2				2					○	◎	○						
L13322032	演習 I B(中古)	選	2					2				○	◎	○						
L13322033	演習 I A(中世)	選	2					2				○	◎	○						
L13322034	演習 I B(中世)	選	2						2			○	◎	○						
L13322035	演習 I A(近世)	選	2					2				○	◎	○						
L13322036	演習 I B(近世)	選	2						2			○	◎	○						
L13322037	演習 I A(近代)	選	2					2				○	◎	○						
L13322038	演習 I B(近代)	選	2						2			○	◎	○						
L13322039	演習 I A(漢文)	選	2					2				○	◎	○						
L13322040	演習 I B(漢文)	選	2						2			○	◎	○						
L13322041	演習 I A(国語学)	選	2					2				○	◎	○						
L13322042	演習 I B(国語学)	選	2						2			○	◎	○						
L15421043	演習 II A(注)	必	2						2				○		◎	○				
L15421044	演習 II B(注)	必	2							2			○		◎	○				

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能・汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性・自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
L13312045	国文学特殊講義1A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312046	国文学特殊講義1B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312047	国文学特殊講義2A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312048	国文学特殊講義2B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312049	国文学特殊講義3A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312050	国文学特殊講義3B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312051	国文学特殊講義4A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312052	国文学特殊講義4B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312053	国文学特殊講義5A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312054	国文学特殊講義5B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312055	国文学特殊講義6A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312056	国文学特殊講義6B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312057	国文学特殊講義7A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312058	国文学特殊講義7B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312059	国文学特殊講義8A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312060	国文学特殊講義8B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312061	国文学特殊講義9A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312062	国文学特殊講義9B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312063	国語学特殊講義1A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312064	国語学特殊講義1B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312065	国語学特殊講義2A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312066	国語学特殊講義2B	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312067	日本文化特殊講義A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312068	日本文化特殊講義B	選	2					2	2			○	○	◎					
L12122069	書道A	選	2	2								○	◎				○		(書写を中心とする)
L12122070	書道B	選	2		2							○	◎				○		
L12212071	漢文学A	選	2			2						○	◎				○		
L12212072	漢文学B	選	2				2					○	◎				○		
L12212073	民俗学	選	2			2						○	◎				○		
L12212074	風俗文化史A	選	2			2						○	◎				○		
L12212075	風俗文化史B	選	2				2					○	◎				○		
L13312076	東洋思想史A	選	2					2	2			○	○	◎					
L13312077	東洋思想史B	選	2					2	2			○	○	◎					
L12212078	国語科教育法1	選	2			2						○	◎				○		
L12212079	国語科教育法2	選	2				2					○	◎				○		
L12312080	国語科教育法3	選	2					2				○	◎				○		
L12312081	国語科教育法4	選	2					2				○	◎				○		
L16451082	卒業論文(注)	必	6						6					○			○	◎	

(注) 演習ⅡA、演習ⅡB及び卒業論文は、演習ⅠAのうち1科目2単位以上、演習ⅠBのうち1科目2単位以上、計2科目4単位以上修得しなければ履修できない。

文学部共通専門科目

◆「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的・判断・思考・相互理解	対話・自律性・社会性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
L23212031	英語圏研究1	選	2		2						○	◎	○					英文学科提供科目	
L23212037	英語圏研究2	選	2			2					○	◎	○						
L23212042	英語圏研究3	選	2			2					○	○	◎						
L32222021	日本古文書 I A	選	2		2						○	◎	○					史学科提供科目	
L32222022	日本古文書 I B	選	2			2					○	◎	○						
L32122095	くずし字入門	選	2		2						○	◎							
L32222096	東アジア史A	選	2		2						○	◎	○						
L32222097	東アジア史B	選	2			2					○	◎	○						
L32212098	ヨーロッパ史A	選	2		2						○	◎	○						
L32212099	ヨーロッパ史B	選	2			2					○	◎	○						
L32212100	20世紀史A	選	2		2						○	◎	○						
L32212101	20世紀史B	選	2			2					○	◎	○						
L32112102	漢文A	選	2	2								◎		○					
L32112103	漢文B	選	2		2							◎		○					
L32222104	ラテン語A	選	2		2							◎		○					
L32222105	ラテン語B	選	2			2						◎		○					
L32322106	ギリシア語A	選	2				2					◎		○					
L32322107	ギリシア語B	選	2					2				◎		○					
L32212108	日本美術史A	選	2		2						○	◎							
L32212109	日本美術史B	選	2			2					○	◎							
L32212110	東洋美術史	選	2			2					○	◎							
L32212111	西洋美術史	選	2		2						○	◎							
L01212001	ことばとコミュニケーション	選	2		2						◎			○				外国語準学科提供科目	
L01212002	中国文学史A	選	2		2						◎		○						
L01212003	中国文学史B	選	2			2					◎		○						
L01212004	近代フランス文学論	選	2			2					◎		○						
L01212005	朝鮮語史概論	選	2			2					◎		○						
L01212006	ドイツ文学論	選	2			2					◎		○						
L02222007	観光ドイツ語	選	2			2					○	◎		○					
L02222008	観光フランス語	選	2			2					○	◎		○					
L02222009	観光中国語	選	2			2					○	◎		○					
L02222010	観光コリア語	選	2			2					○	◎		○					

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

## 文学部英文学科

### 英文学科専門科目

◆「英文学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

◆別掲の「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能	汎用的 判断・ 思考	相互理解 対話	自律性・ 社会性	自立性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
L2111001	英語圏文化入門	必	2	2								◎		○	○						ガイダンス科目
L2111002	言語・コミュニケーション入門	必	2		2							◎		○	○						
L22121003	Oral Communication I	必	1	1								◎		○	○						
L22121004	Grammar & Expression	必	1	1								◎		○	○						
L22122005	TOEFL演習 I	選	1	1								○	◎		○						
L22121006	Oral Communication II	必	1		1							◎		○	○						
L22121007	Reading & Writing	必	1		1							○	◎		○						
L22122008	TOEFL演習 II	選	1		1							○	◎		○						
L22122009	TOEFL演習 III	選	1		1							○	◎		○						
L22121010	TOEIC演習 I	必	2		2							○	◎		○						
L22221011	Integrated Communication Skills I	必	1			1						◎		○	○						
L22221012	TOEIC演習 II	必	2			2						○	◎		○						
L22221013	Integrated Communication Skills II	必	1				1					◎		○	○						
L22222014	TOEIC演習 III	選	2				2					○	◎		○						
L21322015	Theatre Studies I	選	2					2				◎	○	○							
L22322016	Speech & Presentation	選	2					2				◎		○	○						
L22322017	TOEIC演習 IV	選	2					2				○	◎		○						
L22322018	Advanced Communication I	選	2					2				◎		○	○						
L21322019	Theatre Studies II	選	2						2			◎	○	○							
L24322020	Debate & Discussion	選	2						2			○		◎	○						
L22322021	Advanced Communication II	選	2					2				◎		○	○						
L21112022	異文化理解基礎講義	選	2	2								◎		○	○						
L21112023	英語学基礎講義	選	2	2								◎		○	○						
L21112024	英米映画研究1	選	2	2								◎		○	○						
L21112025	イギリス文学基礎講義	選	2		2							◎		○	○						
L21112026	アメリカ文学基礎講義	選	2		2							◎		○	○						
L21112027	英語学研究	選	2		2							◎		○	○						
L21212028	通訳・翻訳論	選	2			2						◎		○	○				○		
L21212029	英語文法語法研究	選	2			2						◎		○	○						
L21212030	英米文学研究1	選	2			2						◎		○	○						
L23212031	英語圏研究1	選	2			2						○		◎	○						
L23212032	英米映画研究2	選	2			2						○		◎	○						
L21212033	英語音声学	選	2			2						◎		○	○						
L21212034	言語習得論	選	2				2					◎		○	○						
L21212035	認知言語学	選	2				2					◎		○	○						
L21212036	英米文学研究2	選	2				2					◎		○	○						
L23212037	英語圏研究2	選	2				2					○		◎	○						
L25222038	通訳ガイド演習	選	2				2						○					◎	○		
L25222039	エアライン英語	選	2				2						○					◎	○		
L25222040	ツアーリズム・スタディーズ	選	2				2						○					◎	○		
L23222041	児童英語教育	選	2				2							◎				○	○		
L23212042	英語圏研究3	選	2				2					○		◎							
L24222043	メディア英語演習	選	2				2						○		◎	○					
L21322044	英語で読む京都	選	2					2				◎		○	○						
L23312045	英米文学研究3	選	2					2				○		◎	○						
L23312046	言語科学	選	2					2				○		◎	○						
L23312047	ジェンダー批評	選	2					2				○		◎	○						
L23312048	比較文化研究1	選	2					2				○		◎	○						
L25322049	ビジネス英語 I	選	2					2					○		○			◎			
L25312050	旅行業務	選	2					2					○		○			◎			
L23312051	英米児童文学研究	選	2					2				○		◎	○						
L23312052	社会言語学	選	2					2				○		◎	○						
L23312053	日英語対照研究	選	2					2				○		◎	○						
L25322054	ビジネス英語 II	選	2					2					○		○			◎			
L24322055	会議通訳演習	選	2					2					○		◎	○					
L21322056	英語で語る京都	選	2					2				◎		○	○						

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 知識・ 技能	汎用的 思考・ 判断	相互理解 対話・ 自律性	社会性・ 自律性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
L23312057	英米文学研究4	選	2						2			○	◎	○				専門科目		
L23412058	英米演劇研究 I	選	2						2			○	◎	○						
L23412059	英米演劇研究 II	選	2						2			○	◎	○						
L23412060	比較文化研究2	選	2						2			○	◎							
L21222061	英語科教育法1	選	2		2					◎	○	○								
L24222062	英語科教育法2	選	2			2							◎	○	○					
L24322063	英語科教育法3	選	2				2							◎	○	○				
L24322064	英語科教育法4	選	2					2		○				◎						
L24222065	Pre-Study Abroad Seminar	選	1			1						○		◎	○					
L22232066	Study Abroad 1	選	4				4					◎		○						
L22232067	Study Abroad 2	選	4				4					◎		○						
L22232068	Study Abroad 3	選	4				4					◎		○						
L22232069	Study Abroad 4	選	4				4					◎		○						
L25322070	Post-Study Abroad Seminar	選	1					1				○		○	◎					
L22121081	Basic Research Seminar I	必	2	2						○	◎	○						発展科目		
L22121082	Basic Research Seminar II	必	2		2					○	◎	○								
L23221083	Research Seminar I	必	2			2							◎	○	○					
L23221084	Research Seminar II	必	2				2							◎	○	○				
L24321085	Advanced Research Seminar I	必	2					2						○	◎	○				
L24321086	Advanced Research Seminar II	必	2						2					○	◎	○				
L26421087	Graduation Research Seminar I	必	2						2					○		○	◎			
L26421088	Graduation Research Seminar II	必	2											○		○	◎			
L26451089	卒業研究	必	6						6						○	○	◎			

文学部共通専門科目

◆「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能的	判断・思考	相互理解・対話	社会性・自律性	自立性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
L12212073	民俗学	選	2		2							○	◎			○	国文学科 提供科目		
L12212074	風俗文化史A	選	2		2							○	◎			○			
L12212075	風俗文化史B	選	2			2						○	◎			○			
L13312076	東洋思想史A	選	2				2					○	○	◎					
L13312077	東洋思想史B	選	2					2				○	○	◎					
L32222021	日本古文書 I A	選	2		2							○	◎	○			史学科 提供科目		
L32222022	日本古文書 I B	選	2			2						○	◎	○					
L32122095	くずし字入門	選	2	2								○	◎						
L32222096	東アジア史A	選	2		2							○	◎	○					
L32222097	東アジア史B	選	2			2						○	◎	○					
L32212098	ヨーロッパ史A	選	2		2							○	◎	○					
L32212099	ヨーロッパ史B	選	2			2						○	◎	○					
L32212100	20世紀史A	選	2		2							○	◎	○					
L32212101	20世紀史B	選	2			2						○	◎	○					
L32112102	漢文A	選	2	2									◎		○				
L32112103	漢文B	選	2		2								◎		○				
L32222104	ラテン語A	選	2		2								◎		○				
L32222105	ラテン語B	選	2			2							◎		○				
L32322106	ギリシア語A	選	2				2						◎		○				
L32322107	ギリシア語B	選	2					2					◎		○				
L32212108	日本美術史A	選	2		2							○	◎						
L32212109	日本美術史B	選	2			2						○	◎						
L32212110	東洋美術史	選	2			2						○	◎						
L32212111	西洋美術史	選	2		2							○	◎						
L01212001	ことばとコミュニケーション	選	2		2							◎			○		外国語準学科 提供科目		
L01212002	中国文学史A	選	2		2							◎		○					
L01212003	中国文学史B	選	2			2						◎		○					
L01212004	近代フランス文学論	選	2		2							◎		○					
L01212005	朝鮮語史概論	選	2		2							◎		○					
L01212006	ドイツ文学論	選	2		2							◎		○					
L02222007	観光ドイツ語	選	2		2							○	◎		○				
L02222008	観光フランス語	選	2		2							○	◎		○				
L02222009	観光中国語	選	2		2							○	◎		○				
L02222010	観光コリア語	選	2		2							○	◎		○				



## 文学部史学科

### 史学科専門科目

◆「史学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

◆別掲の「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理 解 ・ 知 識 ・ 汎 用 的 技 能	判 断 ・ 思 考 ・ 相 互 理 解	対 話 ・ 自 律 性	社 会 性 ・ 自 立 性				
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
L33121001	史学基礎演習A	必	2	2								○		◎	○				
L33121002	史学基礎演習B	必	2	2								○		◎	○				
L31111003	日本史概論A	必	2	2								◎	○	○					
L31111004	日本史概論B	必	2	2								◎	○	○					
L31111005	東洋史概論A	必	2	2								◎	○	○					
L31111006	東洋史概論B	必	2	2								◎	○	○					
L31111007	西洋史概論A	必	2	2								◎	○	○					
L31111008	西洋史概論B	必	2	2								◎	○	○					
L33222009	日本史入門演習A	選	2		2							○		◎	○				
L33222010	日本史入門演習B	選	2			2						○		◎	○				
L34322011	日本史演習 I A	選	2				2							○	◎	○			
L34322012	日本史演習 I B	選	2					2						○	◎	○			日本史コース履修者は必修
L34422013	日本史演習 II A	選	2						2					○	◎		○		演習 II A及び II Bは、演習 I A又は I B
L34422014	日本史演習 II B	選	2							2				○	◎		○		のいずれか2単位を修得しなければ履修
L32222015	日本史講読 I A	選	2		2							○	◎	○					できない。
L32222016	日本史講読 I B	選	2			2						○	◎	○					
L32322017	日本史講読 II A	選	2				2					○	◎	○					
L32322018	日本史講読 II B	選	2					2				○	◎	○					
L32422019	日本史講読 II C	選	2						2			○	◎	○					
L32422020	日本史講読 II D	選	2							2		○	◎	○					
L32222021	日本古文書 I A	選	2		2							○	◎	○					
L32222022	日本古文書 I B	選	2			2						○	◎	○					
L32322023	日本古文書 II A	選	2				2					○	◎	○					
L32322024	日本古文書 II B	選	2					2				○	◎	○					
L32422025	日本古文書 II C	選	2						2			○	◎	○					
L32422026	日本古文書 II D	選	2							2		○	◎	○					日本史コース履修者は、
L33212027	日本史特殊講義1	選	2		2							○	○	◎					この枠内の科目と、東洋史・西洋史の
L33212028	日本史特殊講義2	選	2			2						○	○	◎					特殊講義科目から16単位以上を修得す
L33212029	日本史特殊講義3	選	2		2							○	○	◎					る。
L33212030	日本史特殊講義4	選	2			2						○	○	◎					ただし、日本古文書 I A～ I B、
L33212031	日本史特殊講義5	選	2		2							○	○	◎					日本古文書 II A～ II B、
L33212032	日本史特殊講義6	選	2			2						○	○	◎					日本史特殊講義 1～10
L33212033	日本史特殊講義7	選	2		2							○	○	◎					から、8単位以上を必ず含めること。
L33212034	日本史特殊講義8	選	2			2						○	○	◎					
L33212035	日本史特殊講義9	選	2		2							○	○	◎					
L33212036	日本史特殊講義10	選	2			2						○	○	◎					



ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断	思考・対話・相互理解		社会性・自律性	自立性	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
L32222089	史学外書講読ⅠA	選	2		2						○	◎	○					東洋史コース履修者は、東洋史講読ⅠA・ⅠBまたは史学外書講読ⅠA・ⅠBから、4単位以上および東洋史講読ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣBまたは史学外書講読ⅡA・ⅡBから、4単位以上修得すること。日本史コースおよび西洋史コース履修者は、選択科目として卒業に必要な単位に含めることができる。
L32222090	史学外書講読ⅠB	選	2			2					○	◎	○					
L32322091	史学外書講読ⅡA	選	2				2				○	◎	○					
L32322092	史学外書講読ⅡB	選	2					2			○	◎	○					
L32422093	史学外書講読ⅡC	選	2						2		○	◎	○					
L32422094	史学外書講読ⅡD	選	2							2	○	◎	○					
L32122095	くずし字入門	選	2	2							○	◎						
L32222096	東アジア史A	選	2		2						○	◎	○					
L32222097	東アジア史B	選	2			2					○	◎	○					
L32212098	ヨーロッパ史A	選	2		2						○	◎	○					
L32212099	ヨーロッパ史B	選	2			2					○	◎	○					
L32212100	20世紀史A	選	2		2						○	◎	○					
L32212101	20世紀史B	選	2			2					○	◎	○					
L32112102	漢文A	選	2	2								◎		○				
L32112103	漢文B	選	2		2							◎		○				
L32222104	ラテン語A	選	2		2							◎		○				
L32222105	ラテン語B	選	2			2						◎		○				
L32322106	ギリシア語A	選	2			2						◎		○				
L32322107	ギリシア語B	選	2				2					◎		○				
L32212108	日本美術史A	選	2		2						○	◎						
L32212109	日本美術史B	選	2			2					○	◎						
L32212110	東洋美術史	選	2			2					○	◎						
L32212111	西洋美術史	選	2		2						○	◎						
L32212112	歴史地理学概論	選	2		2	(2)					○	◎						
L32212113	人文地理学概論	選	2		2	(2)					○	◎						
L32212114	地誌	選	2			2					○	◎						
L32312115	自然地理学	選	2				2				○	◎						
L32112116	法律学研究	選	2	2	(2)							◎			○			
L32212117	経済学研究	選	2		2	(2)						◎			○			
L32212118	哲学研究	選	2		2	(2)						◎			○			
L32212119	宗教学研究	選	2		2	(2)						◎			○			
L32112120	考古学A	選	2	2							○	◎						
L32112121	考古学B	選	2		2						○	◎						
L31212122	社会科教育法(地理歴史分野)	選	2		2	(2)						◎						
L31212123	社会科教育法(公民分野)	選	2		2	(2)						◎						
L31312124	地理歴史科教育法	選	2			2	(2)					◎						
L31312125	公民科教育法	選	2			2	(2)					◎						
L36451126	卒業論文	必	6						6		○		○				◎	

日本史講読ⅡC・ⅡD、日本古文書ⅡC・ⅡD、東洋史講読ⅡC・ⅡD、東洋史講読ⅢC・ⅢD、東洋史講読ⅣC・ⅣD、西洋史講読ⅡC・ⅡD、西洋史講読ⅢC・ⅢD、史学外書講読ⅡC・ⅡDは、同一名科目のA・B、2科目4単位を修得しなければ履修できない。

文学部共通専門科目

◆「文学部共通専門科目」より修得した単位は、専門科目における卒業要件72単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能	判断	思考・相互理解	対話・社会性・自律性	自立性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
L12212073	民俗学	選	2		2							○	◎			○	国文学科提供科目		
L12212074	風俗文化史A	選	2		2							○	◎			○			
L12212075	風俗文化史B	選	2			2						○	◎			○			
L13312076	東洋思想史A	選	2				2					○	○	◎					
L13312077	東洋思想史B	選	2					2				○	○	◎					
L23212031	英語圏研究1	選	2		2							○		◎	○		英文学科提供科目		
L23212032	英語圏研究2	選	2			2						○		◎	○				
L23212042	英語圏研究3	選	2			2						○		◎					
L01212001	ことばとコミュニケーション	選	2		2							◎			○		外国語準学科提供科目		
L01212002	中国文学史A	選	2		2							◎		○					
L01212003	中国文学史B	選	2			2						◎		○					
L01212004	近代フランス文学論	選	2			2						◎		○					
L01212005	朝鮮語史概論	選	2			2						◎		○					
L01212006	ドイツ文学論	選	2			2						◎		○					
L02222007	観光ドイツ語	選	2			2						○	◎		○				
L02222008	観光フランス語	選	2			2						○	◎		○				
L02222009	観光中国語	選	2			2						○	◎		○				
L02222010	観光コリア語	選	2			2						○	◎		○				

專 門 領 域

発達教育学部

### 発達教育学部教育学科教育学専攻

◆必修科目修得の要件を満たしたうえで、専門科目(「教育学科共通科目」、「教育学科教育学専攻専門科目」、「専攻間履修科目(養護・福祉教育学専攻)」及び「専攻間履修科目(音楽教育学専攻)」)より72単位以上修得すること。72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

#### 教育学科共通科目

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	汎用的技能	判断・思考	相互理解・対話	社会性・自律性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M01212001	生涯学習概論 I	選	2		2								◎	○	○					(*注)
M01212002	生涯学習概論 II	選	2			2							◎	○	○					
M01312003	教育・福祉連携論	選	2						2				◎			○				

#### 教育学科教育学専攻専門科目

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	汎用的技能	判断・思考	相互理解・対話	社会性・自律性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M12121001	教育学入門演習 I	必	2	2									◎	○	○					
M12121002	教育学入門演習 II	必	2		2								◎	○	○					
M13221003	教育学演習 I	必	2			2								◎	○	○				
M13221004	教育学演習 II	必	2				2							◎	○	○				
M1111005	教育原論	必	2	2									◎	○	○					
M1311006	人権教育論	必	1	1										◎	○	○				
M1411007	教職論	必	2		2								○	○	◎	○				
M1111008	教育心理学	必	2	2									◎	○	○					
M1121009	教育課程論	必	2			2							◎	○	○					
M1111010	教育方法論	必	2		2								◎	○	○					
M1121011	教育行政学	必	2				2						◎	○	○					
M13212012	教育哲学	選	2				2						○		◎		○			
M11212013	教育史	選	2			2							◎		○					(*注)生涯学習概論 I、教育哲学、教育史、教育社会学、比較・国際教育論の5科目の中から2科目4単位修得すること
M11212014	教育社会学	選	2				2						◎		○		○			
M13212015	比較・国際教育論	選	2				2						○		◎	○				
M11112016	国語科教育内容論	選	2		2								◎	○	○					
M11112017	社会科教育内容論	選	2		2								◎	○	○					
M11112018	算数科教育内容論	選	2	2									◎	○	○					
M12212019	理科教育内容論	選	2			2							○	◎	○					
M11112020	生活科教育内容論	選	2		2								◎	○	○					
M11212021	音楽科教育内容論	選	2			2							◎	○	○					
M11212022	図工科教育内容論	選	2			2							◎	○	○					
M12212023	家庭科教育内容論	選	2			2							○	◎	○					
M11112024	体育科教育内容論	選	2	2									◎	○	○					
M11212025	外国語科教育内容論	選	2				2						◎	○		○				
M11212026	国語科教育方法論	選	2			2							◎	○		○				
M11212027	社会科教育方法論	選	2			2							◎		○	○				
M11112028	算数科教育方法論	選	2		2								◎		○		○			
M13212029	理科教育方法論	選	2				2						○		◎	○				
M13212030	生活科教育方法論	選	2			2							○		◎	○				
M11212031	音楽科教育方法論	選	2				2						◎	○	○					
M11212032	図工科教育方法論	選	2				2						◎	○	○					
M13212033	家庭科教育方法論	選	2				2						○		◎				○	
M12112034	体育科教育方法論	選	2		2								○	◎	○					
M11312035	外国語科教育方法論	選	2					2					◎	○		○				
M13212036	道徳教育論	選	2			2							○		◎	○				
M11312037	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	選	2					2					◎		○					
M14312038	生徒指導論	選	2					2					○			◎	○			(生徒指導と教育相談)
M14312039	進路指導論	選	2						2				○			◎	○			
M13212040	幼児理解と教育相談	選	2				2						○		◎					
M11212041	保育内容指導法1	選	2			2							◎		○	○				(健康)
M14312042	保育内容指導法2	選	2					2					○		○	◎				(人間関係)
M13312043	保育内容指導法3	選	2					2					○		◎	○				(環境)
M11212044	保育内容指導法4	選	2				2						◎	○	○					(言葉)
M13212045	保育内容指導法5	選	2				2						○		◎	○				(表現)
M11212046	教育実習論 I	選	1				1						◎		○		○			

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・理解	汎用的技能	思考・判断	相互理解	社会性・自律性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
M11312047	教育実習論Ⅱ	選	1					1				◎		○		○					
M15232048	教育実習Ⅰ	選	2			2								○		◎		○			
M15332049	教育実習Ⅱ	選	3					3						○		◎		○			
M16422050	教職実践演習(幼・小)	選	2							2				○		◎		◎			
M11112051	特別支援教育論	選	1	1								◎									
M11212052	特別支援教育総論	選	2			2						◎									
M11212053	インクルーシブ教育論	選	2			2						◎									
M11212054	知的障害者の生理・病理	選	2			2						◎									
M11212055	病弱者の心理・生理・病理	選	2			2						◎									
M11212056	知的障害教育論	選	2			2						◎									
M11312057	知的障害者の心理	選	2					2				◎									
M11312058	肢体不自由者の医学概論	選	2					2				◎									
M11312059	肢体不自由教育論	選	2					2				◎									
M11312060	病弱教育論	選	2					2				◎									
M13312061	知的障害児(者)の発達と教育	選	2					2				○		◎							
M11312062	肢体不自由児(者)の発達と教育	選	2							2		◎									
M11312063	病弱児の心理と教育	選	2							2		◎									
M11312064	視覚障害者教育総論	選	2							2		◎									
M11312065	聴覚障害者教育総論	選	2							2		◎									
M11312066	重複障害・発達障害教育論	選	2							2		◎									
M11412067	特別支援教育実習論	選	1							1		◎		○		○					
M15432068	特別支援教育実習	選	2								2			○		◎		○			
M12122069	ピアノ・ベーシックA	選	1	1									◎								
M12122070	ピアノ・ベーシックB	選	1		1								◎								
M11112071	学校教育論	選	2		2							◎		○							
M11112072	学校外教育論	選	2		2							◎		○		○					
M11212073	発達心理学	選	2			2						◎									
M14312074	多文化教育論	選	2							2		◎		○		◎					
M13212075	アートとメディアリテラシー教育	選	2			2						○		◎		○					
M11212076	学級経営論	選	2			2						◎				○		○			
M13312077	幼児教育論	選	2					2				○		◎		○					
M15232078	社会教育基礎実習	選	2				2							○		○		◎			
M11212079	ジェンダーと教育	選	2				2					◎		○				○			
M11312105	生涯学習支援論Ⅰ	選	2					2				◎		○		○					
M11312106	生涯学習支援論Ⅱ	選	2							2		◎		○		○					
M11312107	社会教育経営論Ⅰ	選	2					2				◎		○		○					
M11312108	社会教育経営論Ⅱ	選	2							2		◎		○		○					
M12322082	外国書講読	選	2					2				○		◎		○					
M11312083	教育調査・統計法	選	2					2				◎		○		○					
M15332084	社会教育実習	選	2							2				○		○		◎			
M11312085	教育評価論	選	2							2		◎		○		○					
M13312086	家庭教育論	選	2							2		○		◎		○					
M13312087	自然体験型環境教育	選	2							2				◎		○		○			
M13322088	遊び活動演習	選	2							2		○		◎		○					
M16422089	国語科実践研究	選	2							2			○		○						◎
M13422090	理科実践研究	選	2							2				◎		○					◎
M12422091	音楽科実践研究	選	2							2			◎		○						◎
M11422092	体育科実践研究	選	2							2		◎		○							◎
M16422093	家庭科実践研究	選	2							2			○		○						◎
M13422094	算数科実践研究	選	2								2		○		◎						◎
M11422095	社会科実践研究	選	2								2		◎				○				◎
M13422096	図工科実践研究	選	2								2				◎		○				◎
M13422097	生活科実践研究	選	2								2				◎		○				◎
M14422098	社会教育演習	選	2							2		○		○		◎					
M14422099	社会教育課題研究	選	2							2		○		○		◎					
M14321100	教育学研究Ⅰ	必	2					2					○		○		◎				
M14321101	教育学研究Ⅱ	必	2							2				○		◎		○			
M15421102	教育学研究Ⅲ	必	2								2			○		○		◎			
M16421103	教育学研究Ⅳ	必	2								2			○		○		◎			
M16451104	卒業研究	必	6								6			○		○		◎			

専攻間履修科目(養護・福祉教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性	社会性・自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M21112005	社会福祉概論 1	選	2	2								◎		○						
M21212039	精神保健 I	選	2				2					◎								
M21212026	学校保健	選	2			2						◎	○							
M21212027	児童・家庭福祉論	選	2			2						◎								
M21312069	小児保健	選	2						2			◎								

専攻間履修科目(音楽教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的	判断・思考・相互理解	対話・自律性	社会性・自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M31122003	ソルフェージュ	選	2	2								◎								
M31122010	音楽理論2	選	2		2							◎								
M31112006	音楽史1(西洋)	選	2	2								◎								
M31212008	音楽文化特論1(西洋)	選	2			2						◎								



## 発達教育学部 教育学科 養護・福祉教育学専攻

◆必修科目修得の要件を満たしたうえで、専門科目(「教育学科共通科目」、「教育学科養護・福祉教育学専攻専門科目」、「専攻間履修科目(教育学専攻)」及び「専攻間履修科目(音楽教育学専攻)」)より72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

### 教育学科共通科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・理解	汎用的技能	判断		思考・対話・相互理解	社会性・自律性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
M01212001	生涯学習概論 I	選	2			2					◎	○					
M01212002	生涯学習概論 II	選	2			2					◎	○					
M01312003	教育・福祉連携論	選	2					2			◎			○			

### 教育学科養護・福祉教育学専攻専門科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・理解	汎用的技能	判断		思考・対話・相互理解	社会性・自律性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
M26121001	入門演習 I	必	2	2											○	◎	
M22121002	入門演習 II	必	2	2							◎	○					
M22221003	基礎演習 I	必	2		2						◎	○					
M24221004	基礎演習 II	必	2			2						○	◎				
M21111005	社会福祉概論 I	必	2	2							◎		○				
M21112006	社会福祉概論 II	選	2		2						◎						
M21112007	相談援助の基盤と専門職 I	選	2	2							◎		○				
M21112008	相談援助の基盤と専門職 II	選	2		2							○					
M21111009	解剖生理学	必	2	2							◎						
M21112010	社会学	選	2	2							◎						
M21112011	教職論	選	2	2	(2)						◎		○	○			
M21112012	教育原論	選	2	2	(2)						◎		○	○			
M21112013	教育心理学	選	2	2	(2)						◎						
M21111014	臨床医学概論	必	2	2							◎						
M21112015	養護概説	選	2		2						◎		○				
M21112016	人体生理学	選	2		2						◎						
M21112017	心理学	選	2		2						◎						
M21212018	社会福祉援助技術 I	選	2			2					◎		○				
M21212019	社会福祉援助技術 II	選	2				2				◎		○				
M22222020	社会福祉援助技術演習 I	選	1			1						◎		○	○		
M22222021	社会福祉援助技術演習 II	選	1				1				○	◎	○				
M21212022	看護学 I	選	2			2					◎	○	○				
M21212023	看護学 II	選	2				2				◎	○	○				
M21212024	地域福祉論 I	選	2			2					◎		○				
M21212025	地域福祉論 II	選	2				2				◎		○				
M21212026	学校保健	選	2			2					◎	○					
M21212027	児童・家庭福祉論	選	2			2					◎						
M21212028	微生物学	選	2			2					◎						
M21212029	免疫学	選	2			2					◎	○					
M21212030	特別支援教育論	選	1			1	(1)				◎		○				
M23212031	道徳教育論	選	2			2	(2)				○		◎	○			
M21212032	教育課程論	選	2			2	(2)				◎	○	○				
M21212033	教育方法論	選	2			2	(2)				◎	○	○				
M23212034	人権教育論	選	1			1	(1)						◎		○		
M21212035	障害者福祉論	選	2			2					◎						
M21222036	救急処置及び看護法	選	2			2					◎	○					
M21212037	栄養学	選	2			2					◎	○					
M21212038	就労支援と更生保護	選	2			2					◎						
M21212039	精神保健 I	選	2			2					◎						
M21312040	精神保健 II	選	2				2				◎	○			○		
M21312041	社会保障論 I	選	2				2				◎						
M21312042	社会保障論 II	選	2					2			◎						
M21312043	社会福祉援助技術 III	選	2					2			◎		○				
M21312044	社会福祉援助技術 IV	選	2						2		◎		○				
M22322045	社会福祉援助技術演習 III	選	1				1				○	◎	○				
M22322046	社会福祉援助技術演習 IV	選	1					1				◎	○				
M21312047	公衆衛生学	選	2					2			◎	○					(予防医学を含む)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ								備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・技能	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性		社会性・自立性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
M21312048	身体動作学	選	2				2					◎	○						
M21312049	公的扶助論	選	2				2					◎							
M21312050	看護技術Ⅰ	選	2				2					◎	○						
M21312051	看護技術Ⅱ	選	2				2					◎	○						
M21312052	保健医療論	選	2				2					◎							
M21312053	老人福祉論	選	2				2					◎							
M21212054	保健科教育法1	選	2		2							◎	○						
M22212055	保健科教育法2	選	2			2						◎	◎	○					
M21312056	保健科教育法3	選	2				2					◎	○						
M22312057	保健科教育法4	選	2				2					○	◎	○					
M21312058	運動生理学	選	2				2					◎	○						
M21312059	衛生学	選	2				2					◎	○	○					
M21312060	法学	選	2				2					◎							
M23312061	健康相談活動論	選	2				2						○	◎					
M22322062	社会福祉援助技術演習Ⅴ	選	1				1						◎					○	
M21312063	薬理概論	選	2				2					◎	○						
M22312064	社会福祉調査	選	2				2					○	◎						
M21312065	教育行政学	選	2				2	(2)				◎		○					
M21312066	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	選	2				2	(2)				◎		○	○				
M24312067	生徒指導論	選	2				2	(2)				○			◎	○			(生徒指導と教育相談)
M24312068	進路指導論	選	2				2	(2)				○			◎	○			
M21312069	小児保健	選	2				2					◎							
M22322070	看護臨床実習指導	選	1				1						◎		○	○			
M22332071	看護臨床実習	選	1				1						◎		○	○			
M21312072	スクールソーシャルワーク論	選	2				2					◎		○					
M22322073	スクールソーシャルワーク演習	選	1				1						◎		○	○			
M22322074	スクールソーシャルワーク実習指導	選	1				1						◎		○	○			
M22332075	スクールソーシャルワーク実習	選	2				2						◎		○	○			
M22332076	社会福祉援助技術現場実習	選	4				4						◎		○	○			
M22322077	社会福祉援助技術現場実習指導	選	3				3						◎		○	○			
M21412078	福祉行財政と福祉計画	選	2				2					◎							
M21412079	福祉サービスの組織と経営	選	2				2					◎							
M21412080	介護福祉論	選	2				2					◎							
M21412081	養護教育実習論	選	1				1					◎		○		○			
M25432082	養護教育実習	選	4				4							○	◎	○			
M26422083	教職実践演習(養護教諭)	選	2				2							○	○	◎			
M21412084	教育実習論	選	1				1					◎		○		○			
M25432085	教育実習	選	2				2							○	◎	○			
M21432086	中学校教育実習	選	2				2					◎	○						
M26422087	教職実践演習(中・高)	選	2				2							○	○	◎			
M23321088	演習Ⅰ	必	2				2						○	◎	○				
M23321089	演習Ⅱ	必	2				2							○	◎	○			
M23421090	研究法Ⅰ	必	2				2							○	◎				
M23421091	研究法Ⅱ	必	2				2							○	◎				
M23451092	卒業研究	必	6				6							○	◎				

専攻間履修科目(教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ								備考				
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・技能	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性		社会性・自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M11212073	発達心理学	選	2			2							◎							
M13312086	家庭教育論	選	2				2						○		◎	○				

専攻間履修科目(音楽教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ								備考				
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・技能	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性		社会性・自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M34312040	音楽療法	選	2				2								◎	○				
M31312045	音楽心理学	選	2				2					◎		○						

## 発達教育学部教育学科音楽教育学専攻

◆必修科目修得の要件を満たしたうえで、専門科目(「教育学科共通科目」、「教育学科音楽教育学専攻専門科目」、「専攻間履修科目(教育学専攻)」及び「専攻間履修科目(養護・福祉教育学専攻)」)より72単位以上修得すること。72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

### 教育学科共通科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ						備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能・ 汎用的 判断	思考・ 対話・ 相互理解		社会性・ 自律性	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
M01212001	生涯学習概論 I	選	2		2					◎	○	○				
M01212002	生涯学習概論 II	選	2			2				◎	○	○				
M01312003	教育・福祉連携論	選	2					2		◎			○			

### 教育学科音楽教育学専攻専門科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ						備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能・ 汎用的 判断	思考・ 対話・ 相互理解		社会性・ 自律性	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
M31121001	音楽教育学入門演習 I	必	2	2						◎						
M31121002	音楽教育学入門演習 II	必	2		2					◎	○		○			
M31121003	ソルフェージュ	必	2	2						◎						
M31131004	声楽1	必	1	1						◎				○	○	
M31131005	ピアノ1	必	1	1						◎				○	○	
M31111006	音楽史1(西洋)	必	2	2						◎						(西洋)
M31111007	音楽史2(日本及び民族)	必	2		2					◎						(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)
M31211008	音楽文化特論1(西洋)	必	2			2				◎						(西洋)
M31211009	音楽文化特論2(日本及び民族)	必	2				2			◎						(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)
M31121010	音楽理論2	必	2		2					◎						(和声法 I)
M31221011	音楽理論3	必	2			2				◎						(和声法 II)
M31321012	合奏1	必	2					2		◎					○	
M31121013	合唱1	必	2	2						◎					○	
M31122014	合唱2	選	2		2					◎					○	
M31122015	音楽理論1	選	2	2						◎						(楽典)
M31132016	声楽2	選	1		1					◎				○	○	
M31232017	声楽3	選	1			1				◎				○	○	
M31232018	声楽4	選	1				1			◎				○	○	
M31132019	ピアノ2	選	1		1					◎				○	○	
M31232020	ピアノ3	選	1			1				◎				○	○	
M31232021	ピアノ4	選	1				1			◎				○	○	
M31132022	管楽器入門	選	1		1					◎						
M31232023	管楽器1	選	1			1				◎						
M31232024	管楽器2	選	1				1			◎					○	
M31222025	声楽基礎 I	選	2			2				◎						(日本の伝統的な歌唱を含む)
M34222026	声楽基礎 II	選	2				2			◎			◎	○		
M31222027	器楽基礎 I	選	2			2				◎						(伴奏並びに和楽器を含む)
M31222028	器楽基礎 II	選	2				2			◎						
M31222029	和楽器演習 I	選	2			2				◎						
M31222030	和楽器演習 II	選	2				2			◎						
M31222031	音楽理論4	選	2				2			◎						(和声法 III)
M34222032	伴奏法	選	2				2						◎	○		
M31222033	指揮法 I	選	2				2			◎						
M31322034	指揮法 II	選	2					2		◎						
M31322035	アナリーゼ	選	2					2		◎						
M31322036	音楽理論5	選	2					2		◎						(和声法 IV)
M31322037	音楽理論6	選	2						2	◎						(対位法)
M31322038	キーボードハーモニー	選	2					2		◎						
M31312039	音楽音響学	選	2					2		◎						
M34312040	音楽療法	選	2					2					◎	○		
M31322041	合唱指導法	選	2					2		◎		○			○	
M31312042	音楽教育概論	選	2						2	◎						
M36322043	ピアノ指導法	選	2						2	○				○		◎
M31312044	現代音楽	選	2						2	◎						
M31312045	音楽心理学	選	2						2	◎		○				
M31322046	チェンバロ奏法	選	2						2	◎						

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・汎用的	思考・対話・相互理解		社会性・自律性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
M31322047	合奏2	選	2						2		◎							
M31422048	合奏指導法	選	2							2	◎							◎
M31422049	音楽理論7	選	2							2	◎							
M31622050	作曲法	選	2							2			◎					◎
M31332051	音楽実技A1	選	1					1			◎						◎	◎
M31332052	音楽実技A2	選	1					1			◎						◎	◎
M31432053	音楽実技A3	選	1							1	◎						◎	◎
M31432054	音楽実技A4	選	1							1	◎						◎	◎
M31332055	音楽実技B1	選	1					1			◎						◎	◎
M31332056	音楽実技B2	選	1					1			◎						◎	◎
M31432057	音楽実技B3	選	1							1	◎						◎	◎
M31432058	音楽実技B4	選	1							1	◎						◎	◎
M34422059	アンサンブル研究1	選	2							2							◎	
M34422060	アンサンブル研究2	選	2								2						◎	
M31112061	教育原論	選	2	2	(2)						◎							
M31112062	教職論	選	2	2	(2)						◎							
M31312063	教育行政学	選	2					2	(2)		◎							
M31112064	教育心理学	選	2	2	(2)						◎							
M31212065	特別支援教育論	選	1			1	(1)				◎							
M31212066	教育課程論	選	2			2	(2)				◎							
M31212067	道徳教育論	選	2			2	(2)				◎							
M31312068	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	選	2					2	(2)		◎							
M31212069	教育方法論	選	2			2	(2)				◎							
M31312070	生徒指導論	選	2					2	(2)		◎							
M31312071	進路指導論	選	2					2	(2)		◎							
M31412072	教育実習論	選	1							1	◎							
M32432073	教育実習	選	2							2	◎							
M32432074	中学校教育実習	選	2							2	◎							
M32422075	教職実践演習(中・高)	選	2							2	◎							
M31222076	音楽科教育法1	選	2			2					◎		◎					
M33322077	音楽科教育法2	選	2			2						◎	◎					
M33322078	音楽科教育法3	選	2					2				◎	◎					
M33322079	音楽科教育法4	選	2					2				◎	◎					
M33212080	人権教育論	選	1			1	(1)						◎	◎			◎	◎
M33221081	音楽文化研究 I	必	2			2					◎		◎					
M33221082	音楽文化研究 II	必	2			2					◎		◎					
M33321083	音楽教育演習 I	必	2					2				◎	◎					
M33321084	音楽教育演習 II	必	2					2				◎	◎					
M33421085	音楽教育演習 III	必	2							2		◎	◎					
M33421086	音楽教育演習 IV	必	2							2		◎	◎					
M33451087	卒業研究	必	6							6		◎	◎					

(オーケストレーション)

(編曲法を含む)

(声楽・管楽器)

(声楽・管楽器)

(声楽・管楽器)

(声楽・管楽器)

(ピアノ・和楽器)

(ピアノ・和楽器)

(ピアノ・和楽器)

(ピアノ・和楽器)

(生徒指導と教育相談)

専攻間履修科目(教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相互理解	社会性・自律性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
M11112016	国語科教育内容論	選	2		2							◎	○		○				
M11112024	体育科教育内容論	選	2	2								◎	○	○					
M11112018	算数科教育内容論	選	2	2								◎	○	○					
M11212021	音楽科教育内容論	選	2			2						◎	○	○					
M11112020	生活科教育内容論	選	2		2							◎	○	○					
M11212022	図工科教育内容論	選	2			2						◎	○	○					
M11112072	学校外教育論	選	2		2							◎		○	○				
M11212014	教育社会学	選	2				2					◎		○		○			
M15232078	社会教育基礎実習	選	2				2							○	○	◎			
M11212079	ジェンダーと教育	選	2				2					◎		○		○			
M11312105	生涯学習支援論 I	選	2					2				◎	○		○				
M11312106	生涯学習支援論 II	選	2						2			◎	○		○				
M11312107	社会教育経営論 I	選	2					2				◎	○	○					
M11312108	社会教育経営論 II	選	2						2			◎	○	○					
M15332084	社会教育実習	選	2						2					○	○	◎			
M13312086	家庭教育論	選	2					2				○		◎	○				
M14422098	社会教育演習	選	2							2		○		○	◎				
M14422099	社会教育課題研究	選	2								2	○		○	◎				

専攻間履修科目(養護・福祉教育学専攻科目)

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相互理解	社会性・自律性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
M21212039	精神保健 I	選	2				2					◎							
M21112017	心理学	選	2		2							◎							
M21212026	学校保健	選	2			2						◎	○						
M21212027	児童・家庭福祉論	選	2			2						◎							
M21212024	地域福祉論 I	選	2			2						◎		○					
M21112010	社会学	選	2	2								◎							
M21312069	小児保健	選	2						2			◎							
M21312072	スクールソーシャルワーク論	選	2					2				◎		○					

## 発達教育学部児童学科

### 児童学科専門科目

◆「児童学科専門科目」より、必修科目修得の要件を満たした上で、72単位以上修得すること。

◆72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ						備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	汎用的判断・思考・相対的理解	自律性・社会性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
M42121001	児童学入門演習Ⅰ	必	2	2								◎	○	○					
M42121002	児童学入門演習Ⅱ	必	2		2							◎	○	○					
M41221003	児童学基礎演習Ⅰ	必	2			2						◎							
M41221004	児童学基礎演習Ⅱ	必	2				2					◎							
M41111005	教職論	必	2	2								◎		○	○				
M41111006	教育原論	必	2	2								◎		○		○			
M41111007	教育心理学Ⅰ	必	2	2								◎		○					
M41111008	発達心理学Ⅰ	必	2	2								◎		○					
M41111009	児童表現学	必	2	2								◎			○				
M43111010	人権教育論	必	1	1										◎	○	○			
M41122011	生理学演習	選	2	2								◎	○	○					
M42122012	ピアノ・ベーシックA	選	1	1								○	◎						
M41111013	児童保健学	必	2		2							◎		○					
M41111014	児童文化学	必	2		2							◎	○	○					
M41122015	教育心理学Ⅱ	選	2		2							◎		○	○				
M41112016	幼児と表現	選	2		2							◎			○				
M41112017	保育原理	選	2		2							◎		○					
M41112018	乳児保育Ⅰ	選	2		2							◎	○	○					
M41112019	絵本論	選	2		2							◎			○				
M44112020	現代文化・芸術論	選	2		2							○				◎			
M42122021	ピアノ・ベーシックB	選	1		1							○	◎						
M41212022	発達心理学Ⅱ	選	2			2						◎		○					
M41212023	社会福祉	選	2			2						◎							
M41212024	児童家庭福祉	選	2			2						◎		○		○			
M41222025	障害児保育	選	2			2						◎		○					
M41212026	児童文学論	選	2			2						◎							
M41222027	児童音楽Ⅰ	選	2			2						◎	○						
M41222028	児童図工Ⅰ	選	2			2						◎		○					
M41212029	幼児と健康	選	2			2						◎	○						
M41212030	幼児と言葉	選	2			2						◎	○			○			
M43222031	保育内容総論	選	1			1						○		◎	○				
M43222032	保育内容演習(健康)	選	1			1						○		◎	○				
M41212033	乳児保育Ⅱ	選	1			1						◎	○	○					
M44212034	多文化教育論	選	2			2						○		○	◎				
M41212035	生涯学習概論Ⅰ	選	2			2						◎	○	○					
M43232036	保育実習Ⅰ	選	4				4							◎	○	○			
M41222037	保育実習指導Ⅰ	選	2			2						◎		○		○			
M45222038	子ども子育て支援演習Ⅰ	選	1			1						○	○		○	◎			
M41212039	教育課程論	選	2			2						◎		○					
M41222040	児童体育Ⅰ	選	2			2						◎		○		○			
M41222041	児童栄養	選	2			2						◎	○	○					
M41212042	子ども家庭支援論	選	2			2						◎		○	○	○			
M43212043	社会的養護Ⅰ	選	2			2						○		◎		○			
M41212044	幼児と人間関係	選	2			2						◎		○					
M41212045	幼児と環境	選	2			2						◎		○					
M4222046	保育内容演習(言葉)	選	1			1						○	◎						
M4222047	保育内容演習(表現)	選	1			1						○	◎						
M41212048	児童文化活動論	選	2			2						◎		○		○			
M41212049	教育社会学	選	2			2						◎		○		○			
M41212050	ジェンダーと教育	選	2			2						◎		○		○			
M41212051	生涯学習概論Ⅱ	選	2			2						◎	○	○					
M45232052	社会教育基礎実習	選	2			2								○	○	◎			
M44321053	発達支援演習	必	2			2						○			◎			○	(幼児理解と教育相談)
M41321054	児童保健学演習	必	2			2						◎	○	○					

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 知識・ 技能	汎用的 判断・ 思考・ 相互理解	対話 自律性	社会性・ 自律性					
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
M43331055	児童文化学実習	必	2					2					○		◎	○				
M41312056	教育行政学	選	2					2					◎							
M44312057	特別支援教育論	選	1					1					○			◎				
M41332058	児童発達研究法実習 I	選	2					2					◎	○		○				
M43322059	児童体育 II	選	2					2							◎	○	○			
M43322060	音楽あそび	選	2					2					○		◎	○				
M42322061	児童図工 II	選	2					2						◎						○
M41322062	保育内容演習(人間関係)	選	1					1					◎		○	○				
M44322063	保育内容演習(環境)	選	1					1					○			◎				
M41312064	幼児教育方法論	選	2					2					◎		○					○
M44332065	保育実習 II	選	2					2								◎	○	○		
M44322066	保育実習指導 II	選	1					1					○			◎	○	○		
M44332067	保育実習 III	選	2					2					○			◎	○	○		
M44322068	保育実習指導 III	選	1					1					○			◎	○	○		
M41312097	生涯学習支援論 I	選	2					2					◎	○		○				
M41312098	社会教育経営論 I	選	2					2					◎	○	○					
M45322070	子ども子育て支援演習 II	選	1					1					○	○		○	◎			
M42332071	教育実習	選	4					4					◎	○	○					
M41312072	教育実習論	選	1					1					◎	○	○					
M45321073	児童学実践演習	必	1					1								○	◎			
M41312074	児童社会学	選	2					2					◎		○					
M41322075	社会的養護 II	選	1					1					◎		○					
M43322076	子育て支援	選	1					1					○	○	◎	○				
M44332077	障害児支援実習	選	2					2					○			◎				
M41322078	子どもの認知発達	選	2					2					◎		○					
M41332079	児童発達研究法実習 II	選	2					2					◎	○		○				
M43312080	パーソナリティ発達研究	選	2					2					○		◎					
M43322081	人形劇演習	選	2					2					○		◎	○				
M44322082	児童音楽 II	選	2					2					○			◎				
M41312099	生涯学習支援論 II	選	2					2					◎	○		○				
M41312100	社会教育経営論 II	選	2					2					◎	○	○					
M45332084	社会教育実習	選	2					2							○	○	◎			
M46422085	生涯運動演習	選	2					2								○	○	◎		
M41422086	音楽応用演習 I	選	1					1					◎	○						○
M42422087	おもちゃ研究	選	1					1					○	◎						
M43422088	社会教育演習	選	2					2					○	○	◎					
M42422089	保育・教職実践演習(幼)	選	2					2					◎	○						
M41422090	音楽応用演習 II	選	1					1					◎	○						○
M44422091	社会教育課題研究	選	2					2					○		○	◎				
M41321092	児童学専門演習 I	必	2					2					◎		○	○				
M41321093	児童学専門演習 II	必	2					2					◎		○	○				
M41421094	児童学研究演習 I	必	2					2					◎		○					○
M41421095	児童学研究演習 II	必	2					2					◎		○					○
M41451096	卒業研究	必	6					6					◎		○					○

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

## 発達教育学部心理学科

### 心理学科専門科目

◆「心理学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能	汎用的 判断・ 思考・ 相互理解	対話・ 自律性・ 社会性・ 自立性						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
M52121001	心理学入門演習	必	2	2								◎								
M51121002	心理的アセスメント	必	2	2								◎		○						
M51111003	心理学概論	必	2	2								◎								
M51111004	臨床心理学概論	必	2	2								◎								
M53112005	公認心理師の職責	選	2	2								○		◎					○	
M51111006	心理学統計法	必	2	2								◎	○	○						
M51112007	人体の構造と機能及び疾病	選	2	2								◎								
M51112008	医療倫理学	選	2	2								◎		○					○	
M51111009	心理学研究法Ⅰ	必	2	2								◎	○	○						
M51112010	心理学研究法Ⅱ	選	2	2								◎	○							
M51222011	心理学研究法Ⅲ	選	2		2							◎	○							心理学研究法Ⅲ、心理学研究法Ⅳ、
M51222012	心理学研究法Ⅳ	選	2			2						◎	○							心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ
M51232013	心理学実験Ⅰ	選	2		2							◎	○	○						より4単位以上修得すること。
M51232014	心理学実験Ⅱ	選	2			2						◎	○	○						
M52221015	心理学文献講読Ⅰ	必	2		2								◎						○	
M52221016	心理学文献講読Ⅱ	必	2			2							◎						○	
M51212017	発達心理学	選	2		2							◎								
M53212018	乳幼児心理学	選	2			2						○		◎						
M53212019	障害者・障害児心理学	選	2			2						○		◎						
M51212020	感情・人格心理学	選	2			2						◎								
M51212021	精神疾患とその治療	選	2		2							◎								
M51212022	学習・言語心理学A	選	2		2							◎								
M51212023	学習・言語心理学B	選	2			2						◎								
M51212024	教育・学校心理学A	選	2		2							◎								
M51212025	教育・学校心理学B	選	2			2						◎		○						
M51212026	知覚・認知心理学A	選	2		2							◎								
M51212027	知覚・認知心理学B	選	2			2						◎								
M51212028	心理学的支援法A	選	2			2						◎		○						
M51312029	心理学的支援法B	選	2				2					◎		○						
M54212030	社会・集団・家族心理学A	選	2			2						○							◎	
M51312031	社会・集団・家族心理学B	選	2					2				◎								
M51312032	司法・犯罪心理学A	選	2				2					◎								
M51312033	司法・犯罪心理学B	選	2					2				◎								
M51312034	青年心理学	選	2				2					◎								
M53312035	生徒指導心理学	選	2			2								◎					○	
M53312036	発達障害児の心理と教育	選	2				2					○		◎					○	
M53312037	教育認知心理学	選	2					2				○		◎						
M51312038	福祉心理学	選	2						2			◎								
M51312039	関係行政論	選	2						2			◎								
M51312040	産業・組織心理学	選	2				2					◎								
M51312041	神経・生理心理学	選	2					2				◎								
M51312042	健康・医療心理学	選	2					2				◎								
M51312043	成人・老年心理学	選	2						2			◎								
M54322044	心理演習A	選	2				2					○		○	◎					
M54322045	心理演習B	選	2					2				○		○	◎					
M53321046	心理学演習Ⅰ	必	2				2							◎	○				○	
M53321047	心理学演習Ⅱ	必	2						2					◎	○				○	
M53421048	心理学演習Ⅲ	必	2							2				◎	○				○	
M53421049	心理学演習Ⅳ	必	2								2			◎	○				○	
M55432050	心理実習	選	2								2			○					◎	○
M56451051	卒業研究	必	6											○						◎



專門領域

家政学部

## 家政学部食物栄養学科

### 食物栄養学科専門科目

◆「食物栄養学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能・ 汎用的 判断	相互理解 対話・ 自覚性・ 社会性・ 自立性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
N1111001	基礎の生物学	必	2	2						◎								
N1111002	基礎の有機化学	必	2	2						◎								
N11121003	基礎の化学	必	2	2						◎								
N11121004	食物栄養基礎演習	必	2	2						◎	○	○						
N1111005	基礎調理学	必	2	2						◎	○	○						
N1111006	解剖生理学	必	2	2						◎		○					○	
N11131007	調理学実習 I	必	1	1						◎	○	○						
N1111008	食物栄養の化学	必	2	2						◎		○						
N1111009	生化学	必	2	2						◎		○					○	
N11121010	応用調理学	選	2	2						◎		○						
N12121011	科学英語A	必	2	2							◎		○					
N11131012	基礎実験	必	1	1						◎								
N11132013	食品加工学実習	選	1	1						◎		○					○	
N11131014	調理学実習 II	必	1	1						◎	○	○						
N11121015	臨床医学概論	選	2	2						◎		○					○	
N11121016	応用生理学	選	2	2						◎		○					○	
N11211017	食品学総論	必	2		2					◎		○					○	
N11211018	食品学各論	必	2		2					◎		○					○	
N11211019	基礎栄養学	必	2		2					◎		○					○	
N11212020	ライフステージ別栄養学	選	2		2					◎	○	○						
N11212021	運動栄養学	選	1		1					◎		○					○	
N11211022	食品衛生学	必	2		2					◎		○					○	
N11212023	栄養教育総論	選	2		2					◎							○	
N11212024	給食運営論	選	2		2					◎							○	
N11212025	栄養評価論	選	2		2					◎	○	○						
N11231026	食品学実験	必	2		2					◎	○	○						
N11232027	基礎栄養学実習	選	1		1					◎		○					○	
N11212028	臨床病態学	選	2		2					◎		○					○	
N11212029	微生物学	選	2		2					◎		○					○	
N11212030	介護福祉概論	選	2		2					◎		○					○	
N11212031	栄養教育各論	選	2		2					◎		○					○	
N11212032	臨床栄養学	選	2		2					◎		○						
N11212033	バイオテクノロジー	選	2		2					◎								
N1222034	科学英語B	選	2		2						◎		○					
N11212035	栄養機能論	選	1		1					◎		○					○	
N11212036	病態栄養学	選	2		2					◎		○					○	
N11212037	給食経営管理論	選	2		2					◎		○					○	
N11212038	学校栄養指導論	選	2		2					◎							○	
N11231039	生化学実験	必	1		1					◎		○					○	
N11231040	食品衛生学実験	必	1		1					◎		○					○	
N11232041	ライフステージ別栄養学実習	選	1		1					◎		○					○	
N14232042	給食運営実習	選	1		1					○	○		◎					
N12232043	臨床栄養学実習	選	1		1					○	◎	○						
N11311044	公衆衛生学	必	2		2					◎		○					○	
N11312045	公衆栄養学	選	2		2					◎	○						○	
N14312046	栄養カウンセリング論	選	2		2							○	◎				○	
N13312047	臨床栄養管理学	選	2		2					○		◎					○	
N11312048	栄養薬理学	選	1		1					◎		○						
N11331049	生理学実験	必	1		1					◎		○					○	
N11332050	解剖生理学実験	選	1		1					◎		○					○	
N11332051	バイオテクノロジー実験	選	1		1					◎		○					○	
N1332052	臨床栄養管理学実習	選	1		1					○		◎	○					
N1332053	栄養教育論実習	選	1		1					○		◎	○					
N1332054	給食経営管理実習	選	1		1					○		◎					○	
N11312055	健康環境論	選	2		2					◎		○					○	
N11312056	分子栄養学	選	2		2					◎		○					○	
N11312057	機器分析概論	選	2		2					◎								

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・技能	判断	思考・相互理解		対話・自律性	社会的自立性	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
N11312058	公衆栄養活動論	選	1					1					◎		○			
N11312059	栄養疫学	選	1					1					◎		○			
N11332060	調理学実習Ⅲ	選	1					1					◎	○	○			
N11332061	バイオサイエンス実験	選	1					1					◎					
N12332062	公衆栄養学実習	選	1					1					○	◎				○
N15312063	チーム医療論	選	1					1					○		○			◎
N14312064	学校栄養実践論	選	2					2					○			◎		○
N11312065	臨床栄養実践論	選	2					2					◎		○			○
N11312066	食行動療法論	選	2					2					◎		○			○
N11312067	健康教育実践論	選	2					2					◎		○			○
N13312068	スポーツ栄養学	選	2					2					○		◎			○
N13312069	バイオサイエンス	選	2					2					○		◎			○
N13312070	食品開発論	選	2					2					○		◎			○
N11412071	食空間プロデュース論	選	2					2					◎					
N14412072	臨床心理学概論	選	2					2					○			◎		○
N11412073	食生活・食文化論	選	2					2					◎					
N11412074	フードコーディネーター論	選	2					2					◎					
N13422075	管理栄養士特別演習	選	2					2					○		◎			
N16321076	食物栄養研究法Ⅰ	必	2					2					○	○				◎
N16421077	食物栄養研究法Ⅱ	必	2					2					○	○				◎
N16421078	食物栄養研究法Ⅲ	必	2					2					○	○				◎
N15322079	給食運営校外実習事前事後指導	選	1					1					○					◎
N15332080	給食運営校外実習	選	1					1					○	○				◎
N15322081	臨地実習事前事後指導	選	1					1					○					◎
N14332082	臨地実習(臨床栄養学Ⅰ)	選	1					1					○			◎		○
N14332083	臨地実習(臨床栄養学Ⅱ)	選	1					1					○			◎		○
N14332084	臨地実習(臨床栄養学Ⅲ)	選	1					1					○			◎		○
N14332085	臨地実習(公衆栄養学)	選	1					1					○			◎		○
N14332086	臨地実習(給食経営管理論)	選	1					1					○			◎		○
N12222087	情報処理	選	2			2							◎	○				○
N11212088	被服学概論	選	2			2	(2)						◎		○			○
N11212089	住居学概論	選	2			2	(2)						◎		○			○
N11212090	保育学	選	2			2	(2)						◎		○			○
N11312091	家庭経営学	選	2					2	(2)				◎		○			○
N11332092	衣服実習	選	2					2	(2)				◎		○			○
N11312093	家庭電気・機械	選	2					2	(2)				◎		○			○
N11212094	家庭科教育法1	選	2			2	(2)						◎		○			○
N11212095	家庭科教育法2	選	2			2	(2)						◎		○			○
N11312096	家庭科教育法3	選	2					2	(2)				◎		○			○
N11312097	家庭科教育法4	選	2					2	(2)				◎		○			○
N16451098	卒業研究	必	6							6				○	○			◎

管理栄養士、栄養士、食品衛生管理者及び食品衛生監視員、栄養教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状「家庭」、高等学校教諭一種免許状「家庭」に関する履修は、別に定める履修科目表に従うこと。  
卒業研究の単位登録時に、卒業に必要な単位数を40単位以上未修得の場合は、卒業研究、食物栄養研究法Ⅱ及び食物栄養研究法Ⅲの履修登録を認めない。

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

## 家政学部生活造形学科

### 生活造形学科専門科目

◆「生活造形学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ						備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・ 技能	汎用的 判断	思考・ 相互理解 対話	社会性・ 自律性	自立性		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
N21121001	生活造形基礎演習	必	2	2								◎		○	○			
N21111002	生活デザインベーシック	必	2	2								◎		○				
N21111003	衣生活概論	必	2	2								◎		○		○		
N21111004	建築一般構造	必	2	2								◎	○	○				
N21132005	アパレル製作実習	選	2	2								◎		○				○
N21132006	建築設計製図実習	選	2	2								◎	○					○
N23132007	デザイン実習 I	選	2	2									○	◎	○			
N23112008	生活文化学	選	2		2									◎	○			
N21112009	色彩学	選	2		2							◎	○	○				
N21112010	ファッションデザイン学	選	2		2							◎		○		○		
N21112011	アパレル設計学	選	2		2							◎	○	○				
N21112012	デザイン人間工学1	選	2		2							◎		○		○		
N21112013	住宅計画	選	2		2							◎		○	○			
N21112014	構造計画	選	2		2							◎	○	○				
N22132015	デザイン実習 II	選	2		2							○	◎	○				
N21132016	ファッションデザイン学実習 I	選	2		2							◎		○		○		
N21132017	アパレル設計製図実習	選	2		2							◎	○	○				
N22132018	空間デザイン実習 IA(※1)	選	2		2								◎	○				○
N22132019	空間デザイン実習 IB(※1)	選	2		2								◎	○				○
N25122020	クリエイティブライティング	選	2		2								○	○			◎	
N21212021	デザイン材料論	選	2			2						◎	○					
N24212022	World Art History 1	選	2			2									◎	○		
N23212023	デザイン人間工学2	選	2			2								◎				
N21212024	アパレル材料学1	選	2			2						◎		○				
N21212025	日本服飾史	選	2			2						◎		○				
N21212026	アパレル体型学	選	2			2						◎	○	○				
N21212027	ファッションブランド論	選	2			2						◎		○				
N21212028	建築計画1	選	2			2						◎	○	○				
N21212029	住宅再生論	選	2			2						◎		○		○		
N21212030	インテリア計画	選	2			2						◎		○		○		
N21212031	日本建築史	選	2			2						◎		○				
N21212032	環境計画	選	2			2						◎		○		○		
N22232033	デザイン実習 III	選	2			2						○	◎	○				
N21232034	ファッションデザイン学実習 II	選	2			2						◎		○		○		
N21232035	アパレルCAD実習(※2)	選	2			2						◎		○		○		
N22232036	空間デザイン実習 IIA(※3)	選	2			2							◎	○				○
N22232037	空間デザイン実習 IIB(※3)	選	2			2							◎	○				○
N22232038	建築CAD実習A(※4)	選	2			2							◎	○				○
N22232039	建築CAD実習B(※4)	選	2			2							◎	○				○
N22222040	外書講読1	選	2			2						○	◎	○				
N21212041	構造力学 I	選	2			2						◎		○				

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理 解 ・ 知 識	技 能	汎 用 的 判 断	思 考 ・ 相 互 理 解	社 会 性 ・ 自 律 性	自 立 性			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
N24212042	京都工芸論1	選	2				2					○			◎					
N21212043	造形芸術論1	選	2				2					◎	○	○						
N26222044	World Art History 2	選	2				2					○					○	◎		
N21212045	デザインマーケティング論	選	2				2					◎	○				○			
N21212046	アパレル材料学2	選	2				2					◎		○						
N21212047	アパレル染色学	選	2				2					◎		○						
N21212048	西洋服飾史	選	2				2					◎		○						
N21212049	ファッション社会学	選	2				2					◎		○						
N21212050	アパレル造形学	選	2				2					◎		○			○			
N21212051	ファッションビジネス論	選	2				2					◎		○			○			
N21212052	建築計画2	選	2				2					◎		○			○			
N21212053	インテリアエレメント	選	2				2					◎		○			○			
N21212054	西洋建築史	選	2				2					◎		○						
N21212055	建築環境工学	選	2				2					◎	○	○						
N21222056	伝統技法演習	選	2				2					◎		○						
N23232057	デザイン実習IVA	選	2				2						○	◎	○					
N23232058	デザイン実習IVB	選	2				2						○	◎	○					
N24232059	デザイン実習IVC	選	2				2							○	◎	○				
N23232060	アパレル繊維・材料学実験 I	選	2				2					○	○	◎						
N21232061	テキスタイルデザイン実習	選	2				2					◎	○							○
N21232062	アパレル生産実習	選	2				2					◎	○							○
N22232063	空間デザイン実習ⅢA(※5)	選	2				2						◎		○					○
N22232064	空間デザイン実習ⅢB(※5)	選	2				2						◎		○					○
N21212065	地域建築再生論	選	2				2					◎	○							○
N21212066	構造力学Ⅱ	選	2				2					◎		○						
N24312067	近代日本絵画史	選	2				2									◎	○			
N23312068	造形芸術論2	選	2				2						○	◎						○
N21312069	景観デザイン論	選	2				2					◎		○			○			
N21322070	webデザイン演習	選	2				2					◎		○						
N21312071	京都学	選	2				2					◎		○						
N23312072	衣環境論	選	2				2					○		◎			○			
N21312073	アパレル管理学	選	2				2					◎		○			○			
N21312074	アパレル企画論	選	2				2					◎		○	○					
N21312075	室内様式史	選	2				2					◎		○						
N21312076	建築材料	選	2				2					◎	○	○						
N22322077	外書講読2	選	2				2						◎		○					○
N23332078	デザイン実習VA	選	2				2						○	◎	○					
N23332079	デザイン実習VB	選	2				2						○	◎	○					
N23332080	アパレル繊維・材料学実験Ⅱ	選	2				2					○	○	◎						
N22332081	アパレル企画実習	選	2				2						◎		○					○
N21332082	工芸染色実習	選	2				2					◎	○							○
N24332083	テキスタイルアドバイザー実習(※6)	選	2				2							○	◎	○				
N22332084	空間デザイン実習ⅣA(※7)	選	2				2						◎	○						○
N22332085	空間デザイン実習ⅣB(※7)	選	2				2						◎	○						○
N21312086	建築デザイン論	選	2				2					◎		○			○			
N24332087	デザイン実習VC	選	2				2							○	◎					○
N21312088	消費生活論	選	2				2					◎		○						○

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考
				1回生		2回生		3回生		4回生		理 解 ・ 技 能	判 断 ・ 思 考 ・ 相 互 理 解	社 会 性 ・ 自 律 性	自 立 性				
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
N25322089	論文作成演習	選	2					2					○	○		◎			
N21312090	京都工芸論2	選	2					2				◎			○				
N21312091	ファッション文化論	選	2					2				◎		○					
N25312092	アパレル特殊講義	選	2					2					○			◎	○		
N21312093	建築法規	選	2					2				◎		○		○			
N21312094	建築設備	選	2					2				◎	○	○					
N21312095	建築施工	選	2					2				◎	○	○					
N21332096	アパレル染色整理学実験	選	2					2				◎		○			○		
N23332097	アパレル造形実習	選	2					2					◎		○	○			
N22332098	空間造形実習A(※8)	選	2					2					◎		○	○			
N22332099	空間造形実習B(※8)	選	2					2					◎	○			○		
N22332100	空間造形実習C(※8)	選	2					2					◎			○	○		
N21312101	メディアデザイン	選	2					2				◎		○					
N25312102	消費科学	選	2					2				○				◎			
N21321103	生活造形学専門演習(※9)	必	2					2				◎	○				○		
N21421104	生活造形学卒業研究演習Ⅰ	必	2						2			◎		○			○		
N21421105	生活造形学卒業研究演習Ⅱ	必	2							2		◎		○			○		
N21212106	食物栄養学概論	選	2		2							◎		○					
N21212107	保育学	選	2		2							◎	○	○			(実習及び家庭看護を含む)		
N22212108	住居学概論	選	2		2								◎	○			(製図を含む)		
N21312109	家庭経営学	選	2				2					◎		○	○	○	(家族関係学及び家庭経済学を含む)		
N22332110	調理実習	選	2				2						◎	○					
N21312111	家庭電気・機械	選	2				2					◎	○	○					
N21322112	情報処理	選	2				2					◎	○	○					
N21212113	家庭科教育法1	選	2		2	(2)						◎		○		○			
N21212114	家庭科教育法2	選	2		2	(2)						◎		○	○				
N21312115	家庭科教育法3	選	2				2	(2)				◎		○		○			
N22312116	家庭科教育法4	選	2				2	(2)				◎		○		○			
N23451117	卒業研究	必	6						6				◎		○	○			

- (※1) 空間デザイン実習Ⅰ(A,B)は、建築設計製図実習の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※2) アパレルCAD実習は、アパレル設計製図実習の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※3) 空間デザイン実習Ⅱ(A,B)は、空間デザイン実習Ⅰ(A,B)の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※4) 建築CAD実習(A,B)は、空間デザイン実習Ⅰ(A,B)の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※5) 空間デザイン実習Ⅲ(A,B)は、空間デザイン実習Ⅱ(A,B)の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※6) テキスタイルアドバイザー実習は、衣料管理士(1級)の資格取得希望者以外は履修できない。
  - (※7) 空間デザイン実習Ⅳ(A,B)は、空間デザイン実習Ⅲ(A,B)の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※8) 空間造形実習A・空間造形実習B・空間造形実習Cは、空間デザイン実習Ⅳ(A,B)の単位を修得しなければ履修できない。
  - (※9) 生活造形学専門演習は、生活造形基礎演習の単位を修得しなければ履修できない。
- 1級建築士及び2級・木造建築士並びに衣料管理士(1級)に関する履修は、別に定める履修科目表に従うこと。

専門領域

現代社会学部

## 現代社会学部 現代社会学科 (現代社会専攻・国際社会専攻・情報システム専攻)

### 現代社会学科専門科目

◆「現代社会学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ						備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・思考・対話・相互理解	社会性・自律性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
P15111001	現代社会入門Ⅰ	必	2	2															導入科目
P11111002	現代社会入門Ⅱ	必	2	2															
P16111003	ジェンダーと現代社会	必	2	2															
P12212004	専門英語Ⅰ	選	2		2														<b>スキル科目</b> 【現代社会専攻】 合計10単位以上修得すること。 【国際社会専攻】 専門英語Ⅰ・専門英語Ⅱ・専門英語Ⅲ・専門英語Ⅳの4科目8単位中3科目6単位を含む、合計10単位以上修得すること。 【情報システム専攻】 プログラミング入門とコンピュータ・ネットワークⅠの2科目4単位を含む合計10単位以上修得すること。
P12212005	専門中国語Ⅰ	選	2			2													
P12212006	専門韓国語Ⅰ	選	2				2												
P12212007	専門英語Ⅱ	選	2				2												
P12312008	専門中国語Ⅱ	選	2					2											
P12312009	専門韓国語Ⅱ	選	2						2										
P12312010	専門英語Ⅲ	選	2							2									
P12312011	専門英語Ⅳ	選	2								2								
P11112012	数学入門	選	2	2															
P11112013	基礎数学Ⅰ	選	2		2														
P11212014	基礎数学Ⅱ	選	2			2													
P12212015	数理モデル	選	2				2											(実習を含む)	
P12312016	統計学	選	2					2											
P11112017	プログラミング入門	選	2	2														(実習を含む)	
P12212018	応用プログラミングⅠ	選	2		2													(実習を含む)	
P11212019	コンピュータ・ネットワークⅠ	選	2		2														
P12212020	コンピュータ・ネットワークⅡ	選	2			2													
P12112021	社会データ処理基礎	選	2	2															
P12222022	社会データ分析入門	選	2		2														
P13222023	社会データ分析実践	選	2			2													
P12212024	社会調査法Ⅰ	選	2		2														
P12212025	社会調査法Ⅱ	選	2			2													
P12312026	社会調査法Ⅲ	選	2				2												
P11112027	哲学アプローチ	選	2	2															<b>アプローチ科目</b> 【現代社会専攻】 合計10単位以上修得すること。 【国際社会専攻】 国際関係論アプローチを含む合計10単位以上修得すること。 【情報システム専攻】 情報学アプローチを含む合計10単位以上修得すること。
P11112028	社会学アプローチ	選	2	2															
P11112029	経済学アプローチ	選	2	2															
P11112030	法学アプローチ	選	2	2															
P11112031	情報学アプローチ	選	2	2															
P11112032	政治学アプローチ	選	2	2															
P11112033	心理学アプローチ	選	2	2															
P11112034	経営学アプローチ	選	2	2															
P11112035	環境学アプローチ	選	2	2															
P11112036	国際関係論アプローチ	選	2	2															



ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識・技能	判断・分析的	思考・相互理解		社会性・自律性	自立性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
P15212037	倫理学	選	2		2					○				◎			<p>クラスター科目</p> <p>各専攻とも以下の条件のもと、合計26単位以上修得すること。</p> <p>①「主選択」及び「副選択」の2つのクラスターを選択すること。</p> <p>②主選択のクラスターから12単位以上修得すること。</p> <p>③副選択のクラスターから10単位以上修得すること。</p> <p>②及び③の条件を満たしたうえで、全7クラスターのいずれかより4単位以上修得して、合計26単位以上修得すること。</p> <p>「主選択」のクラスター</p> <p>【現代社会専攻】 「人間・環境」 「心理・文化」 「家族・地域社会」 「政治・公共政策」 「経済・ビジネス」 (5クラスターから1つ選択)</p> <p>【国際社会専攻】 「国際社会」</p> <p>【情報システム専攻】 「情報」</p>
P11212038	人間学	選	2		2					◎							
P11212039	自然環境と生態系	選	2		2					◎	○	○					
P11212040	環境政策論	選	2		2					◎	○	○					
P11212041	生命倫理学	選	2			2				◎		○		○			
P11212042	生命の起源と進化	選	2			2				◎		○					
P11312043	現代人権論	選	2				2			◎	○				○		
P11312044	多様性の生物学	選	2				2			◎	○						
P12312045	環境開発論	選	2				2			○	◎						
P11312046	応用倫理学	選	2					2		◎	○				○		
P12312047	エネルギーと環境	選	2					2		○	◎						
P13312048	環境社会学	選	2					2		○		◎					
P11212049	臨床心理学	選	2			2				◎		○					
P14212050	文化人類学	選	2			2				○				◎			
P11212051	社会学概論	選	2			2				◎	○			○			
P11212052	社会心理学	選	2				2			◎					○		
P11212053	文化社会学	選	2				2			◎	○	○					
P11212054	ニューロサイエンス概論	選	2				2			◎							
P11312055	精神医学概論	選	2					2		◎							
P12312056	メディア文化論	選	2					2		○	◎						
P12312057	労働の社会学	選	2					2		○	◎						
P14312058	人間関係の心理学	選	2						2	○				◎			
P11312059	比較文化精神医学	選	2						2	◎		○					
P11312060	現代宗教論	選	2						2	◎				○			
P11212061	家族社会学	選	2				2			◎		○					
P11212062	福祉と家族	選	2				2			◎	○	○					
P11212063	地域社会学	選	2				2			◎		○		○			
P11212064	市民活動論	選	2				2			◎		○					
P11212065	家族法	選	2				2			◎	○						
P12212066	民俗文化論	選	2				2			○	◎						
P11212067	国際結婚論	選	2				2			◎	○			○			
P14312068	比較家族史	選	2					2		◎				◎		○	
P11312069	ジェンダーと法	選	2					2		◎	○	○					
P13312070	家族経済論	選	2					2		○		◎					
P14312071	家族の人類学	選	2						2	○				◎			
P11312072	ジェンダーの社会学	選	2						2	◎	○	○					
P12212073	政治過程論	選	2				2			○	◎	○					
P11212074	マイノリティと法	選	2				2			◎		○					
P11212075	日本国憲法	選	2				2			◎	○	○					
P12212076	行政学	選	2				2			○	◎	○					
P11212077	法社会学	選	2				2			◎		○					
P11212078	民法	選	2				2			◎	○	○					
P12212079	比較政治論	選	2				2			○	◎						
P11312080	行政法	選	2					2		◎	○	○					
P12312081	社会福祉論	選	2					2		○	◎						
P11312082	地方自治論	選	2					2		◎	○	○					
P11312083	都市政策論	選	2						2	◎	○						
P11312084	労働法	選	2						2	◎	○	○					
P12312085	社会保障制度論	選	2						2	○	◎				○		
P13212086	マクロ経済学	選	2				2			○	○	◎					
P13212087	ミクロ経済学	選	2				2			○		◎					
P13212088	経営戦略論	選	2				2			○	○	◎					
P12212089	簿記 I	選	2				2				◎	○			○		
P13212090	金融論	選	2				2			○	○	◎					
P13212091	財政学	選	2				2			○	○	◎					
P13212092	組織マネジメント論	選	2				2			○		◎					
P12212093	簿記 II	選	2				2				◎	○			○		
P13312094	国際経営論	選	2					2		○		◎					
P13312095	マーケティング論	選	2					2			○	◎					
P13312096	会計学	選	2					2			○	◎					
P13312097	日本経済史	選	2						2	○	○	◎					
P13312098	教育経済学	選	2						2	○		◎					
P13322099	マーケティング分析	選	2						2		○	◎					

I. 京都女子大学のカリキュラム

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

III. 免許・諸資格

IV. 履修要項等諸規則

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考				
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	汎用的技能	判断・思考		対話・相互理解	社会性・自律性	自立性	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
P13212100	アルゴリズム論	選	2		2						○		◎						クラスター科目  (実習を含む)
P11212101	情報数学	選	2		2						◎	○	○						
P11212102	社会情報学	選	2		2						◎		○						
P11212103	情報ネットワーク	選	2			2					◎	○	○						
P11212104	情報文明論	選	2			2					◎		○				○		
P11212105	ロボット社会論	選	2			2					◎	○					○		
P11312106	情報理論	選	2			2					◎	○	○						
P11312107	情報セキュリティ	選	2			2					◎	○	○						
P11312108	データベース	選	2			2					◎	○							
P12312109	応用データベース	選	2				2				○	◎							
P11312110	知能情報学	選	2			2					◎	○							
P12312111	Webシステムデザイン	選	2				2					◎	○						
P11212112	現代ヨーロッパ論	選	2		2						◎		○	○					
P11212113	現代アジア論	選	2		2						◎		○	○					
P11212114	現代アフリカ論	選	2		2						◎		○	○					
P11212115	現代北米論	選	2		2						◎		○	○					
P11212116	国際関係論	選	2			2					◎		○						
P11212117	現代イスラーム地域論	選	2			2					◎		○						
P11212118	現代ラテンアメリカ論	選	2			2					◎		○	○					
P13212119	国際法	選	2			2					○		◎						
P11312120	国際関係史	選	2			2					◎		○						
P13312121	国際経済学	選	2			2					○	○	◎						
P11312122	国際観光論	選	2			2					◎		○						
P14312123	多文化社会論	選	2				2						○	◎					
P13312124	現代世界経済論	選	2				2				○	○	◎						
P12322125	ソーシャル・リサーチ I	選	2			2						◎	○			○			
P12322126	ソーシャル・リサーチ II	選	2			2					○	◎	○						
P12322127	フィールド・ワーク I	選	2			2						◎	○			○			
P12322128	フィールド・ワーク II	選	2			2					○	◎	○						
P13312129	簿記Ⅲ	選	2			2						○	◎						
P13312130	サービス経営特論	選	2			2							◎	○					
P12212131	応用プログラミングⅡ	選	2			2					○	◎				○			
P11212132	ヒューマンコンピュータインタラクション	選	2			2					◎		○						
P12312133	応用ネットワーク	選	2			2					○	◎				○			
P11312134	プロジェクト管理	選	2			2					◎		○						
P12312135	ネットワーク運用	選	2				2				○	◎				○			
P11312136	情報技術者の社会的責任	選	2				2				◎		○			○			
P14232137	多文化理解実習	選	2		2								○	◎					
P13212138	国際協力論	選	2			2					○		◎	○					
P11112139	短期英語研修A	選	4	4							◎	○		○					
P11112140	短期英語研修B	選	2	2							◎	○		○					
P11212141	Japan Studies 1	選	2		2						◎	○		○					
P11212142	Japan Studies 2	選	2		2						◎	○		○					
P11212143	Study Abroad A I	選	4		4						◎	○		○					
P11212144	Study Abroad A II	選	4		4						◎	○		○					
P11212145	Study Abroad A III	選	4		4						◎	○		○					
P11212146	Study Abroad A IV	選	4		4						◎	○		○					
P11312147	Study Abroad A V	選	4		4						◎	○		○					
P11312148	Study Abroad A VI	選	4		4						◎	○		○					
P11312149	Study Abroad A VII	選	4		4						◎	○		○					
P11312150	Study Abroad A VIII	選	4		4						◎	○		○					
P11212151	Study Abroad B I	選	2		2						◎	○		○					
P11312152	Study Abroad B II	選	2		2						◎	○		○					
P11212153	特講A	選	2		2						◎								
P11212154	特講B	選	2		2						◎								
P11312155	特講C	選	2			2					◎								
P11312156	特講D	選	2			2					◎								

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	汎用的技能	判断・思考	対話・相互理解	社会性・自律性	自立性					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
P11112157	日本史概論	選	2	2	(2)						◎											
P11112158	東洋史概論	選	2	2	(2)						◎											
P11112159	西洋史概論	選	2	2	(2)						◎											
P11212160	歴史地理学概論	選	2			2	(2)				◎											
P11212161	人文地理学概論	選	2			2	(2)				◎											
P11312162	地誌学概論	選	2					2	(2)		◎											
P11312163	自然地理学概論	選	2					2	(2)		◎											
P11212164	社会科教育法(地理歴史分野)	選	2			2	(2)				◎											
P11212165	社会科教育法(公民分野)	選	2			2	(2)				◎											
P11312166	地理歴史科教育法	選	2					2	(2)		◎											
P11312167	公民科教育法	選	2					2	(2)		◎											
P11212168	情報科教育法1	選	2			2					◎								○			
P11212169	情報科教育法2	選	2				2				◎								○			
P13121170	基礎演習 I	必	2	2										◎					○			
P13121171	基礎演習 II	必	2		2									◎					○			
P13221172	演習 I	必	2			2								◎					○			
P13221173	演習 II	必	2				2							◎					○			
P13321174	演習 III	必	2					2						◎					○			
P13321175	演習 IV	必	2						2					◎					○			
P13421176	演習 V	必	2							2				◎					○			
P13421177	演習 VI	必	2								2			◎					○			
P15451178	卒業論文	必	4							4		○							◎			

- (注1)「専門中国語 I」及び「専門中国語 II」は、「中国語 I A1」、「中国語 I A2」、「中国語 I B1」、「中国語 I B2」及び「中国語 II A1」の5科目(5単位)、並びに「中国語 II A2」または「中国語 II A3」のいずれか1科目(1単位)、合計6科目(6単位)を修得しなければ履修できない。
- (注2)「専門コリア語 I」及び「専門コリア語 II」は、「コリア語 I A1」、「コリア語 I A2」、「コリア語 I B1」、「コリア語 I B2」及び「コリア語 II A1」の5科目(5単位)、並びに「コリア語 II A2」または「コリア語 II A3」のいずれか1科目(1単位)、合計6科目(6単位)を修得しなければ履修できない。
- (注3)「社会データ分析実践」は「社会データ分析入門」の単位を修得しなければ履修できない。
- (注4)「ソーシャル・リサーチ I」及び「フィールド・ワーク I」は、「社会データ処理基礎」の単位を修得しなければ履修できない。
- (注5)「簿記Ⅲ」は、「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」の単位を修得しなければ履修できない。
- (注6)「サービス経営特論」は、「経営戦略論」「組織マネジメント論」「マーケティング論」の単位を修得しなければ履修できない。
- (注7)「多文化理解実習」「短期英語研修A」「短期英語研修B」は、履修要項第4条第4項に定める「1年間に登録できる授業科目の単位数」に含めない。
- (注8)「Study Abroad A I」～「Study Abroad AⅧ」、「Study Abroad B I」及び「Study Abroad B II」は半期・通年の留学の読み替え科目。(単位登録、単位の認定等必要な事項は別に定める。)これらの科目は「国際関係論アプローチ」の単位を予め修得しなければ履修できない。
- (注9)「演習 V」、「演習 VI」及び「卒業論文」は、「基礎演習 I」、「基礎演習 II」、「演習 I」、「演習 II」、「演習 III」及び「演習 IV」の6科目(12単位)中、4科目(8単位)以上修得しなければ履修できない。



専門領域

法学部

## 法学部法学科

### 法学科専門科目

◆「法学科専門科目」より、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たした上で、合計72単位以上修得すること。  
72単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として含めることができる。

ナンバリング	科目名	必修の別	単位数	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考				
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・理解	汎用的技能	批判的・思考力	相互理解	対話・自律性・社会性	自立性						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
Q11112001	入門科目 法学入門	選	2	2								◎		○									
Q11112002	司法制度入門	選	2	2								◎		○									
Q12121003	導入演習	必	2	2									◎		○								○
Q11112004	基礎法科目 日本法制史	選	2	2								◎		○									
Q11112005	西洋法制史	選	2		2							◎	○										
Q13212006	法社会学	選	2			2							○	◎									
Q13312007	法哲学	選	2									◎		◎									
Q11312008	英米法 I	選	2					2				◎	○	○									
Q11312009	英米法 II	選	2					2				◎	○	○									
Q11111010	公法科目 憲法 I A(人権)	必	2	2								◎		○									
Q11112011	憲法 I B(人権)	選	2	2								◎		○									
Q11112012	憲法 II A(統治)	選	2		2							◎		○									
Q11112013	憲法 II B(統治)	選	2		2							◎		○									
Q11212014	行政法総論 I	選	2			2						◎		○									
Q11212015	行政法総論 II	選	2			2						◎		○									
Q11212016	行政救済法	選	2				2					◎			○								
Q11312017	地方自治法	選	2						2			◎		○									
Q11111018	民事法科目 民法 I A(総則)	必	2	2								◎		○									
Q11112019	民法 I B(総則)	選	2	2								◎		○									
Q11112020	民法 II(物権)	選	2		2							◎		○									
Q11212021	民法 III(担保物権)	選	2				2					◎		○									
Q11212022	民法 IV A(債権総論)	選	2			2						◎		○									
Q11212023	民法 IV B(債権総論)	選	2			2						◎		○									
Q11112024	民法 V A(債権各論)	選	2		2							◎		○									
Q11212025	民法 V B(債権各論)	選	2				2					◎		○									
Q11112026	民法 VI A(親族・相続)	選	2		2							◎		○									
Q11212027	民法 VI B(親族・相続)	選	2				2					◎		○									
Q11312028	民事訴訟法 I	選	2					2				◎		○									
Q13312029	民事訴訟法 II	選	2						2			◎		◎									
Q11312030	民事執行法・民事保全法	選	2						2			◎		○									
Q11312031	破産法	選	2						2			◎		○									
Q11211032	商事法科目 企業法総論	必	2			2						◎		○									
Q11212033	商取引法	選	2			2						◎		○									
Q11212034	会社法 I(ガバナンス)	選	2				2					◎		○									
Q11212035	会社法 II(ファイナンス)	選	2				2					◎		○									
Q11312036	保険法	選	2					2				◎		○									
Q11312037	有価証券法	選	2						2			◎		○									
Q11111038	刑事法科目 刑法 I A(総論)	必	2	2								◎		○									
Q11112039	刑法 I B(総論)	選	2	2								◎		○									
Q11112040	刑法 II A(各論)	選	2		2							◎		○									
Q11112041	刑法 II B(各論)	選	2		2							◎		○									
Q11212042	刑事訴訟法 I	選	2			2						◎		○									
Q12212043	刑事訴訟法 II	選	2				2					◎	◎										
Q11312044	刑事政策 I(犯罪原因)	選	2						2			◎		○									
Q11312045	刑事政策 II(犯罪対策)	選	2						2			◎		○									
Q11312046	少年法	選	2						2			◎		○									
Q11212047	租税法	選	2			2						◎		○									
Q11212048	生命倫理法	選	2				2					◎		○									
Q11212049	法と心理	選	2				2					◎		○									
Q11212050	現代法科目 労働法 I	選	2				2					◎		○									
Q11212051	労働法 II	選	2				2					◎		○									
Q11312052	社会保障法	選	2					2				◎		○									
Q11312053	知的財産法 I	選	2					2				◎		○									
Q11312054	知的財産法 II	選	2					2				◎		○									
Q11312055	消費者法	選	2						2			◎		○									
Q11312056	経済法	選	2						2			◎		○									
Q11412057	模擬裁判	選	2							2		◎											

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数				カリキュラムマップ							備考			
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・理解	技能的・汎用的	思考・判断		相互理解	対話・自律性	社会性・自律性
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
Q11112058	国際機構論	選	2		2							◎			○			
Q11212059	国際法 I A	選	2			2						◎		○				
Q11212060	国際法 I B	選	2			2						◎		○				
Q11212061	国際法 II	選	2				2					◎		○				
Q11312062	国際法 III	選	2					2				◎		○				
Q11312063	国際私法 I A	選	2					2				◎		○				
Q11312064	国際私法 II A	選	2					2				◎		○				
Q11312065	国際私法 I B	選	2						2			◎		○				
Q11312066	国際私法 II B	選	2						2			◎		○				
Q11112067	政治学	選	2	2								◎		○				
Q11112068	政治思想史	選	2		2							◎		○				
Q11212069	比較政治論	選	2				2					◎		○				
Q11212070	行政学	選	2				2					◎		○				
Q11212071	財政学	選	2				2					◎		○				
Q11312072	政策学	選	2					2				◎		○				
Q11312073	地方自治論	選	2					2				◎		○				
Q11112074	国際社会と日本	選	2	2								◎		○				
Q11112075	国際人権論	選	2		2							◎		○				
Q11212076	国際関係論	選	2			2						◎		○				
Q11212077	グローバル社会論	選	2			2						◎		○				
Q13212078	平和研究 I	選	2				2					○	◎	○				
Q13212079	平和研究 II	選	2				2					○	◎	○				
Q11312080	国際関係史	選	2					2				◎		○				
Q11112081	ミクロ経済学	選	2		2							◎		○				
Q11212082	マクロ経済学	選	2			2						◎		○				
Q11312083	国際経済学	選	2					2				◎		○				
Q11312084	会計学	選	2					2				◎	○					
Q11111085	ジェンダー法 I	必	2		2							◎		○				
Q14232086	ジェンダー法実習	選	2			2								◎	○			
Q13212087	ジェンダー法 II	選	2			2						○		◎				
Q13212088	ジェンダー法 III	選	2			2						○		◎				
Q13212089	ジェンダー法 IV	選	2			2						○		◎				
Q13212090	ジェンダー法 V	選	2				2					○		◎				
Q13312091	ジェンダー法 VI	選	2					2						◎			○	
Q11212092	生命と法	選	2			2						◎		○				
Q13312093	平和と女性	選	2					2				○		◎	○			
Q11112094	実務法学基礎 I	選	2	2								◎	○					
Q11112095	実務法学基礎 II	選	2	2								◎		○				
Q11112096	実務法学基礎 III	選	2		2							◎		○				
Q11212097	実務法学 I	選	2			2						◎		○				
Q11212098	実務法学 II	選	2			2						◎		○				
Q15212099	法律アクティブ・リサーチ I	選	2				2							○	○	◎		
Q15312100	法律アクティブ・リサーチ II	選	2					2						○	○	◎		
Q12322101	外国語文献講読 I (英)	選	2					2				○	◎	○				
Q12322102	外国語文献講読 I (仏)	選	2					2				○	◎	○				
Q12322103	外国語文献講読 I (独)	選	2					2				○	◎	○				
Q12322104	外国語文献講読 II (英)	選	2						2			○	◎	○				
Q12121105	基礎演習	必	2		2								◎		○		○	
Q13221106	専門入門演習 I	必	2			2								◎	○		○	
Q13221107	専門入門演習 II	必	2				2							◎	○		○	
Q13321108	事例演習 I	必	2					2						◎	○		○	
Q13321109	事例演習 II	必	2						2					◎	○		○	
Q13421110	専門演習 I	必	2							2				◎	○		○	
Q13421111	専門演習 II	必	2								2			◎	○		○	
Q13422112	法學文献講読	選	2							2				◎			○	

6単位選択必修  
(「ジェンダー法 I」を除く8科目から3科目選択)  
※「ジェンダー法 III」「ジェンダー法 IV」は隔年開講

ナンバリング	科目名	必 選 の 別	単 位 数 計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ							備考						
				1回生		2回生		3回生		4回生		知識・ 理解	技能 汎用的	判断 思考・ 意思	相互 理解	対話・ 自律性	社会性・ 自律性								
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期														
Q1112113	日本史概論	選	2	2	(2)																				
Q1112114	東洋史概論	選	2	2	(2)																				
Q1112115	西洋史概論	選	2	2	(2)																				
Q1112116	心理学アプローチ	選	2		2																				
Q1121217	倫理学	選	2			2																			
Q1121218	歴史地理学概論	選	2			2	(2)																		
Q1121219	人文地理学概論	選	2			2	(2)																		
Q1131220	地誌学概論	選	2					2	(2)																
Q1131221	自然地理学概論	選	2					2	(2)																
Q1131222	生命倫理学	選	2						2																
Q1121223	社会科教育法(地理歴史分野)	選	2			2	(2)																		
Q1121224	社会科教育法(公民分野)	選	2			2	(2)																		
Q1131225	地理歴史科教育法	選	2					2	(2)																
Q1131226	公民科教育法	選	2					2	(2)																
Q16451127	卒業研究	必	2							2															

(注) 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、法學文献講読及び卒業研究は、導入演習、基礎演習、専門入門演習Ⅰ、専門入門演習Ⅱ、事例演習Ⅰ、事例演習Ⅱの6科目12単位中、4科目8単位以上修得しなければ履修できない。



# Ⅲ. 免許・諸資格

## 目次

### 教職課程

【学科・専攻別 取得可能免許一覧】.....	P.79
教員免許の取得にあたって .....	P.80
教員免許 科目履修表 .....	P.84

### 諸資格

【学科・専攻別 取得可能諸資格一覧】.....	P.109
諸資格 科目履修表.....	P.110



# 教職課程

## 【学科・専攻別 取得可能免許一覧】

学科・専攻ごとに、取得可能な免許種に「●」を付しています。  
「●」の下に履修表の掲載ページを記載しています。

学科・専攻 教員免許の種類	国文学科	英文学科	史学科	教育学専攻 教育学科	養護・福祉教育学専攻 教育学科	音楽教育学専攻 教育学科	児童学科	心理学科	食物栄養学科	生活造形学科	現代社会学科	法学科
中学校(国語)	● P.84											
中学校(外国語「英語」)		● P.86										
中学校(社会)			● P.88								● P.104	● P.107
中学校(保健)				● P.93								
中学校(音楽)					● P.96							
中学校(家庭)									● P.99	● P.102		
高等学校(国語)	● P.85											
高等学校(外国語「英語」)		● P.87										
高等学校(地理歴史)			● P.89									
高等学校(公民)											● P.105	● P.108
高等学校(情報)											● P.106	
高等学校(保健)				● P.94								
高等学校(音楽)					● P.97							
高等学校(家庭)									● P.100	● P.103		
小学校				● P.91								
幼稚園				● P.90		● P.98						
特別支援学校				● P.92								
養護教諭					● P.95							
栄養教諭									● P.101			

# 教員免許の取得にあたって

## 1. 教育職員免許状と教職課程の意義

教員として働くためには、「**教育職員免許状**」（以下「免許状」）を取得することが必要です。免許状は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・栄養教諭・養護教諭等、学校種や免許種ごとに分かれており、さらに中学校や高等学校では、教科別に分かれています。例えば、小学校教諭の普通免許状を所持していれば、小学校の国語や社会などの全教科を教えることができます。それに対して、中学校の場合は、国語を教えるには中学校「国語」の免許状、社会を教えるには中学校「社会」の免許状が必要となります。そのため、教員を目指す場合には、どの学校種のどの教科を教えたいのかを決めて、免許状を取得することになります。

免許状を取得するためには、教職課程のある大学等において、所定の単位を修得する必要があります。大学を卒業し、免許状取得の所要資格を得た後、各都道府県の教育委員会へ申請手続きを行うことで、免許状が授与されます。

教員は子どもたちの将来を担う重要な存在であるため、採用当初から教科指導、生徒指導等を大きな支障なく実践できなければなりません。そのため、教壇に立つ前に、教職課程において、教員としての資質・能力を十分に身につけることは、非常に大切なことであり、皆さんの指導を受けることになる子どもたちへの責務でもあります。

また、教職課程には、教育実習、介護等体験といった実習や体験を伴います。これらの実習や体験は、基本的に学外の組織、施設のご協力のもと、実施されています。実習や体験の受け入れ側では、皆さんが教員となって、子どもたちの将来を担って活躍してもらいたいという期待をこめて、ほとんど無償で、ご指導くださいます。安易な気持ちで教職課程履修を進め、介護等体験や教育実習の申し込みをしておきながら、一般企業への就職等を理由に辞退することのないようにしてください。

教職課程の履修には、以上のような意義がある、ということをお心に銘じてください。

※教職課程は国が定めた「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」に則っています。

## 2. 教職課程ハンドブックの配布について

『教職課程ハンドブック』とは、教職課程（免許状を取得するための課程）の概要や履修方法、各種手続き方法をまとめたものです。2回生時に開催する「**教職課程ガイダンス**」にて配布します。配布対象の学生は、後述の「教職課程履修費」を納入した学生となります。

## 3. 教職課程履修費について

履修要項第9章の第57条に規定のとおり、教職課程を履修する者は「**教職課程履修費**」の納入が必要となります。2回生時より毎年13,000円（合計39,000円）を納入してください。納入期間等の詳細については、1回生終了時に「京女ポータル」にてお知らせします。

## 4. 取得できる免許状の種類

国からの課程認定により、所属する学科・専攻で取得できる免許状は、下表に示すとおりです。免許状取得のために必要な科目及び単位数は、P. 84～P. 108 に記載しています。

学部	学科・専攻	学校種	教科	先修条件科目
文学部	国文学科	中学校教諭一種免許状	国語	教職論、教育原論、教育心理学、 国語科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	国語	
	英文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語「英語」 外国語「英語」	教職論、教育原論、教育心理学、 英語科教育法1、人権教育論
	史学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史	教職論、教育原論、教育心理学、 社会科教育法（地理歴史分野）、 人権教育論
発達教育学部	教育学科 教育学専攻	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学、 人権教育論
		特別支援学校教諭 一種免許状（※）		特別支援教育総論、知的障害者の 生理・病理、病弱者の心理・生理・ 病理、知的障害教育論
	教育学科 養護・福祉 教育学専攻	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健 保健	教職論、教育原論、教育心理学、 保健科教育法1、人権教育論
		養護教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学、 人権教育論
	教育学科 音楽教育学専攻	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音楽 音楽	教職論、教育原論、教育心理学、 音楽科教育法1、人権教育論
児童学科	幼稚園教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学Ⅰ、 人権教育論	
家政学部	食物栄養学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家庭 家庭	教職論、教育原論、教育心理学、 家庭科教育法1、人権教育論
		栄養教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学、 人権教育論、学校栄養実践論、 学校栄養指導論
	生活造形学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家庭 家庭	教職論、教育原論、教育心理学、 家庭科教育法1、人権教育論
現代社会学部	現代社会学科	中学校教諭一種免許状	社会	教職論、教育原論、教育心理学、 社会科教育法（地理歴史分野）、 人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	公民	教職論、教育原論、教育心理学、 社会科教育法（公民分野）、 人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	情報	教職論、教育原論、教育心理学、 情報科教育法1、人権教育論
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会	教職論、教育原論、教育心理学、 社会科教育法（地理歴史分野）、 人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	公民	教職論、教育原論、教育心理学、 社会科教育法（公民分野）、 人権教育論

※特別支援学校教諭一種免許状は、幼稚園・小学校いずれかの免許状を必ず取得した上で取得が可能な免許状です。

## 5. 教職課程履修制限について

京都女子大学では、養成する教員の「質」を社会に対して保証するため、成績によって、教職課程履修を制限する基準を設けています。

履修要項第9章の第55条第1項には、「各学年終了時に第42条第2項の規定により計算した**累積 GPA が「2.0」未満の者については、原則として教職課程の履修を制限する。**」とあります。たとえば、1回生の終了時に、1回生前期および後期を併せた「**累積 GPA**」が2.0に満たない場合、2回生前期および後期には、教職課程の履修が一時的に制限されます。その場合でも、2回生終了時の累積 GPA が2.0以上に回復すれば、3回生から教職課程の履修を再開することが可能です。ただし、2回生時に教職課程の履修ができなくなるため、卒業までに免許状取得のための所要単位をすべて修得するのは困難となります。GPAの値を落とさないよう、予習・復習に励み、登録した科目は最後まで履修することが大切です。また履修を取りやめる科目については、履修登録修正期間中に登録削除を行ってください。

履修要項第55条第2項「免許の種類・教科ごとに別に定める基準を満たさない者について、教職課程の履修を制限することがある。」とある履修基準については、現時点では、中学校教諭一種免許状外国語「英語」、高等学校教諭一種免許状外国語「英語」の取得に関して設けられています。各学科・専攻の指示に従ってください。

## 6. 教職課程の履修について

免許状に必要な科目の単位を修得し、大学を卒業すれば、免許状取得の所要資格が得られます。

免許状の取得を希望する場合は、卒業に必要な科目(卒業必修科目)を履修しながら、希望する免許状の科目履修表に従い、**免許状に必要な科目(教職関連科目)**を、1回生から計画的に履修してください(必ず自分が所属する学科・専攻の時間割表から選択します)。各科目の開講時期(前期・後期の別)は、年度により変更される場合がありますので、**授業科目開講一覧表(時間割表)**で、毎年、確認してください。

卒業必修科目と教職関連科目の時間割が重なった場合は、**卒業必修科目を優先してください。**

### (1) 教職課程履修登録

年度当初の履修登録時に、希望する免許種の欄にチェックを入れることにより、**教職課程履修登録**となります。この教職課程履修登録をしなければ、次の(2)に述べる、学科・専攻担当教員による「**教職課程履修記録**」の確認(面談及び指導)を受けることができません。

また、毎年2月中旬に、次年度の「**資格取得希望申請**」の確認をWeb上で行います。教職課程を履修する人は、**毎年**「資格取得希望申請」の確認を忘れないようにしてください。

### (2) 教職課程履修記録

「**教職課程履修記録**」は学期終了ごとに作成し、年度当初(4回生は4月と9月の2回)に学科・専攻担当教員による確認(面談及び指導)を受けなければなりません。

この確認を1回も受けず「**教職課程履修記録**」が整っていない場合、『履修要項』の規定により、4回生時に「**教職実践演習**」を履修することができなくなり、免許状の取得も不可能となりますので、くれぐれも注意してください。

### (3) 教育実習

教育実習は4回生時(教育学科教育学専攻の学生は2回生以降、児童学科の学生は3回生以降)に実施します。教育実習を行うためには、様々な手続きが必要となります。また、**教育実習オリエンテーション(事前指導)には、すべて出席しなければなりません**。無断欠席した場合、教育実習に行けなくなります。オリエンテーション(事前指導)・説明会の日時は、その開催日の約1カ月前に「京女ポータル」にてお知らせします。

また、教育実習を行うためには、あらかじめ単位修得しておかなければいけない科目(**先修条件科目**)やその他の条件があります。「4. 取得できる免許状の種類」に載せている先修条件科目について、本冊子「II. 履修科目表・カリキュラムマップ」で各科目の開講時期を確認し、履修計画を立てておきましょう。

### (4) 介護等体験

小学校または中学校の免許状を取得するためには「**介護等体験(特別支援学校2日間・社会福祉施設5日間)**」が必要です。**介護等体験オリエンテーション(事前指導)には、すべて出席しなければなりません**。無断欠席した場合、介護等体験に行けなくなります。

## 7. 教職課程に関するスケジュールについて

教育実習や介護等体験、免許状申請等、教職課程に関するオリエンテーション(事前指導)及びそれに関連するスケジュールは、「京女ポータル」を確認してください。「京女ポータル」にてお知らせしているスケジュールは、現時点での予定です。変更される場合もあります。

1回生時の教職課程の主なスケジュールは、下表のとおりです。2回生時に開催する「**教職課程ガイダンス**」は、教職課程の履修を希望する学生は出席してください。開催日時等の詳細については、「京女ポータル」にてお知らせします。

《1回生(2回生4月含む)のスケジュール》

時期		内容等
2020年度 (1回生)	4月	新入生ガイダンス / 資格申請(履修登録時)
	9月	教職課程履修記録の作成
	2月	資格取得希望申請の確認
2021年度 (2回生)	4月	教職課程履修費の納入(1回目) / 教職課程ガイダンス / 教職課程履修記録の作成・教員による確認(面談及び指導) / 資格申請(履修登録時)

## 8. 教職課程の履修辞退について

履修登録時に免許状の取得希望欄にチェックを入れた人は、教職課程履修者として登録されます。教職課程の履修を辞退する場合は、必ず教務課に申し出てください。

介護等体験や教育実習のオリエンテーション(事前指導)に出席した人が教職課程の履修を辞退する場合は、介護等体験・教育実習の手続きを取り消す必要があるため、すみやかに教務課に申し出て、辞退届を提出してください。(ただし、介護等体験は誓約書提出後に辞退できません。)





教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
道徳、総合的な学習の時間、教育相談等の指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計23単位)</b>		<b>すべて必修(合計24単位) ※1</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	○国語学概説A(音声言語及び文章表現を含む)	2
		○国語学概説B	2
国語史A		2	
国語史B		2	
講読国語学A		2	
講読国語学B		2	
国語学特殊講義1A		2	
国語学特殊講義1B		2	
国語学特殊講義2A		2	
国語学特殊講義2B		2	
国文学 (国文学史を含む。)	国文学(国文学史を含む。)	○国文学史1A	2
		国文学史1B	2
		国文学史2A	2
		国文学史2B	2
		講読上代A	2
		講読上代B	2
		講読中古A	2
		講読中古B	2
		講読中世A	2
		講読中世B	2
		講読近世A	2
		講読近世B	2
		講読近代A	2
		講読近代B	2
		国文学特殊講義1A	2
		国文学特殊講義1B	2
		国文学特殊講義2A	2
		国文学特殊講義2B	2
国文学特殊講義3A	2		
国文学特殊講義3B	2		
国文学特殊講義4A	2		
国文学特殊講義4B	2		
国文学特殊講義5A	2		
国文学特殊講義5B	2		
国文学特殊講義6A	2		
国文学特殊講義6B	2		
漢文学	漢文学	講読漢文A	2
		講読漢文B	2
		○漢文学A	2
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	漢文学B	2
		○国語科教育法1	2
		国語科教育法2	2
		○国語科教育法3	2
国語科教育法4	2		
<b>法定単位数(合計24単位)</b>		<b>○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。 ※2</b>	

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
法道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
	10		
教育実践に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
	教育実習	教育実習論 教育実習 中学校教育実習	1 2 2
	5		
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計27単位)		すべて必修(合計28単位)※1	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	英語学	○英語学基礎講義	2
		○英語音声学	2
		英語文法語法研究	2
		英語学研究	2
		認知言語学	2
	言語科学	2	
	英語文学	○イギリス文学基礎講義	2
		○アメリカ文学基礎講義	2
		英米文学研究1	2
		英米文学研究2	2
英語コミュニケーション	○Oral Communication I	1	
	○Oral Communication II	1	
	○Reading & Writing Speech & Presentation	1 2	
異文化理解	○異文化理解基礎講義	2	
	英語圏研究1	2	
	英語圏研究2	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語圏研究3	2	
	○英語科教育法1	2	
	○英語科教育法2	2	
	○英語科教育法3	2	
法定単位数(合計28単位)	○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。※2		2

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設定する独自の科目	○人権教育論	1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」	※1
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」	※2
○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
道徳、総合的な学習の時間、教育実践に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位) ※1	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	英語学	○ 英語学基礎講義	2
		○ 英語音声学	2
		英語文法語法研究	2
		英語学研究	2
		認知言語学	2
	言語科学	2	
	英語文学	○ イギリス文学基礎講義	2
		○ アメリカ文学基礎講義	2
		英米文学研究1	2
		英米文学研究2	2
英語コミュニケーション	○ Oral Communication I	1	
	○ Oral Communication II	1	
	○ Reading & Writing	1	
	Speech & Presentation	2	
異文化理解	○ 異文化理解基礎講義	2	
	英語圏研究1	2	
	英語圏研究2	2	
		英語圏研究3	2
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○ 英語科教育法1	2	
	英語科教育法2	2	
	○ 英語科教育法3	2	
	英語科教育法4	2	
法定単位数(合計24単位)		○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。 ※2	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○ 人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
法道徳及び生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法	教育方法論	2
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導論 (生徒指導と教育相談)	2
	生徒指導の理論及び方法	進路指導論	2
	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育実習論	1
教育実践に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育実習	2
	教育実習	中学校教育実習	2
	教職実践演習	教職実践演習 (中・高)	2
<b>法定単位数 (合計27単位)</b>		<b>すべて必修 (合計28単位) ※1</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設大定学する独自の科目	○人権教育論	1
	法定単位数 (27単位) を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数 (28単位) を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	○ 日本史概論 A	2
		○ 日本史概論 B	2
		○ 東洋史概論 A	2
		○ 東洋史概論 B	2
		○ 西洋史概論 A	2
		○ 西洋史概論 B	2
		日本史特殊講義 1	2
		日本史特殊講義 2	2
		日本史特殊講義 3	2
		日本史特殊講義 4	2
		日本史特殊講義 5	2
		日本史特殊講義 6	2
		日本史特殊講義 7	2
		日本史特殊講義 8	2
		日本史特殊講義 9	2
		日本史特殊講義 10	2
		東洋史特殊講義 1	2
		東洋史特殊講義 2	2
		東洋史特殊講義 3	2
		東洋史特殊講義 4	2
		東洋史特殊講義 5	2
		東洋史特殊講義 6	2
		東洋史特殊講義 7	2
		東洋史特殊講義 8	2
		西洋史特殊講義 1	2
		西洋史特殊講義 2	2
		西洋史特殊講義 3	2
		西洋史特殊講義 4	2
西洋史特殊講義 5	2		
西洋史特殊講義 6	2		
西洋史特殊講義 7	2		
西洋史特殊講義 8	2		
地理学 (地誌を含む。)	歴史地理学概論	2	
	○ 人文地理学概論	2	
	○ 地誌	2	
	○ 自然地理学	2	
「法律学、政治学」	○ 法律学研究	2	
「社会学、経済学」	○ 経済学研究	2	
「哲学、倫理学、宗教学」	△ 哲学研究	2	
	△ 宗教学研究	2	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	○ 社会科教育法 (地理歴史分野)	2	
	○ 社会科教育法 (公民分野)	2	
	○ 地理歴史科教育法	2	
	○ 公民科教育法	2	
<b>法定単位数 (合計28単位)</b>	・○印を付した科目は必修。 ・△印を付した「哲学研究」、「宗教学研究」の2科目のうち、いずれか1科目2単位以上修得すること。 ・合計32単位以上修得すること。 ※2		

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳及び総合的な学習の指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育実習に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計23単位)</b>		<b>すべて必修(合計24単位)※1</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	○道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
日本史		○日本史概論A	2
		○日本史概論B	2
		日本史特殊講義1	2
		日本史特殊講義2	2
		日本史特殊講義3	2
		日本史特殊講義4	2
		日本史特殊講義5	2
		日本史特殊講義6	2
		日本史特殊講義7	2
		日本史特殊講義8	2
日本史特殊講義9	2		
日本史特殊講義10	2		
外国史		○東洋史概論A	2
		○東洋史概論B	2
		東洋史特殊講義1	2
		東洋史特殊講義2	2
		東洋史特殊講義3	2
		東洋史特殊講義4	2
		東洋史特殊講義5	2
		東洋史特殊講義6	2
		東洋史特殊講義7	2
		東洋史特殊講義8	2
		○西洋史概論A	2
		○西洋史概論B	2
		西洋史特殊講義1	2
		西洋史特殊講義2	2
		西洋史特殊講義3	2
		西洋史特殊講義4	2
西洋史特殊講義5	2		
西洋史特殊講義6	2		
西洋史特殊講義7	2		
西洋史特殊講義8	2		
人文地理学・自然地理学		歴史地理学概論	2
		○人文地理学概論	2
		○自然地理学	2
地誌		○地誌	2
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		○社会科教育法(地理歴史分野)	2
		○地理歴史科教育法	2
<b>法定単位数(合計24単位)</b>		<b>○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。※2</b>	

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

# 幼稚園教諭一種免許状

# (教育学科 教育学専攻) 2020

## 教育の基礎的理解に関する科目等

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原論
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教職論
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○ 教育行政学 生涯学習概論 I
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論
教育の指導法及び総合的な学習の時間に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	○ 教育方法論
	幼児理解の理論及び方法		○ 幼児理解と教育相談
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
教育実践に関する科目	教育実習	5	○ 教育実習論 I ○ 教育実習論 II ○ 教育実習 I ○ 教育実習 II
	教職実践演習		○ 教職実践演習(幼・小)
<b>法定単位数(合計21単位)</b>			<b>○印を付した科目は必修。(合計24単位以上修得すること) ※1</b>

## 領域及び保育内容の指導法に関する科目(すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目
領域に関する専門的事項(※)	国語	16	国語科教育内容論
	算数		算数科教育内容論
	生活		生活科教育内容論
	音楽		音楽科教育内容論
	図画工作		図工科教育内容論
	体育		体育科教育内容論
保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		16	保育内容指導法 1(健康)
			保育内容指導法 2(人間関係)
			保育内容指導法 3(環境)
			保育内容指導法 4(言葉)
			保育内容指導法 5(表現)
<b>法定単位数(合計16単位)</b>			<b>すべて必修(合計22単位) ※2</b>

## 大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○ 人権教育論	1
	道徳教育論	2
	幼児教育論	2
	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	法定単位数(21単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
法定単位数(16単位)を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 ※2		
<b>○印を付した科目は必修。合計14単位以上修得すること。</b>		

### (※)領域に関する専門的事項について

教育職員免許法施行規則の改正に伴う経過措置として、教職課程(小学校教諭)の「教科に関する専門的事項」の単位修得により、教職課程(幼稚園教諭)の「領域に関する専門的事項」の単位修得とみなす。(2022年度入学生まで適用)ただし、卒業と同時に幼稚園教諭免許取得に必要な単位が修得できなかった者が、卒業後に免許取得を目指す場合は、同経過措置が適用されないため、改正法による「領域に関する専門的事項」に該当する科目の単位修得が必要となる。

## 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

小学校教諭一種免許状

(教育学科 教育学専攻) 2020

教育の基礎的理解に関する科目等

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原論
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教職論
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○ 教育行政学 生涯学習概論 I
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論
道徳、生徒指導、総合的な学習の時間に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	○ 道徳教育論
	総合的な学習の時間の指導法		○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
	特別活動の指導法		○ 教育方法論
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		
	生徒指導の理論及び方法		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	○ 生徒指導論 (生徒指導と教育相談)		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○ 進路指導論		
教育実践に関する科目	教育実習	5	○ 教育実習論 I
			○ 教育実習論 II
教育実践に関する科目	教職実践演習	2	○ 教育実習 I
			○ 教育実習 II
法定単位数(合計27単位)		○印を付した科目は必修。(合計30単位以上修得すること) ※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数
設大定学が独自に設定する科目	○ 人権教育論 1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1
	法定単位数(30単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2
○印を付した科目は必修。合計2単位以上修得すること。	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数
日本国憲法	日本国憲法 2
体育	運動と健康科学 2
	スポーツ実践 1
外国語コミュニケーション	英語 I A1 1
	英語 I A2 1
	英語 I B1 1
	英語 I B2 1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎 2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には「介護等体験」が必要です。

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	30	国語科教育内容論 2
	社会		社会科教育内容論 2
	算数		算数科教育内容論 2
	理科		理科教育内容論 2
	生活		生活科教育内容論 2
	音楽		音楽科教育内容論 2
	図画工作		図工科教育内容論 2
	家庭		家庭科教育内容論 2
	体育		体育科教育内容論 2
	外国語		外国語科教育内容論 2
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語(書写を含む。)	30	○ 国語科教育方法論 2
	社会		○ 社会科教育方法論 2
	算数		○ 算数科教育方法論 2
	理科		○ 理科教育方法論 2
	生活		○ 生活科教育方法論 2
	音楽		○ 音楽科教育方法論 2
	図画工作		○ 図工科教育方法論 2
	家庭		○ 家庭科教育方法論 2
	体育		○ 体育科教育方法論 2
	外国語		○ 外国語科教育方法論 2
法定単位数(合計30単位)		○印を付した科目は必修。選択必修の条件を満たし、合計30単位以上修得すること。 ※2	

## 特別支援学校教諭一種免許状（教育学科 教育学専攻）2020

（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	本学規定科目及び単位数		備考
			授業科目	単位数	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	○ 特別支援教育総論	2	
			インクルーシブ教育論	2	
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	○ 知的障害者の心理	2	これら3科目より、1科目2単位以上修得すること。
			○ 知的障害者の生理・病理	2	
			○ 肢体不自由者の医学概論	2	
			○ 病弱者の心理・生理・病理	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		○ 知的障害教育論	2	
			○ 肢体不自由教育論	2	
			○ 病弱教育論	2	
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害児（者）の発達と教育	2	
			肢体不自由児（者）の発達と教育	2	
病弱児の心理と教育		2			
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5			
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		○ 視覚障害者教育総論	2	
			○ 聴覚障害者教育総論	2	
			○ 重複障害・発達障害教育論	2	
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	○ 特別支援教育実習論	1	
			○ 特別支援教育実習	2	
<b>法定単位数（合計26単位）</b>			○印を付した科目は必修。 選択必修の条件を満たし、合計27単位以上修得すること。		

○特別支援学校教諭免許状取得にあたっては、基礎となる教諭の免許状を取得すること。



教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
法道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	10		
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論 (生徒指導と教育相談)	2
教育実践に関する科目	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
	5		
	教育実習	教育実習論 教育実習 中学校教育実習	1 2 2
2			
教職実践演習	教職実践演習 (中・高)	2	
法定単位数 (合計27単位)	すべて必修 (合計28単位) ※1		

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	生理学・栄養学	○解剖生理学 人体生理学 運動生理学 ○栄養学	2 2 2 2
		○公衆衛生学 ○衛生学	2 2
	学校保健 (小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	○臨床医学概論 ○学校保健 ○精神保健 I 精神保健 II ○救急処置及び看護法 ○小児保健	2 2 2 2 2 2
		○保健科教育法1 ○保健科教育法2 ○保健科教育法3 ○保健科教育法4	2 2 2 2
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			
法定単位数 (合計28単位)		○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。※2	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設定する独自の科目	○人権教育論	1
	法定単位数 (27単位) を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数 (28単位) を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
道徳、総合的な学習の指導、学習の時間、教育相談等の指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育する実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計23単位)</b>		<b>すべて必修(合計24単位) ※1</b>	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	○解剖生理学	2
		人体生理学	2
	運動生理学	2	
	○微生物学	2	
衛生学・公衆衛生学	○公衆衛生学	2	
	○衛生学	2	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	○臨床医学概論	2	
	○学校保健	2	
	○精神保健Ⅰ	2	
	精神保健Ⅱ	2	
	○救急処置及び看護法	2	
	○小児保健	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○保健科教育法1	2	
	保健科教育法2	2	
	○保健科教育法3	2	
	保健科教育法4	2	
<b>法定単位数(合計24単位)</b>		<b>○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。 ※2</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等(すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
の道徳、相談法等及び総合的な学習の指導に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育論	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	生徒指導の理論及び方法	教育方法論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
教する実践に関する科目	養護実習	養護教育実習論	1
		養護教育実習	4
	教職実践演習	教職実践演習(養護教諭)	2
<b>法定単位数(合計21単位)</b>		<b>すべて必修(合計26単位)※1</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数
設大定学が定める独自科目に	○人権教育論 1
	法定単位数(21単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「養護に関する科目」 ※2
<b>○印を付した科目は必修。合計7単位以上修得すること。</b>	

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数
日本国憲法	日本国憲法 2
体育	運動と健康科学 2
	スポーツ実践 1
外国語コミュニケーション	英語 I A 1 1
	英語 I A 2 1
	英語 I B 1 1
	英語 I B 2 1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎 2

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

養護に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)	○公衆衛生学 ○衛生学	2 2
	学校保健	○学校保健 小児保健	2 2
	養護概説	○養護概説	2
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	○健康相談活動論	2
	栄養学(食品学を含む。)	○栄養学	2
	解剖学・生理学	○解剖生理学 人体生理学 運動生理学	2 2 2
		「微生物学、免疫学、薬理概論」	△微生物学 △免疫学 △薬理概論
	精神保健	○精神保健 I 精神保健 II	2 2
		看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	○臨床医学概論 ○看護学 I ○看護学 II ○救急処置及び看護法 ○看護技術 I ○看護技術 II ○看護臨床実習指導 ○看護臨床実習
	<b>法定単位数(合計28単位)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○印を付した科目は必修。</li> <li>△印を付した「微生物学」、「免疫学」、「薬理概論」の3科目のうち、いずれか1科目2単位以上修得すること。</li> <li>合計32単位以上修得すること。 ※2</li> </ul>		

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
道徳、生徒指導、総合的な学習の時間、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法	教育方法論	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	生徒指導の理論及び方法	進路指導論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育実習論	1
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習	2
	教育実習	中学校教育実習	2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計27単位)</b>		<b>すべて必修(合計28単位)※1</b>	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	○ ソルフェージュ	2
	声乐(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	○ 声乐基礎 I(日本の伝統的な歌唱を含む)	2
		声乐基礎 II	2
		○ 合唱 1 合唱 2	2 2
	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	○ 器楽基礎 I(伴奏並びに和楽器を含む)	2
		器楽基礎 II	2
		○ 合奏 1 和楽器演習 I	2 2
	指揮法	○ 指揮法 I 指揮法 II	2 2
		音楽理論・作曲法(編曲法を含む。) 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	○ 音楽理論 2
	○ 作曲法(編曲法を含む) キーボードハーモニー		2 2
○ 音楽史 1(西洋)	2		
○ 音楽文化特論 1(西洋)	2		
○ 音楽史 2(日本及び民族) (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○ 音楽文化特論 2(日本及び民族) (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	2	
	○ 音楽科教育法 1	2	
	○ 音楽科教育法 2	2	
	○ 音楽科教育法 3	2	
<b>法定単位数(合計28単位)</b>	<b>○印を付した科目は必修。合計32単位以上修得すること。※2</b>		2

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設定する独自の科目	○人権教育論	1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳及び総合的な学習に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育実習に関する科目	教育実習	教育実習論	1
		教育実習	2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位)※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1 法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A 1	1
	英語 I A 2	1
	英語 I B 1	1
	英語 I B 2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	○ソルフェージュ	2
	音楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	○音楽基礎 I(日本の伝統的な歌唱を含む)	2
		音楽基礎 II	2
		○合唱 1	2
		合唱 2	2
	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	○器楽基礎 I(伴奏並びに和楽器を含む)	2
		器楽基礎 II	2
		○合奏 1	2
		和楽器演習 I	2
	指揮法	○指揮法 I	2
指揮法 II		2	
音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)	○音楽理論 2	2	
	○作曲法(編曲法を含む)	2	
	キーボードハーモニ	2	
	○音楽史 1(西洋)	2	
	○音楽文化特論 1(西洋)	2	
○音楽史 2(日本及び民族)(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)		2	
	○音楽文化特論 2(日本及び民族)(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○音楽科教育法 1	2	
	音楽科教育法 2	2	
	○音楽科教育法 3	2	
	音楽科教育法 4	2	
法定単位数(合計24単位)		○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。 ※2	

## 幼稚園教諭一種免許状

## (児童学科) 2020

### 教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等			本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 I	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2
等 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に関する科目	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	4	幼児教育方法論	2
	幼児理解の理論及び方法		発達支援演習 (幼児理解と教育相談)	2
教育する実践に関する科目	教育実習	5	教育実習論 教育実習	1 4
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習 (幼)	2
<b>法定単位数 (合計21単位)</b>			<b>すべて必修 (合計22単位) ※1</b>	

### 領域及び保育内容の指導法に関する科目 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等			本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数
領域に関する専門的事項	健康	16	幼児と健康	2
	人間関係		幼児と人間関係	2
	環境		幼児と環境	2
	言葉		幼児と言葉	2
	表現		幼児と表現	2
保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			保育内容演習 (健康)	1
			保育内容演習 (人間関係)	1
			保育内容演習 (環境)	1
			保育内容演習 (言葉)	1
			保育内容演習 (表現)	1
			保育内容総論	1
<b>法定単位数 (合計16単位)</b>			<b>すべて必修 (合計16単位)</b>	

### 大学が独自に設定する科目 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分			本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	人権教育論	1		
	発達心理学 I	2		
	児童表現学	2		
	児童保健学	2		
	多文化教育論	2		
	子ども家庭支援論	2		
	児童文化学実習	2		
法定単位数 (21単位) を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1				
<b>すべて必修。合計14単位修得すること。</b>				

### 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分		本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2	
体育	運動と健康科学	2	
	スポーツ実践	1	
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1	
	英語 I A2	1	
	英語 I B1	1	
	英語 I B2	1	
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2	

※1 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
法道徳及び生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	10		
教育実践に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論 (生徒指導と教育相談)	2
	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	5	教育実習	2
	2	中学校教育実習	2
	教職実践演習	2	2
法定単位数 (合計27単位)		すべて必修 (合計28単位) ※1	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。)	○ 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)	2
	被服学 (被服製作実習を含む。)	○ 被服学概論	2
		○ 衣服実習	2
	食物学 (栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	臨床栄養学	2
		○ 分子栄養学	2
		○ 食品学総論	2
		○ 食品衛生学実験	1
		○ 食品学実験	2
		食品加工学実習	1
		○ 基礎調理学	2
○ 応用調理学		2	
住居学	○ 調理学実習 I	1	
	○ 調理学実習 II	1	
保育学 (実習を含む。)	○ 食品学各論	2	
	○ 住居学概論 (製図を含む)	2	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	○ 保育学 (実習及び家庭看護を含む)	2	
	○ 家庭科教育法 1	2	
	○ 家庭科教育法 2	2	
	○ 家庭科教育法 3	2	
法定単位数 (合計28単位)	○ 家庭科教育法 4	2	
	○印を付した科目は必修。合計33単位以上修得すること。 ※2		

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設大定学する独自の科目	○ 人権教育論	1
	法定単位数 (27単位) を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数 (28単位) を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳及び総合的な学習の時間に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育実習に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	2	教育実習	2
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2
	2		
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位)※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」	※1	
法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」	※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A 1	1
	英語 I A 2	1
	英語 I B 1	1
	英語 I B 2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	○家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	2
	被服学(被服製作実習を含む。)	○被服学概論	2
		○衣服実習	2
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	臨床栄養学	2
		○分子栄養学	2
		○食品学総論	2
		○食品衛生学実験	1
		○食品学実験	2
		食品加工学実習	1
		○基礎調理学	2
○応用調理学		2	
○調理学実習 I	1		
○調理学実習 II	1		
○食品学各論	2		
住居学(製図を含む。)	○住居学概論(製図を含む)	2	
保育学(実習及び家庭看護を含む。)	○保育学(実習及び家庭看護を含む)	2	
家庭電気・家庭機械・情報処理	○家庭電気・機械	2	
	○情報処理	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○家庭科教育法 1	2	
	家庭科教育法 2	2	
	○家庭科教育法 3	2	
	家庭科教育法 4	2	
法定単位数(合計24単位)		○印を付した科目は必修。合計33単位以上修得すること。※2	

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。



## 栄養教諭一種免許状

## (食物栄養学科) 2020

### 教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原論
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教職論
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論
の道徳、指導、相談等及び総合的な学習に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		特別活動及び総合的な学習の時間指導法
	生徒指導の理論及び方法		教育方法論
	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		生徒指導論 (生徒指導と教育相談)
教育する実践に関	栄養教育実習	2	栄養教育実習指導 栄養教育実習
	教職実践演習	2	教職実践演習 (栄養教諭)
<b>法定単位数 (合計18単位)</b>			<b>すべて必修 (合計23単位)</b>

### 栄養に係る教育に関する科目 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養指導論	2
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項		
	食生活に関する歴史的及び文化的事項	学校栄養実践論	2
	食に関する指導の方法に関する事項		
<b>すべて必修。合計4単位修得すること。</b>			

(注) 栄養教諭一種免許状の取得希望者は、諸課程履修科目として開講される「人権教育論」を修得しなければならない。

### 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

中学校教諭一種免許状 家庭

(生活造形学科) 2020

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
法道徳、生徒総合的な学習の時間、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法	教育方法論	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	生徒指導の理論及び方法	進路指導論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
教育実践に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
	教育実習	教育実習論 教育実習 中学校教育実習	1 2 2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計27単位)</b>		<b>すべて必修(合計28単位) ※1</b>	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	○家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	2
	被服学(被服製作実習を含む。)	○衣生活概論	2
		アパレル設計学	2
		アパレル材料学2	2
		○アパレル製作実習	2
		ファッションデザイン学	2
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	アパレル造形学	2
		アパレル管理学	2
	住居学	○食物栄養学概論	2
		○調理実習	2
○住居学概論(製図を含む)		2	
保育学(実習を含む。)	住宅計画	2	
	インテリア計画	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○保育学(実習及び家庭看護を含む)	2	
	○家庭科教育法1	2	
	○家庭科教育法2	2	
	○家庭科教育法3	2	
<b>法定単位数(合計28単位)</b>	○家庭科教育法4	2	
	<b>○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。 ※2</b>		

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設大定学が定める独自科目	○人権教育論	1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳及び総合的な学習の時間に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
8			
教育実習に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	3	教育実習	2
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位)※1	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	○家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2
	被服学(被服製作実習を含む。)	○衣生活概論	2
		アパレル設計学	2
		アパレル材料学2	2
		○アパレル製作実習	2
		ファッションデザイン学	2
	アパレル造形学	2	
	アパレル管理学	2	
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	○食物栄養学概論	2
	○調理実習	2	
住居学(製図を含む。)	○住居学概論(製図を含む)	2	
住宅計画	2		
インテリア計画	2		
保育学(実習及び家庭看護を含む。)	○保育学(実習及び家庭看護を含む)	2	
家庭電気・家庭機械・情報処理	○家庭電気・機械	2	
○情報処理	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○家庭科教育法1	2	
	家庭科教育法2	2	
	○家庭科教育法3	2	
	家庭科教育法4	2	
法定単位数(合計24単位)		○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。※2	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
法道徳及び生徒指導、総合的な学習の時間、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法	教育方法論	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	生徒指導の理論及び方法	進路指導論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育実習論	1
教育実践に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育実習	2
	教育実習	中学校教育実習	2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2
	法定単位数(合計27単位)	すべて必修(合計28単位)※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設大定学が定める独自科目	○人権教育論	1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」※1	
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」※2	
○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語 I A1	1
	英語 I A2	1
	英語 I B1	1
	英語 I B2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	○日本史概論	2
		○東洋史概論	2
地理学(地誌を含む。)	歴史地理学概論	○西洋史概論	2
		○人文地理学概論	2
「法律学、政治学」	○法学アプローチ	○地誌学概論	2
		○自然地理学概論	2
		○政治学アプローチ	2
		○マイノリティと法	2
		○比較政治論	2
		○国際関係論	2
		○国際関係史	2
		○国際法	2
		○ジェンダーと法	2
		○地方自治論	2
「社会学、経済学」	○社会学アプローチ	○都市政策論	2
		○市民活動論	2
		○社会学アプローチ	2
		○国際経済学	2
		○社会学アプローチ	2
		○家族社会学	2
		○文化社会学	2
		○多文化社会論	2
		○ミクロ経済学	2
		○マクロ経済学	2
「哲学、倫理学、宗教学」	○社会学アプローチ	○教育経済学	2
		○家族経済論	2
		○国際結婚論	2
		○環境社会学	2
		○社会学概論	2
		○環境政策論	2
		○エネルギーと環境	2
		○現代宗教論	2
		○生命倫理学	2
		○倫理学	2
○人間学	2		
○応用倫理学	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○社会科教育法(地理歴史分野)	○社会科教育法(公民分野)	2
		○公民科教育法	2
		○地理歴史科教育法	2
		○社会科教育法	2
法定単位数(合計28単位)	○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。※2		

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳、総合的な学習の時間、教育相談等の指導に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
8			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位)※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定する科目	○人権教育論	1
	○道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」※1 法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	○法学アプローチ	2
		政治学アプローチ	2
教科に関する専門的事項	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	マイノリティと法	2
		比較政治論	2
		国際関係論	2
		国際関係史	2
		○国際法	2
		ジェンダーと法	2
		地方自治論	2
		都市政策論	2
		市民活動論	2
		○社会学アプローチ	2
		家族社会学	2
		文化社会学	2
		多文化社会学	2
		マクロ経済学	2
		教育経済学	2
家族経済論	2		
国際結婚論	2		
環境社会学	2		
社会学概論	2		
環境政策論	2		
エネルギーと環境	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	△現代宗教論	2
		△心理学アプローチ	2
		△生命倫理学	2
		△倫理学	2
		△人間学	2
△応用倫理学	2		
法定単位数(合計24単位)	○社会科教育法(公民分野)	○公民科教育法	2
		○公民科教育法	2
法定単位数(合計24単位)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・○印を付した科目は必修。</li> <li>・△印を付した「現代宗教論」、「心理学アプローチ」、「生命倫理学」、「倫理学」、「人間学」、「応用倫理学」の6科目のうち、いずれか1科目2単位以上修得すること。</li> <li>・合計24単位以上修得すること。※2</li> </ul>	

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
道徳、総合的な学習の時間、学習指導要領等に指	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
8			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
		教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位) ※1	

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
情報社会・情報倫理		○情報文明論	2
		メディア文化論	2
コンピュータ・情報処理(実習を含む。)		○プログラミング入門(実習を含む)	2
		応用プログラミングⅠ(実習を含む)	2
		○アルゴリズム論	2
		情報数学	2
情報システム(実習を含む。)		データベース	2
		応用データベース	2
		○Webシステムデザイン(実習を含む)	2
情報通信ネットワーク(実習を含む。)		○コンピュータ・ネットワークⅠ	2
		○情報ネットワーク	2
		情報理論	2
マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。)		情報セキュリティ	2
		○情報学アプローチ	2
情報と職業		数理モデル(実習を含む)	2
		○社会情報学	2
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		組織マネジメント論	2
		○情報科教育法1	2
		○情報科教育法2	2
法定単位数(合計24単位)		○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。 ※2	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
法道徳、生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
10			
教育実践に関する科目	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2
	教育実習	教育実習論	1
	5	教育実習	2
	2	中学校教育実習	2
	2	教職実践演習	2
	2	教職実践演習(中・高)	2
<b>法定単位数(合計27単位)</b>		<b>すべて必修(合計28単位)※1</b>	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
設大定する独自の科目	○人権教育論	1
	法定単位数(27単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」※1	
	法定単位数(28単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」※2	
<b>○印を付した科目は必修。合計4単位以上修得すること。</b>		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	憲法ⅠA(人権)	2
	憲法ⅠB(人権)	2
	憲法ⅡA(統治)	2
	憲法ⅡB(統治)	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

○小学校及び中学校の教育職員免許状取得には『介護等体験』が必要です。

※1※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	○日本史概論	2
		○東洋史概論	2
		○西洋史概論	2
	地理学(地誌を含む。)	歴史地理学概論	2
		○人文地理学概論	2
		○地誌学概論	2
		○自然地理学概論	2
	「法学、政治学」	○法学入門	2
		司法制度入門	2
		英米法Ⅰ	2
行政法総論Ⅰ		2	
行政救済法		2	
民法ⅠA(総則)		2	
民法Ⅱ(物権)		2	
民法ⅤA(債権各論)		2	
民法ⅤⅥA(親族・相続)		2	
企業法総論		2	
会社法Ⅰ(ガバナンス)		2	
有価証券法		2	
商取引法		2	
保険法		2	
刑法ⅠA(総論)		2	
刑法ⅡA(各論)		2	
労働法Ⅰ		2	
社会保障法	2		
国際法ⅠA	2		
国際機構論	2		
国際私法ⅠA	2		
国際関係論	2		
ジェンダー法Ⅰ	2		
「社会学、経済学」	○法社会学	2	
	マクロ経済学	2	
	ジェンダー法Ⅵ	2	
	国際経済学	2	
「哲学、倫理学、宗教学」	現代と仏教A	2	
	生命倫理学	2	
	○倫理学	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○社会科教育法(地理歴史分野)	2	
	○社会科教育法(公民分野)	2	
	○公民科教育法	2	
	○地理歴史科教育法	2	
<b>法定単位数(合計28単位)</b>		<b>○印を付した科目は必修。合計28単位以上修得すること。※2</b>	

教育の基礎的理解に関する科目等 (すべて必修)

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2
	10		
導徳、総合的な学習の指導、生徒指導、教育相談等の指	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	2
	特別活動の指導法		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(生徒指導と教育相談)	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	
教育する実践に関	教育実習	教育実習論	1
	教職実践演習	教育実習	2
教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2
法定単位数(合計23単位)		すべて必修(合計24単位) ※1	

大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
大学が独自に設定	○人権教育論	1
	道徳教育論	2
	法定単位数(23単位)を超えて履修した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ※1	
	法定単位数(24単位)を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ※2	
○印を付した科目は必修。合計12単位以上修得すること。		

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (すべて必修)

免許法施行規則に定める科目区分	本学規定科目及び単位数	
日本国憲法	憲法ⅠA(人権)	2
	憲法ⅠB(人権)	2
	憲法ⅡA(統治)	2
	憲法ⅡB(統治)	2
体育	運動と健康科学	2
	スポーツ実践	1
外国語コミュニケーション	英語ⅠA1	1
	英語ⅠA2	1
	英語ⅠB1	1
	英語ⅠB2	1
情報機器の操作	情報リテラシー基礎	2

※1 ※2 法定単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入する。

教科及び教科の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分等		本学規定科目及び単位数	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教科に関する専門的事項	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	○法学入門	2
		司法制度入門	2
		英米法Ⅰ	2
		行政法総論Ⅰ	2
		行政救済法	2
		民法ⅠA(総則)	2
		民法Ⅱ(物権)	2
		民法ⅤA(債権各論)	2
		民法ⅥA(親族・相続)	2
		企業法総論	2
		会社法Ⅰ(ガバナンス)	2
		有価証券法	2
		商取引法	2
		保険法	2
		刑法ⅠA(総論)	2
		刑法ⅡA(各論)	2
		労働法Ⅰ	2
		社会保障法	2
		国際法ⅠA	2
		国際機構論	2
		国際私法ⅠA	2
		国際関係論	2
		ジェンダー法Ⅰ	2
		「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	○法社会学
マクロ経済学	2		
ジェンダー法Ⅵ	2		
国際経済学	2		
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	現代と仏教A	2	
	生命倫理学	2	
	○倫理学	2	
	心理学アプローチ	2	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○社会科教育法(公民分野)	2	
	○公民科教育法	2	
法定単位数(合計24単位)	○印を付した科目は必修。合計24単位以上修得すること。 ※2		



# 諸資格

## 【学科・専攻別 取得可能諸資格一覧】

学科・専攻ごとに、取得可能な諸資格に「●」を付しています。

資格の種類	国文学科	英文学科	史学科	教育学専攻	養護・福祉教育学専攻	音楽教育学専攻	児童学科	心理学科	食物栄養学科	生活造形学科	現代社会学科	法学科	備考	掲載ページ
博物館学芸員	●		●				●			●	●			110
社会教育主事				●		●	●						(※1)	111
社会福祉士(受験資格)					●									112
スクールソーシャルワーカー					●								(※2)	113
保育士							●							114
公認心理師(受験資格)								●					(※3)	115
管理栄養士(受験資格)									●					116
栄養士									●					117
食品衛生管理者・監視員									●					118
1級建築士(受験資格)										●				119
2級・木造建築士(受験資格)										●				119
衣料管理士										●				120
上級情報処理士											●			121
社会調査士											●			122
情報処理士	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		現社 121 現社以外 123
図書館司書	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		124
学校図書館司書教諭	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		124
学校司書	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		125
日本語教師	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		126

(※1)社会教育主事 …社会教育主事課程に定められた所定の単位を修得した者は、「社会教育主事」の資格及び「社会教育士」の称号を得ることができます。

(※2)スクールソーシャルワーカー …必修科目の「スクールソーシャルワーク実習」は履修条件があります。その他の履修条件等、詳細はP.113の科目表の※を確認してください。

(※3)公認心理師(受験資格) …公認心理師試験を受験するには実務経験が必要です。大学院に進学することで、実務経験を満たすことができます。

## 博物館学芸員に関する履修科目表

### ＜必修科目＞

法定規定科目	本学規定科目及び単位数		回生	備考
生涯学習概論	生涯学習概論	2	1	児童学科以外の者が履修
	生涯学習概論Ⅰ	2	2	児童学科の者が履修
博物館概論	博物館概論	2	2	
博物館資料論	博物館資料論	2	2	
博物館経営論	博物館経営論	2	2	
博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	3	
博物館展示論	博物館展示論	2	3	
	博物館情報・メディア論	1	2	
博物館情報・メディア論	博物館情報論	1	2	
	視聴覚教育メディア論	1	2	
博物館教育論	博物館教育論	2	2	
博物館実習	博物館実習Ⅰ	2	3	
	博物館実習Ⅱ	2	4	(事前・事後の指導を含む) 「博物館実習Ⅱ」は最終学年の者で、「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」「博物館実習Ⅰ」の単位をすでに修得し、かつ、当該年度中に資格に必要な単位のすべてを充足し得る者しか履修できない。

### ＜選択科目＞ 自分の所属する学科に指定されている科目を履修すること。

本学規定科目及び単位数										
系列	国文学科		史学科		児童学科		生活造形学科		現代社会学科	
Ⅰ	風俗文化史A	2	日本古文書ⅠA	2	児童文化活動論	2	近代日本絵画史	2		
	風俗文化史B	2	日本古文書ⅠB	2	児童文学論	2	デザインマーケティング論	2		
Ⅱ	日本美術史A	2	日本美術史A	2	現代文化・芸術論	2	京都学	2		
	日本美術史B	2	日本美術史B	2			京都工芸論1	2		
			東洋美術史	2			京都工芸論2	2		
			西洋美術史	2			World Art History 1	2		
						World Art History 2	2			
Ⅲ	民俗学	2	考古学A	2	絵本論	2			民俗文化論	2
			考古学B	2						
			民俗学	2						
Ⅳ										
Ⅴ									自然環境と生態系	2
									環境開発論	2
									多様性の生物学	2
									生命の起源と進化	2

各学科につき、Ⅰ～Ⅴの系列のうち、2系列以上にわたり8単位以上修得すること。

## 社会教育主事に関する履修科目表

社会教育主事課程に定められた所定の単位を修得した者は、「社会教育主事」の資格及び「社会教育士」の称号を得ることができます。

### <教育学科(教育学専攻・音楽教育学専攻)>

法定規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
生涯学習概論	生涯学習概論Ⅰ	2	必	
	生涯学習概論Ⅱ	2	必	
生涯学習支援論	生涯学習支援論Ⅰ	2	必	
	生涯学習支援論Ⅱ	2	必	
社会教育経営論	社会教育経営論Ⅰ	2	必	
	社会教育経営論Ⅱ	2	必	
社会教育特講	ジェンダーと教育	2	選	8単位以上修得すること。
	家庭教育論	2	選	
	教育社会学	2	選	
	学校外教育論	2	選	
	教育行政学	2	選	
	教育・福祉連携論	2	選	
社会教育実習	社会教育基礎実習	2	必	
社会教育演習	社会教育演習	2	選	4単位以上修得すること。
社会教育実習	社会教育実習	2	選	
社会教育課題研究	社会教育課題研究	2	選	

### <児童学科>

法定規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
生涯学習概論	生涯学習概論Ⅰ	2	必	
	生涯学習概論Ⅱ	2	必	
生涯学習支援論	生涯学習支援論Ⅰ	2	必	
	生涯学習支援論Ⅱ	2	必	
社会教育経営論	社会教育経営論Ⅰ	2	必	
	社会教育経営論Ⅱ	2	必	
社会教育特講	ジェンダーと教育	2	選	8単位以上修得すること。
	児童社会学	2	選	
	教育社会学	2	選	
	教育行政学	2	選	
	児童文化活動論	2	選	
社会教育実習	社会教育基礎実習	2	必	
社会教育演習	社会教育演習	2	選	4単位以上修得すること。
社会教育実習	社会教育実習	2	選	
社会教育課題研究	社会教育課題研究	2	選	
	児童文化化学実習	2	選	

## 教育学科 養護・福祉教育学専攻 社会福祉士に関する履修科目表

法定規定科目				本学規定科目			
科目		時間	単位	科目	時間	単位	必選
人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法 (180時間)	人体の構造と機能及び疾病	30	2	解剖生理学	30	2	必
				臨床医学概論	30	2	必
	心理学理論と心理的支援	30	2	心理学	30	2	必
	社会理論と社会システム	30	2	社会学	30	2	必
	現代社会と福祉	60	4	社会福祉概論Ⅰ	30	2	必
				社会福祉概論Ⅱ	30	2	必
社会調査の基礎	30	2	社会福祉調査	30	2	必	
総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術 (180時間)	相談援助の基盤と専門職	60	4	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	30	2	必
				相談援助の基盤と専門職Ⅱ	30	2	必
	相談援助の理論と方法	120	8	社会福祉援助技術Ⅰ	30	2	必
				社会福祉援助技術Ⅱ	30	2	必
				社会福祉援助技術Ⅲ	30	2	必
社会福祉援助技術Ⅳ	30	2	必				
地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術 (120時間)	地域福祉の理論と方法	60	4	地域福祉論Ⅰ	30	2	必
				地域福祉論Ⅱ	30	2	必
	福祉行財政と福祉計画	30	2	福祉行財政と福祉計画	30	2	必
福祉サービスの組織と経営	30	2	福祉サービスの組織と経営	30	2	必	
サービスに関する知識 (300時間)	社会保障	60	4	社会保障論Ⅰ	30	2	必
				社会保障論Ⅱ	30	2	必
	高齢者に対する支援と介護保険制度	60	4	介護福祉論	30	2	必
				老人福祉論	30	2	必
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	30	2	障害者福祉論	30	2	必
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	30	2	児童・家庭福祉論	30	2	必
	低所得者に対する支援と生活保護制度	30	2	公的扶助論	30	2	必
	保健医療サービス	30	2	保健医療論	30	2	必
	権利擁護と成年後見制度	30	2	法学	30	2	必
就労支援サービス	15	1	就労支援と更生保護	30	2	必	
更生保護制度	15	1					
実習・演習(420時間)	相談援助演習	150	5	社会福祉援助技術演習Ⅰ	30	1	必
				社会福祉援助技術演習Ⅱ	30	1	必
				社会福祉援助技術演習Ⅲ	30	1	必
				社会福祉援助技術演習Ⅳ	30	1	必
				社会福祉援助技術演習Ⅴ	30	1	必
	相談援助実習	180	4	社会福祉援助技術現場実習	180	4	必
相談援助実習指導	90	3	社会福祉援助技術現場実習指導	90	3	必	
法定規定科目合計単位数		1200	64	本学規定科目合計単位数	1230	66	

(※1)法定で規定されている「人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理学支援、社会理念と社会システム」の3分野から1分野以上履修すること。

(※2)法定で規定されている「権利擁護と成年後見制度、就労支援サービス、更生保護制度」の3分野から1分野以上履修すること。

## 教育学科 養護・福祉教育学専攻

## スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程履修科目表

規程による指定科目	本学規定科目及び単位数		備考
スクール(学校)ソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク論	2	必
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	1	必
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	1	必
スクール(学校)ソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	2	必
教育の基礎理論に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目(1科目以上)	教職論	2	必
	教育行政学	2	必
教育の基礎理論に関する科目のうち「幼児、児童及び生徒(障害のある幼児、児童及び生徒を含む)の心身の発達及び学習の過程に関する事項」を含む科目及び生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目(1科目以上)	教育心理学	2	必
	生徒指導論	2	必
精神保健の課題と支援	精神保健 I	2	必
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度			

※スクールソーシャルワーカー資格取得に必要な科目の単位を全て修得し、社会福祉士の国家資格に合格した者が、スクールソーシャルワーカーの資格を取得することができます。

※スクールソーシャルワーク実習は、社会福祉士課程の社会福祉援助技術現場実習指導及び社会福祉援助技術現場実習を履修登録することができ、かつ選抜試験に合格した者のみ履修することができます。

### 児童学科 保育士に関する履修科目表

区分	指定保育士養成施設の指定基準科目				本学規定科目			
	規定科目	授業形態	単位数	必選の別	授業科目	時間	単位数	必選の別
教養科目	外国語、体育以外の科目	—	6以上	必	仏教学ⅠA	30	2	必
					仏教学ⅠB	30	2	必
					仏教学ⅡA	30	2	必
					仏教学ⅡB	30	2	必
					人権教育論	15	1	必
	外国語	演習	2以上	必	英語ⅠA1	30	1	必
					英語ⅠA2	30	1	必
	体育	講義	1	必	運動と健康科学	30	2	必
					実技	1	1	必
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	必	保育原理	30	2	必
	教育原理	講義	2	必	教育原論	30	2	必
	子ども家庭福祉	講義	2	必	児童家庭福祉	30	2	必
	社会福祉	講義	2	必	社会福祉	30	2	必
	子ども家庭支援論	講義	2	必	子ども家庭支援論	30	2	必
	社会的養護Ⅰ	講義	2	必	社会的養護Ⅰ	30	2	必
	保育者論	講義	2	必	教職論	30	2	必
	保育の心理学	講義	2	必	発達心理学Ⅰ	30	2	必
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	必	発達心理学Ⅱ	30	2	必
保育の対象の理解に関する科目	子ども理解と援助	演習	1	必	教育心理学Ⅱ	30	2	必
	子どもの保健	講義	2	必	児童保健学	30	2	必
	子どもの食と栄養	演習	2	必	児童栄養	30	2	必
	保育の計画と評価	講義	2	必	教育課程論	30	2	必
	保育内容総論	演習	1	必	保育内容総論	30	1	必
保育の内容・方法に関する科目	保育内容演習	演習	5	必	保育内容演習(健康)	30	1	必
					保育内容演習(人間関係)	30	1	必
					保育内容演習(環境)	30	1	必
					保育内容演習(言葉)	30	1	必
					保育内容演習(表現)	30	1	必
					児童音楽Ⅰ	60	2	必
	保育内容の理解と方法	演習	4	必	児童体育Ⅰ	30	2	必
					児童図工Ⅰ	60	2	必
					児童文化化学実習	60	2	必
					乳児保育Ⅰ	30	2	必
	乳児保育Ⅱ	演習	1	必	乳児保育Ⅱ	30	1	必
	子どもの健康と安全	演習	1	必	児童保健学演習	60	2	必
	障害児保育	演習	2	必	障害児保育	30	2	必
	社会的養護Ⅱ	演習	1	必	社会的養護Ⅱ	30	1	必
子育て支援	演習	1	必	子育て支援	30	1	必	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	必	保育実習Ⅰ	160	4	必
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	必	保育実習指導Ⅰ	30	2	必
総合演習	保育実践演習	演習	2	必	保育・教職実践演習(幼)	30	2	必
保育の対象の理解に関する科目					※特別支援教育論	15	1	選
保育の内容・方法に関する科目					※幼児と健康	30	2	選
					※幼児と人間関係	30	2	選
					※幼児と環境	30	2	選
					※幼児と言葉	30	2	選
					※幼児と表現	30	2	選
					※幼児教育方法論	30	2	選
					※人形劇演習	60	2	選
					※児童文化活動論	30	2	選
					※絵本論	30	2	選
					※児童音楽Ⅱ	30	2	選
					※児童体育Ⅱ	30	2	選
					※児童図工Ⅱ	30	2	選
					保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	
※保育実習Ⅲ	80	2	選					
保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習					※保育実習指導Ⅱ	15	1
					※保育実習指導Ⅲ	15	1	選

※選択科目から、9単位以上(うち保育実習3単位以上(うち保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ2単位以上、保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ1単位以上))修得しなければならない。

心理学科 公認心理師に関する履修科目表

法定規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	必	
心理学概論	心理学概論	2	必	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	必	
心理学研究法	心理学研究法 I	2	必	
心理学統計法	心理学統計法	2	必	
心理学実験	心理学実験 I	2	必	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学A	2	必	
	知覚・認知心理学B	2	必	
学習・言語心理学	学習・言語心理学A	2	必	
	学習・言語心理学B	2	必	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	必	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	必	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学A	2	必	
	社会・集団・家族心理学B	2	必	
発達心理学	発達心理学	2	必	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	必	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	必	
心理学的支援法	心理学的支援法A	2	必	
	心理学的支援法B	2	必	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	必	
福祉心理学	福祉心理学	2	必	
教育・学校心理学	教育・学校心理学A	2	必	
	教育・学校心理学B	2	必	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学A	2	必	
	司法・犯罪心理学B	2	必	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	必	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	必	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	必	
関係行政論	関係行政論	2	必	
心理演習	心理演習A	2	必	
	心理演習B	2	必	
心理実習	心理実習	2	必	80時間

※公認心理師試験(国家試験)の受験資格を得るためには、上記の科目を履修した後に、大学院へ進学し所定の科目を履修する、もしくは一定期間の実務経験が必要です。

食物栄養学科 管理栄養士に関する履修科目

管理栄養士学校指定規則の規定			本学規定科目				備考
教育内容	単位数		科目名	単位数		必選の別	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	健康環境論	2		必	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	公衆衛生学	2		必	
			介護福祉概論	2		必	
			解剖生理学	2		必	
			応用生理学	2		必	
			生化学	2		必	
			分子栄養学	2		必	
			臨床医学概論	2		必	
			臨床病態学	2		必	
			微生物学	2		必	
			生理学実験		1	必	
	食べ物と健康	8	解剖生理学実験		1	必	
			生化学実験		1	必	
			バイオテクノロジー実験		1	必	
			食品学総論	2		必	
			食品学各論	2		必	(食品加工学を含む)
			食品衛生学	2		必	
			応用調理学	2		必	
			食品学実験		2	必	
	食品加工学実習		1	必			
食品衛生学実験		1	必				
調理学実習Ⅰ		1	必				
調理学実習Ⅱ		1	必				
専門基礎分野合計	28	10		28	10		
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学	2		必	
	応用栄養学	6	基礎栄養学実習		1	必	
			ライフステージ別栄養学	2		必	
			栄養評価論	2		必	
			栄養機能論	1		必	
			運動栄養学	1		必	
			ライフステージ別栄養学実習		1	必	
	栄養教育論	6	栄養教育総論	2		必	
			栄養教育各論	2		必	
			栄養カウンセリング論	2		必	
			栄養教育論実習		1	必	
	臨床栄養学	8	病態栄養学	2		必	
			臨床栄養学	2		必	
			臨床栄養管理学	2		必	
			栄養薬理学	1		必	
			チーム医療論	1		必	
			臨床栄養学実習		1	必	
			臨床栄養管理学実習		1	必	
			公衆栄養学	4	公衆栄養学	2	
	公衆栄養活動論	1				必	
	栄養疫学	1				必	
	公衆栄養学実習				1	必	
	給食経営管理論	4	給食運営論	2		必	
			給食経営管理論	2		必	
			給食運営実習		1	必	
			給食経営管理実習		1	必	
総合演習	2	給食運営校外実習事前事後指導	1		必		
		臨地実習事前事後指導	1		必		
		管理栄養士特別演習	2		必		
臨地実習	—	給食運営校外実習		1	必	5科目中3科目3単位を修得すること	
		臨地実習(臨床栄養学Ⅰ)		1	選		
		臨地実習(臨床栄養学Ⅱ)		1	選		
		臨地実習(臨床栄養学Ⅲ)		1	選		
		臨地実習(公衆栄養学)		1	選		
臨地実習(給食経営管理論)		1	選				
専門分野合計	32	12		34	12		
合計	60	22		62	22		



## 食物栄養学科 栄養士に関する履修科目表

法定規定科目	本学規定科目	単位数		備考
		講義又は演習	実験又は実習	
社会生活と健康	公衆衛生学	2		
	介護福祉概論	2		
人体の構造と機能	解剖生理学	2		
	応用生理学	2		
	生化学	2		
	分子栄養学	2		
	生理学実験		1	
	生化学実験		1	
食品と衛生	食品学総論	2		
	食品学各論	2		(食品加工学を含む)
	食品衛生学	2		
	食品学実験		2	
	食品加工学実習		1	
	食品衛生学実験		1	
栄養と健康	基礎栄養学	2		
	基礎栄養学実習		1	
	ライフステージ別栄養学	2		
	運動栄養学	1		
	栄養機能論	1		
	ライフステージ別栄養学実習		1	
	臨床栄養学	2		
	臨床栄養学実習		1	
栄養の指導	栄養教育総論	2		
	栄養教育各論	2		
	栄養教育論実習		1	
	公衆栄養学	2		
	公衆栄養学実習		1	
給食の運営	給食運営論	2		
	応用調理学	2		
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	給食運営実習		1	
	給食経営管理実習		1	
	給食運営校外実習		1	
	給食運営校外実習事前事後指導	1		

本学規定科目は全て必修

# 食物栄養学科 食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する履修科目表

(必修科目を含め、合計40単位修得すること)

法定規定科目		本学規定科目				
科目群	単位	科目	単位数	必選の別	備考	
A群 化学関係	各群 1 科目以上 合計 22 単位以上	基礎の化学	2	必		
		基礎の有機化学	2	必		
B群 生物化学関係		基礎の生物学	2	必		
		解剖生理学	2	必		
		生化学	2	必		
		食品学総論	2	必		
		食物栄養の化学	2	必		
		分子栄養学	2	必		
		C群 微生物学関係	微生物学	2		必
食品学各論			2	必		
D群 公衆衛生学関係			公衆衛生学	2		必
		食品衛生学	2	必		
E群 その他関連科目		基礎実験	1	必		4単位以上 修得すること
		食品学実験	2	必		
	応用調理学	2	必			
	基礎栄養学	2	必			
	生理学実験	1	必			
	食品衛生学実験	1	必			
	生化学実験	1	必			
	機器分析概論	2	必			
	食品加工学実習	1	選			
	臨床医学概論	2	選			
	応用生理学	2	選			
	臨床病態学	2	選			
	給食運営論	2	選			
	給食運営実習	1	選			
	バイオテクノロジー実験	1	選			
	公衆栄養学	2	選			

生活造形学科 1級建築士及び2級・木造建築士に関する履修科目表

指定科目の分類(単位数)		本学規定科目			
2級・木造	1級	科目名	単位数	備考	
				2級・木造	1級
①建築設計製図 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築設計製図実習	2	8単位以上修得 すること	8単位以上修得 すること
		空間デザイン実習ⅠA	2		
		空間デザイン実習ⅠB	2		
		空間デザイン実習ⅡA	2		
		空間デザイン実習ⅡB	2		
		空間デザイン実習ⅢA	2		
		空間デザイン実習ⅢB	2		
		建築CAD実習A	2		
		建築CAD実習B	2		
		空間造形実習A	2		
		空間造形実習B	2		
		空間造形実習C	2		
		空間デザイン実習ⅣA	2	2単位以上修得 すること	2単位以上修得 すること
		空間デザイン実習ⅣB	2		
②～④ 建築計画、建築環境工学 又は建築設備 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	住宅計画	2	8単位以上修得 すること	8単位以上修得 すること
		住宅再生論	2		
		建築計画1	2		
		建築計画2	2		
		西洋建築史	2		
		日本建築史	2		
		室内様式史	2		
		地域建築再生論	2		
		景観デザイン論	2		
		建築デザイン論	2		
		③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学		
	環境計画		2		
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備	2	2単位必修	2単位必修
⑤～⑦ 構造力学、建築一般構造 又は建築材料 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造力学Ⅰ	2	6単位以上修得 すること	4単位必修
		構造力学Ⅱ	2		
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築一般構造	2		4単位以上修得 すること
		構造計画	2		
		伝統技法演習	2		
	⑦建築材料	建築材料	2		2単位必修
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築施工	2	2単位必修	2単位必修
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	2	2単位必修	2単位必修
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	インテリア計画	2		
		インテリアエレメント	2		
				合計40単位以上 修得すること	合計60単位以上 修得すること

※所定の科目を履修する事により1級、2級、木造建築士の受験資格が卒業後に得られる。

## 生活造形学科 衣料管理士(1級)に関する履修科目表

### ＜必修科目＞(すべて修得すること)

日本衣料管理協会指定科目		本学規定科目及び単位数		備考
材 料	被服繊維学	アパレル材料学1	2	
	被服材料学	アパレル材料学2	2	
	繊維学実験Ⅰ	アパレル繊維・材料学実験Ⅰ	2	
	材料学実験Ⅰ			
	繊維学実験Ⅱ	アパレル繊維・材料学実験Ⅱ	2	
	材料学実験Ⅱ			
	テキスタイルデザイン	テキスタイルデザイン実習	2	
加工・整理	被服整理学	アパレル管理学	2	
	染色加工学	アパレル染色学	2	
	被服整理学実験	アパレル染色整理学実験	2	
	染色加工学実験			
	工芸染色実習	工芸染色実習	2	
企画・設計 ・生産	アパレル企画論	アパレル企画論	2	
	アパレル設計論	アパレル設計学	2	
	アパレル設計実習	アパレル設計製図実習	2	
	アパレル生産実習	アパレル生産実習	2	
	アパレル生理衛生論	衣環境論	2	
	アパレルデザイン論	ファッションデザイン学	2	
	アパレルCAD実習	アパレルCAD実習	2	
	被服心理学	ファッション社会学	2	
	アパレル企画実習	アパレル企画実習	2	
	アパレルデザイン表現実習	ファッションデザイン学実習Ⅰ	2	
	(協会規定外科目)	アパレル体型学	2	
流通・消費	消費科学	消費科学	2	
	消費生活論	消費生活論	2	
	テキスタイルアドバイザー実習	テキスタイルアドバイザー実習	2	
	衣生活文化論	ファッション文化論	2	
	ファッションビジネス論	ファッションビジネス論	2	
	ファッション商品論	ファッションブランド論	2	

## 上級情報処理士及び情報処理士に関する履修科目表（現代社会学科）

### 上級情報処理士

区分	授業科目名	単位数
領域1	○ 情報リテラシー基礎	2
	情報学アプローチ	2
	プログラミング入門	2
	コンピュータ・ネットワークI	2
	コンピュータ・ネットワークII	2
領域2	○ 倫理学	2
	経営戦略論	2
	情報リテラシー応用	2
	○ アルゴリズム論	2
	市民活動論	2
	組織マネジメント論	2
	情報理論	2
	社会心理学	2
	情報ネットワーク	2
	統計学	2
	情報文明論	2
	データベース	2
	応用データベース	2
	Webシステムデザイン	2
	メディア文化論	2
	プロジェクト管理	2
都市政策論	2	
領域3	○ 社会情報学	2
	情報技術者の社会的責任	2
	環境政策論	2
	家族経済論	2
	環境開発論	2
	演習III	2
	演習IV	2
○を付した科目は必修。 必修8単位を含めて合計24単位以上修得すること。		

### 情報処理士

区分	授業科目名	単位数
領域1	○ 情報リテラシー基礎	2
	情報学アプローチ	2
	情報リテラシー応用	2
	プログラミング入門	2
	アルゴリズム論	2
	コンピュータ・ネットワークI	2
	コンピュータ・ネットワークII	2
	情報ネットワーク	2
	統計学	2
	データベース	2
	応用データベース	2
	Webシステムデザイン	2
	メディア文化論	2
情報文明論	2	
領域2	○ 倫理学	2
	経営戦略論	2
	市民活動論	2
	組織マネジメント論	2
	社会心理学	2
	都市政策論	2
領域3	○ 社会情報学	2
	プロジェクト管理	2
	情報技術者の社会的責任	2
○を付した科目は必修。 必修6単位を含めて合計16単位以上修得すること。		

## 現代社会学科 社会調査士に関する履修科目表

社会調査士資格認定機構指定科目	本学規定科目及び単位数		
社会調査の基本的事項に関する科目	社会データ処理基礎	2	必
調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法Ⅰ	2	必
基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会データ分析入門	2	必
社会調査に必要な統計学に関する科目	社会調査法Ⅲ	2	必
質的な分析の方法に関する科目	社会調査法Ⅱ	2	必
社会調査の実習を中心とする科目	ソーシャル・リサーチⅠ	2	選
	ソーシャル・リサーチⅡ	2	
	フィールド・ワークⅠ	2	選
	フィールド・ワークⅡ	2	

「ソーシャル・リサーチⅠ、Ⅱ」「フィールド・ワークⅠ、Ⅱ」どちらか一方4単位を選択必修とする。

## 情報処理士に関する履修科目表（現代社会学科以外）

区分	授業科目名	単位数	本学における科目区分
領域1	<input type="radio"/> 情報リテラシー基礎	2	情報コミュニケーション科目
	情報リテラシー応用	2	
	情報コミュニケーションA	2	
	情報コミュニケーションB	2	
	情報コミュニケーションC	2	
	情報コミュニケーションD	2	
	情報コミュニケーションE	2	
	情報コミュニケーションF	2	
	情報コミュニケーションG	2	
	情報コミュニケーションH	2	
	情報文明論	2	諸課程履修科目
	メディア文化論	2	
領域2	<input type="radio"/> キャリア開発I	2	キャリア形成科目
	組織マネジメント論	2	諸課程履修科目
	社会心理学	2	
	市民活動論	2	
	都市政策論	2	
領域3	<input type="radio"/> 社会情報学	2	諸課程履修科目
<p>○を付した科目は必修。 必修6単位を含めて合計16単位以上修得すること。</p>			

## 図書館司書に関する履修科目表

群	法定規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
甲 群	生涯学習概論	生涯学習概論	2	必	<p>教育学科及び児童学科の学生は、「生涯学習概論」の履修にあたっては、専門科目の中の「生涯学習概論Ⅰ」を履修すること。</p> <p>「情報サービス演習」は、「情報サービス論」の単位を修得しなければ履修できない。</p> <p>情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱは、「情報資源組織論」の単位を修得しなければ履修できない。</p>
	図書館概論	図書館概論	2	必	
	図書館制度・経営論	図書館制度・経営論	2	必	
	図書館情報技術論	図書館情報技術論	2	必	
	図書館サービス概論	図書館サービス概論	2	必	
	情報サービス論	情報サービス論	2	必	
	児童サービス論	児童サービス論	2	必	
	情報サービス演習	情報サービス演習	2	必	
	図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2	必	
	情報資源組織論	情報資源組織論	2	必	
情報資源組織演習		情報資源組織演習Ⅰ	1	必	
		情報資源組織演習Ⅱ	1	必	
乙 群	図書館基礎特論	図書館基礎特論	2	選	<p>2科目4単位以上修得すること。</p> <p>「図書館実習」の履修についての条件は別に定める。</p>
	図書館サービス特論	図書館サービス特論	2	選	
	図書館情報資源特論	図書館情報資源特論	2	選	
	図書・図書館史	図書・図書館史	2	選	
	図書館施設論	図書館施設論	2	選	
	図書館総合演習	図書館総合演習	2	選	
	図書館実習	図書館実習	2	選	

## 学校図書館司書教諭に関する履修科目表

法定規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
学校経営と学校図書館	学校経営と学校図書館	2	必	
学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成	2	必	
学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2	必	
読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2	必	
情報メディアの活用	情報メディアの活用	2	必	



## 学校司書に関する履修科目表

	規定科目	本学規定科目及び単位数			備考
学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	学校経営と学校図書館	2	必	<p>「情報サービス演習」は、「情報サービス論」の単位を修得しなければ履修できない。</p> <p>「情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」は、「情報資源組織論」の単位を修得しなければ履修できない。</p>
	図書館情報技術論	図書館情報技術論	2	必	
	図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2	必	
	情報資源組織論	情報資源組織論	2	必	
	情報資源組織演習	情報資源組織演習Ⅰ	1	必	
		情報資源組織演習Ⅱ	1	必	
	学校図書館サービス論	学校図書館サービス論	2	必	
	学校図書館情報サービス論	情報サービス論	2	必	
情報サービス演習		2	必		
児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	教育原論	2	必	<p>「教育原論」「教育心理学」「教育課程論」の履修にあたっては、文学部、心理学科、家政学部、現代社会学部及び法学部の学生は諸課程履修科目より、教育学科及び児童学科の学生は専門科目より履修すること。 (児童学科の学生は、「教育心理学」にあつては、「教育心理学Ⅰ」を履修すること。)</p>
		教育心理学	2	必	
		教育課程論	2	必	
	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2	必	
	読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2	必	

日本語教師課程に関する履修科目表

(必修科目を含め、合計26単位以上修得すること。)

領域区分	本学規定科目及び単位数			備考		
社会・文化・地域	日本語教育入門	2	必	諸課程履修科目	全学共通科目	
言語と社会、言語と心理	言語と社会	2	必			
言語と心理、言語と教育	言語と心理	2	必			
言語と教育	言語と教育	2	必			
言語	日本語の構造	2	必			
言語と教育	日本語教育実習	2	必			(事前・事後指導を含む) 「日本語教育実習」は、「日本語教育入門」、「言語と教育」及び「日本語の構造」の単位を修得した者のみ履修することができる。
言語	英語 I A1	1	必	共通領域科目	全学共通科目	
言語	英語 I B1	1	必			
言語と教育、言語	(初修外国語) I A1 (※1)	1	必			(※1)ドイツ語 I A1、フランス語 I A1、中国語 I A1、コリア語 I A1
言語と教育、言語	(初修外国語) I B1 (※2)	1	必			のいずれか1科目を履修すること。
言語と教育	情報リテラシー基礎	2	必			(※2)ドイツ語 I B1、フランス語 I B1、中国語 I B1、コリア語 I B1
言語	キャリア開発 I	2	必			のいずれか1科目を履修すること。
言語	ことばとコミュニケーション	2	選	学科・専攻開放科目	全学共通科目	
社会・文化・地域、言語	中国文学史A	2	選			※文学部の学生は文学部共通専門科目として履修すること。
社会・文化・地域、言語	中国文学史B	2	選			
社会・文化・地域	国文学史2A	2	選	学科・専攻開放科目	全学共通科目	
社会・文化・地域	国文学史2B	2	選			※国文学科の学生は国文学科専門科目として履修すること。
言語	国語史A	2	選			
言語	国語史B	2	選			
言語と社会、言語と心理、言語と教育、言語	多文化教育論	2	選	学科・専攻開放科目	全学共通科目	
言語と教育	教育方法論 (※1)	2	選	※教育学専攻及び児童学科の学生は専門科目として履修すること。		
言語	生徒指導論 (※1)	2	選	(※1)教育学科の学生は専門科目として履修すること。		
社会・文化・地域、言語と社会	生涯学習概論 (※2)	2	選	(※2)教育学科及び児童学科の学生は専門科目の「生涯学習概論 I」を履修すること。		
社会・文化・地域	国文学基礎講座A	2	選	国文学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
言語と社会、言語と教育、言語	入門演習A	2	選			
社会・文化・地域	国文学史1A	2	選			
社会・文化・地域、言語と心理、言語と教育、言語	漢文学A	2	選			
社会・文化・地域、言語と社会、言語と心理、言語と教育、言語	異文化理解基礎講義	2	選	英文学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
言語と心理	言語習得論	2	選			
言語と心理	比較文化研究1	2	選			
言語と社会	社会言語学	2	選			
社会・文化・地域、言語と社会	生涯学習概論 I	2	選	教育学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
社会・文化・地域、言語と社会、言語と教育	比較・国際教育論	2	選			
言語	幼児理解と教育相談	2	選	教育学専攻専門科目 ※		
社会・文化・地域、言語と社会	社会教育演習	2	選			
言語と心理、言語	発達支援演習	2	選	児童学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
社会・文化・地域、言語と社会	生涯学習概論 I	2	選			
言語と心理	学習・言語心理学B	2	選	心理学科専門科目 ※		
言語と教育	教育・学校心理学A	2	選			
言語	生徒指導心理学	2	選			
社会・文化・地域	国際結婚論	2	選	現代社会学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
社会・文化・地域	マイノリティと法	2	選			
社会・文化・地域	多文化社会論	2	選			
社会・文化・地域	英米法 I	2	選	法学科専門科目 ※	各学科・専攻専門科目 ※	
社会・文化・地域	英米法 II	2	選			
社会・文化・地域	国際法 II	2	選			
社会・文化・地域	国際関係論	2	選			
社会・文化・地域	平和研究 I	2	選			
社会・文化・地域	平和研究 II	2	選			
合 計					26単位以上	

※各学科・専攻専門科目は当該所属の学生のみ履修可。

(注)本学が定める日本語教師課程は、文化庁が示す日本語教師養成課程の「副専攻課程」です。

## IV. 履修要項等諸規則

○京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程

平成 25 年 2 月 19 日 制定  
最近改正 平成 31 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 京都女子大学学則第 6 条に基づき、大学、学部、学科及び専攻ごとの人材養成・教育研究上の目的を定める。

(人材養成に関する目的)

第 2 条 大学、学部、学科及び専攻ごとの人材養成に関する目的は、別表 1 の「教育目標」として定める。

(教育研究上の目的)

第 3 条 大学、学部、学科及び専攻ごとの教育研究上の目的は、別表 2 の「学位授与の方針」、別表 3 の「教育課程編成・実施の方針」及び別表 4 の「入学者受入れの方針」として定める。

2 前項に定める学科、専攻ごとの「学位授与の方針」に対する各科目群・科目の関与の程度は、「カリキュラムマップ」として別に示す。

(点検・評価)

第 4 条 本規程に定める人材養成・教育研究上の目的については、定期的にその適切性等について検証する。

2 前項の検証は、別に示す「学修成果の評価に関する方針」に基づいて行う。

(改廃)

第 5 条 この規程の改廃は、学部教授会及び大学評議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成 25 年 2 月 19 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 教育目標

大学

長く日本の政治・文化の中心であり続け、諸外国との活発な国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあって、体系的かつ実証的な学びを提供します。専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点をもたせられるようにします。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感をもって社会に貢献できるようにします。

4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力をもった女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

文学部

文学部  
長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあって、国文学・国語学、英文学・英語学、歴史学（日本史・東洋史・西洋史）の各分野における、体系的かつ実証的な学びを提供します。国文学科、英文学科、史学科、それぞれの専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点をもたせられるようにします。その

知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感をもって、社会に貢献できるようにします。

4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力をもった女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

国文学科

文学部「人材養成に関する目的」のもと、国文学と国語学とについて、体系的かつ実証的な学びを提供します。国文学・国語学に関する専門的知識・理解を深め、4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

卒業後には、教育や学習支援業、報道など、国文学・国語学についての深い素養と高度な日本語運用能力とを活かした分野で活躍できるよう期待しています。

英文学科

文学部「人材養成に関する目的」のもと、世界で広く用いられている英語と広義の英文学とについて、体系的かつ実証的な学びを提供します。英文学・英語学についての専門的知識・理解を深め、4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

卒業後には、英語教育、通訳・翻訳、国際支援、航空・観光、報道など、英文学・英語学についての深い素養と高度な英語運用能力とを活かした分野で活躍できるよう期待しています。

史学科

文学部「人材養成に関する目的」のもと、日本史学、東洋史学、西洋史学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。歴史学についての専門的知識・理解を深め、4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある人材の養成を目指します。

卒業後には、教育や文化関連業種、行政のみならず、観光・旅行面など、歴史学（日本史、東洋史、西洋史）についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

発達教育学部

発達教育学部  
長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあって、教育学・心理学の各分野における、体系的かつ実証的な学びを提供します。教育学、心理学に関する専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点をもたせられるようにします。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感をもって、社会に貢献できるようにします。

4 年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力をもった女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

<p><b>教育学科</b></p> <p>発達教育学部「人材養成に関する目的」のもと、教育学、養護・福祉教育学、音楽教育学について、理論的かつ実証的な学びを提供します。教育学、養護・福祉教育学、音楽教育学に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、教育学、養護・福祉教育学、音楽教育学についての深い素養を活かした分野で活躍し、他者と共に未来を創る一員となるよう期待しています。</p>
<p><b>教育学専攻</b></p> <p>発達教育学部教育学科「人材養成に関する目的」のもと、教育学について、理論的かつ実証的な学びを提供します。特別支援教育も含めた教育学に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、小学校・幼稚園教育の現場をはじめ、地域社会や教育関連企業等の生涯学習の現場など、教育についての深い素養を活かした広い分野で福祉マインドをもって活躍できるよう期待しています。</p>
<p><b>養護・福祉教育学専攻</b></p> <p>発達教育学部「人材養成に関する目的」のもと、養護・福祉教育学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。学校保健、社会福祉に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、学校教育の場はもとより、多様化する福祉領域や地域社会など、学校保健や社会福祉についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。</p>
<p><b>音楽教育学専攻</b></p> <p>発達教育学部教育学科「人材養成に関する目的」のもと、音楽教育学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。音楽教育学に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、教師や指導者として、学校教育、生涯学習、地域活動など、音楽についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。</p>
<p><b>児童学科</b></p> <p>発達教育学部「人材養成に関する目的」のもと、児童発達、児童保健、児童文化、児童表現の4領域からなる児童学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。児童学に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、子どもの成長・発達支援や子育て支援についての深い素養を活かすことのできる分野において、幼稚園教諭・保育士・保育教諭や、児童福祉にかかわる公立・民間の施設職員、子ども関連企業の社員や企業家、子どもに関する社会問題に精通したジャーナリストなどとして活躍できるよう期待しています。</p>
<p><b>心理学科</b></p> <p>発達教育学部「人材養成に関する目的」のもと、心理学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。心理学に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。</p> <p>卒業後には、企業人、公務員、及び公認心理師などの心理専門職など、心理学についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。</p>

#### 家政学部

<p><b>家政学部</b></p> <p>長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地において、家政学(食物栄養学、生活造形学)の各分野における、体系的かつ実証的な学びを提供します。食物栄養学、生活造形学、それぞれの専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点が身につけられるようになります。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようになります。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、</p>
--

仏教精神を学ぶことを通じて、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるようになります。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感をもって、社会に貢献できるようにします。

4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけた女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

#### 食物栄養学科

家政学部「人材養成に関する目的」のもと、食物栄養学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。生活習慣病や食物アレルギー、誤ったダイエットなども大きな社会問題となっている時代において、「健康の維持・増進」「疾病の予防・治療」の立場から食育を推進します。食・栄養・健康に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

卒業後には、管理栄養士の資格取得を目指し、病院、福祉施設、保育所、給食施設、保健所(食品衛生監視員)、学校(栄養教諭)など、食・栄養・健康についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

#### 生活造形学科

家政学部「人材養成に関する目的」のもと、生活造形学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。「人間にとって快適な生活環境とは何か」をテーマとして、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の3領域に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

卒業後には、文化・デザイン分野、ファッション・繊維分野、建築・インテリア分野など、生活環境についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

#### 現代社会学部

##### 現代社会学部

長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地において、現代社会を理解するうえで必要な諸学問分野について、体系的かつ実証的な学びを提供します。自然科学から人文・社会科学までの学問分野における専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点が身につけられるようになります。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようになります。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通じて、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるようになります。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感をもって、社会に貢献できるようにします。

4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけた女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

##### 現代社会学科

現代社会学部「人材養成に関する目的」のもと、現代社会を理解する上で必要な、体系的かつ実証的な学びを提供します。自然科学から人文・社会科学まで現代社会に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性

人材の養成を目指します。

卒業後には、一般企業をはじめ、官公庁、自治体、NGO・NPOなどで、現代社会の諸分野についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

#### 法学部

##### 法学部

長く政治・文化の中心であり続け、諸外国との国際交流を通じて豊かな文化を育んできた街である京都の地にあつて、法学や政治学等の分野における、体系的かつ実証的な学びを提供します。法学や政治学等の専門的知識・理解を深めるとともに、幅広い教養と汎用的技能、グローバルな視点が身につけられるようにします。その知識・理解・技能をもとに、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力を養えるようにします。卒業後も学び続けられる、自立的な学習能力を身につけ、さらには、仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることを問い続けられるようにします。他者と協働しつつ、適切なリーダーシップを発揮して組織・集団を先導し、高い倫理観と責任感とをもって、社会に貢献できるようにします。

4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凛とした品位ある女性人材の養成を目指します。

1. 情緒豊かで高雅な、凛とした品位ある女性人材
2. 宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけた女性人材
3. 広い教養と汎用的技能とを身につけた女性人材
4. 高い専門的知識・理解・技能をもった女性人材
5. 主体性・協調性をもった女性人材
6. 適切なリーダーシップを発揮できる女性人材
7. 市民として社会貢献できる女性人材

##### 法学科

法学部「人材養成に関する目的」のもと、法学や政治学等の分野における、体系的かつ実証的な学びを提供します。法学や政治学等の専門的知識・理解を深め、課題を法的に処理する実践力を養い、リーガル・マインドと法的解決能力とを修得します。4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凛とした品位ある「21世紀型市民」としての女性人材養成を目指します。

卒業後には、法律専門職、公務員に限らず、企業や社会のあらゆる場面で求められる、女性の立場からの批判的視点に基づいた、法についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。

#### 別表2 学位授与の方針 大学

京都女子大学では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
  - ①専門分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
  - ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
  - ①日本語を正確に理解・表現できる。
  - ②母語以外の特定の外国語が運用できる。
  - ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
  - ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ②専門分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
  - ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度による対話ができる。
  - ②対話・議論を通して、他者 (異文化も含めて) との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
  - ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。

③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。

④適切なリーダーシップを発揮できる。

⑤専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

(6) [自立性]

①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 文学部

##### 国文学科

国文学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

(1) [知識・理解]

①国文学と国語学の分野について、高度の専門的知識・理解・技能を有している。

②人文、社会、自然など、広い教養を有している。

③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。

(2) [汎用的技能]

①高度の日本語運用ができる。

②母語以外の、特定の外国語が運用できる。

③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。

④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。

(3) [思考・判断]

①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。

②国文学・国語学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。

③主体的に課題を発見・解決できる。

(4) [対話・相互理解]

①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。

②対話・議論を通して、他者 (異文化も含め) との相互理解・協調に努めることができる。

(5) [社会性・自律性]

①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。

②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。

③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。

④適切なリーダーシップを発揮できる。

⑤国文学・国語学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

(6) [自立性]

①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

##### 英文学科

英文学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

(1) [知識・理解]

①国文学と英語学の分野について、高度の専門的知識・理解・技能を有している。

②人文、社会、自然など、広い教養を有している。

③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。

(2) [汎用的技能]

①日本語を正確に理解し表現できる。

②高度の実用的英語運用ができる。

③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。

④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。

(3) [思考・判断]

①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。

②国文学・英語学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。

③主体的に課題を発見・解決できる。

(4) [対話・相互理解]

①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。

②対話・議論を通して、他者 (異文化も含め) との相互理解・協調に努めることができる。

(5) [社会性・自律性]

①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。

している。

- ② 社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③ 組織の中で、専門的知識・理解・技能、自らの個性や能力を活かして協働できる。
  - ④ 適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤ 英文学・英語学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
- ① 卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 史学科

史学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
- ① 歴史学（日本史、東洋史、西洋史）について、高度の専門的知識・理解・技能を有している。
  - ② 人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③ 宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
- ① 日本語を正確に理解し表現できる。
  - ② 母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③ 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④ 情報通信技術（ICT）を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
- ① 主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ② 歴史学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③ 主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
- ① 様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
  - ② 対話・議論を通して、他者（異文化も含め）との相互理解に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
- ① 高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ② 社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③ 組織の中で、専門的知識・理解・技能、自らの個性や能力を活かして協働できる。
  - ④ 適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤ 歴史学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
- ① 卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 発達教育学部

##### 教育学科教育学専攻

教育学専攻では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
- ① 教育学の分野について、高度の専門的理解を有している。
  - ② 人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③ 宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
- ① 日本語を正確に理解・表現できる。
  - ② 母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③ 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④ 情報通信技術（ICT）を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
- ① 主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ② 教育学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③ 主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
- ① 教育学の専門知識・理解等に基づいて、様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
  - ② 対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。

##### (5) [社会性・自律性]

- ① 高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
- ② 社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
- ③ 組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
- ④ 適切なリーダーシップを発揮できる。
- ⑤ 教育学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

##### (6) [自立性]

- ① 卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

##### 養護・福祉教育学専攻

養護・福祉教育学専攻では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
- ① 養護・福祉教育学の分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
  - ② 人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③ 宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
- ① 日本語を正確に理解・表現できる。
  - ② 母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③ 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④ 情報通信技術（ICT）を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
- ① 主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ② 養護・福祉教育学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③ 主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
- ① 様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
  - ② 対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
- ① 高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ② 社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③ 組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
  - ④ 適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤ 養護・福祉教育学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
- ① 卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

##### 教育学科音楽教育学専攻

音楽教育学専攻では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
- ① 音楽教育学の分野について、高度の専門的理解を有している。
  - ② 人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③ 宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
- ① 日本語を正確に理解・表現できる。
  - ② 母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③ 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④ 情報通信技術（ICT）を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
- ① 主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ② 音楽教育学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③ 主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
- ① 音楽教育学の専門知識・理解等に基づいて、様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。

- ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
  - ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
  - ④適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤音楽教育学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
  - ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 児童学科

児童学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
  - ①児童学の分野について、高度の専門的理解を有している。
  - ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
  - ①日本語を正確に理解・表現できる。
  - ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
  - ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ②児童学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
  - ①児童学の専門知識・理解等に基づいて、様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
  - ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
  - ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
  - ④適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤児童学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
  - ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 心理学科

心理学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
  - ①心理学の分野について、高度の専門的理解を有している。
  - ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
  - ①日本語を正確に理解・表現できる。
  - ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
  - ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ②心理学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
  - ①心理学の専門知識・理解等に基づいて、様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。

- ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
  - ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
  - ④適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤心理学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
  - ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

#### 家政学部

##### 食物栄養学科

食物栄養学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
  - ①食物栄養学の分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
  - ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
  - ①日本語を正確に理解・表現できる。
  - ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
  - ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ②食物栄養学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]
  - ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。
  - ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]
  - ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
  - ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。
  - ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。
  - ④適切なリーダーシップを発揮できる。
  - ⑤食物栄養学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]
  - ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

##### 生活造形学科

生活造形学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]
  - ①生活造形学の分野について、高度の知識・理解・技能を有している。
  - ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。
  - ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]
  - ①日本語を正確に理解・表現できる。
  - ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。
  - ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。
  - ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]
  - ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。
  - ②生活造形学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。
  - ③主体的に課題を発見・解決できる。



- (4) [対話・相互理解]  
 ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。  
 ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]  
 ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。  
 ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。  
 ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。  
 ④適切なリーダーシップを発揮できる。  
 ⑤生活造形学の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]  
 ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

## 現代社会学部

## 現代社会学科

現代社会学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]  
 ①現代社会の諸分野について、高度の専門的知識・理解・技能を有している。  
 ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。  
 ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]  
 ①日本語を正確に理解・表現できる。  
 ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。  
 ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。  
 ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]  
 ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。  
 ②現代社会の諸分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。  
 ③主体的に課題を発見・解決できる。
- (4) [対話・相互理解]  
 ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。  
 ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]  
 ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。  
 ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。  
 ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。  
 ④適切なリーダーシップを発揮できる。  
 ⑤現代社会の諸分野の専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]  
 ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

## 法学部

## 法学科

法学科では、以下のような能力を修得した者に学位を授与します。

- (1) [知識・理解]  
 ①法学の分野について、高度の専門的理解を有している。  
 ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。  
 ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。
- (2) [汎用的技能]  
 ①日本語を正確に理解・表現できる。  
 ②母語以外の、特定の外国語が運用できる。  
 ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。  
 ④情報通信技術 (ICT) を活用することができる。
- (3) [思考・判断]  
 ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。

- ②法学・政治学の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。  
 ③主体的に課題を発見・解決できる。

- (4) [対話・相互理解]  
 ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度によって対話ができる。  
 ②対話・議論を通して、他者との相互理解・協調に努めることができる。
- (5) [社会性・自律性]  
 ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。  
 ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。  
 ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。  
 ④適切なリーダーシップを発揮できる。  
 ⑤法学・政治学の専門的知識・理解等を活用して、社会に貢献できる。
- (6) [自立性]  
 ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。

別表3 教育課程編成・実施の方針  
大学

京都女子大学では、「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、主に幅広い教養や汎用的技能の修得を目指す「共通領域」と、高度の専門的知識・理解・技能を修得するための「専門領域」とを設け、それぞれを体系的に編成します。

共通領域科目と専門領域科目との連携による体系的課程において、汎用的な、また専門的な知識・理解・技能を基に、主体的に認知する力、他者との相互理解に努める力、自ら課題を発見し解決できる力、卒業後も学び続けられる自立的学習能力などを養成します。

教育内容、教育方法について、以下のように定めます。

## (1) 教育内容

- 1) 共通教育においては、建学の精神を学ぶ科目である「仏教学」において、宗教についての正しい理解と正しい批判力とを養います。人文・社会・自然などにわたる幅広い教養とともに、日本語・外国語を適切に表現し理解する言語運用能力や、多様な情報を収集・分析・活用・発信できる能力など、汎用的能力を身につけられるようにします。また、一人ひとりの学生が将来に向けたキャリアビジョンを確立するためのキャリア教育を行い、生涯を通じて健康に活躍できるための健康科学教育も行います。こうして、大学での学修も含めた、生涯にわたる、力強い学びの基礎を形づくりします。
- 2) 専門教育においては、共通領域科目との連携を図りながら、各専門分野について高度の知識・理解・技能を身につけます。学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていく段階性に留意しつつ、それぞれの分野の専門性に基づき、必要に応じて履修上の区分を設けるなど、体系的な科目配置を行うことによって、各専門分野の学びを確かなものとし、極めて高い達成を目指します。
- 3) 学修内容に応じ、講義、演習、実験・実習といった最も適切な形態による授業を開講します。卒業年次には、学士課程の集大成として、それまでの学修を総合して指導教員の個別指導を受けつつ、卒業論文または卒業研究に取り組みことを必修とします。

## (2) 教育方法

- 1) 1回生から卒業回生にいたるまで、すべての学年で、少人数演習を必修科目において開講し、調査やレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション等を通して、主体的で合理的な思考、問題発見・解決能力、多角的な視野、対話により相互理解に努めることができる力等を養います。
- 2) アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法をすべての少人数科目で用い、多人数科目においても、極力、取り入れます。

## 全学共通領域

1年次からの「共通領域」は、「仏教学」、「言語コミュニケーション科目」、「京女の教養学」、「情報コミュニケーション科目」、「健康科学科目」、「キャリア形成科目」、「連携活動科目」の7区分から構成されています。

「仏教学」においては、親鸞聖人の体せられた仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけられるようにします。

「言語コミュニケーション科目」においては、外国語運用能力を身につけるだけでなく、その言語の母胎となった文化も理解できるようにします。異文化理解をもとに、自らの文化について客観的・批判的に考える力を養うとともに、相互理解における課題を見出し解決する能力を身につけ、グローバル社会に主体的に参加し得る能力の確立を目指します。

「京女の教養学」においては、人文科学系、社会科学系、自然科学系の広い分野にわたる学びを通して、様々な問題や課題の性質と構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していくための基盤となる教養が身につけられるようにします。

「情報コミュニケーション科目」においては、ICT化の急速な進展にともない必須となった、情報機器を用いての情報の収集・分析・活用・発信に必要な知識・技能が身につけられるようにします。

「健康科学科目」においては、生涯をとおして健康で健全に過ごし社会で活躍するための心身の基礎作りについて学び、スポーツ文化に対する認識を深めて、健康についての知識・技能が身につけられるようにします。

「キャリア形成科目」においては、特に女性の視点に立って社会の実態を学び、ライフキャリアデザインを描いて、卒業後の自己実現を成就するための基盤が身につけられるようにします。

「連携活動科目」においては、将来、地域社会の女性リーダーとして社会に貢献できる能力を養うことを目指して、地域社会の構造と地域が直面している課題についての理解を深め、地域連携活動への主体的な従事を促します。連携活動に関する基礎知識と活動の意義を理解し、自治体や各種団体・組織、企業の寄附講義から社会の多様な側面について幅広い知識を身につけられるようにします。

共通領域各科目の教育課程は、それぞれ、以下のようになっています。

#### (1) 仏教学

必修科目において、釈尊が示された仏教の基本理念を中心に学び、それらが現代の人間の生き方にどのような意義をもつかを学びます。さらに、大乘仏教の「一切衆生救済」を具体的に開顕した浄土教の意義を学び、特に親鸞聖人の体せられた仏教精神を学ぶことを通して、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を身につけられるようにします。

その上で、発展科目（アドバンスト科目）を選択履修し、仏教が現代を生き抜く智慧であることや、仏教思想家たちが重ねてきた思索について学び、生涯を通じて、生きることを意味を、さらに深く問い続けられるようにします。

#### (2) 言語コミュニケーション科目

必修科目の英語では、レベル別授業によって習熟度を総合的に向上させます。英語に加えて、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語のなかから1言語を選択必修とし、多言語の基礎的語学力を修得します。異文化間コミュニケーションにおいて、互いの価値観を相対化し、問題に柔軟に対処する姿勢を学ぶことにより、多様な人々と円滑にコミュニケーションを行うための素地を養います。自宅でも学べるe-ラーニング環境を整え、主体的な学びを推進します。

その上で、様々な発展科目（アドバンスト科目）を選択履修し、さらに多言語運用能力を、より高度なものとしめます。

#### (3) 教養科目

9つのテーマに基づく人文科学系・社会科学系・自然科学系の授業を選択受講して、多様な社会で生きる力、他者との相互理解に努める力を修得して、市民としての自覚やコミュニケーション能力を身につけます。また、社会や時代のキーワードに直結する、世界の現在（いま）を学ぶ、京言葉や、伝統芸能、食文化など、華麗で醇醇、奥深い京都の芸術・文化を学びます。

いずれも、女性が生きるための正しい判断力や批判的・合理的に考える力を養うと共に、社会や自己を科学の眼で捉え、自ら課題を発見し、解決する力を身につけ、対話能力を高めます。

#### (4) 情報コミュニケーション科目

必修科目では、ICTの利活用スキル、データベースの利用など情報収集・活用、レポート・論文作成、統計学等の情報系スキルを修得するとともに、ビジュアル表現、プレゼンテーション、情報デザインなどの学びの基礎を固めます。基礎理論と主体的実践との統合的学修を通して、情報活用の基礎知識を学び、批判的・合理的に考える能力と汎用的スキルを養うと共に、課題発見力や課題解決力を身につけ、情報の分析力を生かして対話能力も高めます。

選択履修する発展科目（アドバンスト科目）では、情報処理・知識処理技術等に関する学びを、さらに深めます。

#### (5) 健康科学科目

必修科目の講義では、健康づくり・体力づくりの基礎的知識を学ぶと共に、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にします。

選択履修の実技科目では、生涯にわたって運動習慣が継続できる実践能力の習得と運動処方（体力づくり）の基礎を学びます。体力面だけでなく、授業を通じて自律、自我、協調性を確立するための生きる力を養うライフスキルの形成を目指します。

#### (6) キャリア教育科目

キャリア教育全体の中で将来の目標を立て設計すること、及びその実現に向かって積極的に取り組むことができるよう、働くことの意義も含めた社会や環境の実態についての基礎的知識の修得を目指します。

1年次の科目では、女性を取り巻く社会変化や女性の就労実態などを知り、女性の生き方を考えることで、自分の可能性を探るとともに、自らの将来・学びをイメージします。さらに、卒業生の体験談を聞くことやグループワークを通して、大学での学びが卒業後の仕事とどのようにつながっているのかを学びます。主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めます。

発展科目（アドバンスト科目）では、企業・業界研究やワーク・ライフ・バランスなどの内容もとり入れて、さらに学びを深めます。

#### (7) 連携活動科目

「連携活動入門」では連携活動の社会的意義、企業の社会貢献活動の背景と実態を学ぶとともに、京都市内で行なわれている具体的な連携活動の機会を紹介することを通して活動に従事することを促します。

「連携課題研究」は、地域社会が抱える課題の発見能力と課題解決能力を養うことを目指して、自ら地域や企業の課題を探索し、企業や市民との協働活動を通して課題解決の方策を探ることが出来るように構成します。また、企業や市民に提案することでプレゼンテーション能力を養うことを目指します。

「地域連携講座」は本学の就職協定締結先の自治体職員や、連携協定先の自治体、各種機関、市民団体からゲストスピーカーを招き、実務家の講義を通して地域社会の現状、課題を学ぶことにより、実態に即した地域社会に関する広範な知識の獲得を目指します。

「産学連携講座」は様々な企業・団体の寄附講義により、企業の社会的役割や地域社会の発展と企業との関係、金融界・産業界の仕組み、労働者保護の法律や仕組みなどを学びます。

### 文学部

#### 国文学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、国文学や国語学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、古典文法を学び直すとともに、国文学史・国語史など、国文学・国語学に関する基礎的知識を身につけ、また発展的講義で、古代から現代までの国文学や国語学の学びを始めていきます。

2年次では、発展的講義で、古代から現代までの国文学や国語学の学びを深めます。また、1セメスターあたり1つの分野を選択し、演習形式での学びを通して、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、京都の風土についても実地に学びます。

3年次では、発展的講義で、国文学・国語学の学びをさらに深めていきます。国文学・国語学の、各時代・分野の中から2つのゼミを選択して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業論文を執筆し、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 英文学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、英文学や英語学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法とし、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目の学びを、4年間、段階的に進めることで、学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、英語圏の文化・文学・コミュニケーションの基礎的知識を修得し、英語スキル科目で実践的な英語能力を高めます。

2年次は、引き続き英語スキル科目を学び、英語圏への半年留学等の選択科目を通じて、英語能力を飛躍的に伸ばし、異文化理解を深めます。

3年次は、英語コミュニケーション能力とキャリア形成能力を涵養しながら、Advanced Research Seminarを通して、多様で自由な専門研究に取り組み、主体的に調査し、考える力を養います。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、スタンダードな英語使用による高い表現能力と、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 史学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、世界の歴史についての広い習熟と、各自が選択し専門とする「日本史」「東洋史」「西洋史」の個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、基礎演習などを通して歴史学の方法論を学ぶと共にプレゼンテーションの方法なども経験します。さらに、日本史・東洋史・西洋史の各概論の授業を中心に、日本と世界の古代から現代までの歴史に関する基礎的知識を修得します。

2年次から、日本史、東洋史、西洋史の各コースに分かれて専門科目を学修します。特殊講義では歴史学のそれぞれの分野の学びを深め、入門演習では主体的に調査し、考える力の素地を身につけます。

3年次では、発展的講義や講読科目で歴史学の学びをさらに深めます。さらに分野を1つに絞って演習を選択し、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業論文を執筆し、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 発達教育学部

## 教育学科教育学専攻

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、教育学を中心に福祉マインドについても学び、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、教育学入門演習において研究方法の基礎を学ぶとともに、特別支援教育等も含めた教育学について基礎的知識を身につけます。

2年次では、教育学や各教科の学びを深めます。また、教育学演習において、演習形式での学びを通して、各分野の研究課題に主体的に取り組み、考える力を養います。

3年次では、教育学や各教科の学びをさらに深めていきます。各自の興味・関心に基づいて「教育学研究」を選択して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 教育学科養護・福祉教育学専攻

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、養護・福祉教育学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、広く福祉について学ぶとともに、養護・福祉教育学に関する基礎的知識を身につけ、ます。

2年次では、発展的講義で、養護・保健・社会福祉・スクールソーシャルワーク(SSW)の学びを深めます。また、2年次演習において、演習形式での学びを通して、各分野の研究課題に主体的に取り組み、考える力を養います。

3年次では、発展的講義で、養護・保健・社会福祉・スクールソーシャルワーク(SSW)の学びをさらに深めていきます。各領域から研究分野を選択して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、分野を1つに絞って、更に知識・技能を高めるとともに、4年間の学修を総合して指導教員の個別指導を受けつつ卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 教育学科音楽教育学専攻

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、音楽教育学の全ての分野についての幅広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、音楽に関する理論と実技を相互に関連付けるとともに、音楽理論や音楽史など、音楽に関する基礎的知識を身につけ、ピアノ・声楽・管楽器など、演奏に関する基礎的スキルを身につけていきます。

2年次では、発展的講義で音楽教育や演奏表現についての学びを、深めます。また、音楽文化研究を通して、演習形式での学びを行い、主体的に探究し考える力と表現する力を養います。この2年次演習では、様々な専門領域についても学びます。

3年次では、発展的講義で音楽教育や演奏表現についての学びをさらに深めていきます。論文、作曲、ピアノ、声楽・管楽器の5つの分野に分かれて演習を行い、主体的に探究し、考える力と表現する力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、各分野の演習において一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 児童学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養と

ともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身に付け、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、児童学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、「児童発達」「児童保健」「児童文化」「児童表現」の4領域からなり、以下のようになっています。

1年次では、子どもの心身や行動の発達に関する基礎的知識や理論、児童文化史・文化財・文化活動などの児童文化学の基礎的知識、健康について学び始めます。また、造形・音楽に関する全般的知識を学ぶとともに、造形・音楽の実践力の基礎を身につけます。

2年次では、子どもの生育環境としての家庭や社会が果たす役割を理解し、発達支援・子育て支援に関する基礎的知識と技能を身につけます。疾病・健康増進・健康支援に関する基礎的知識を学ぶとともに、運動あそびの指導法における基礎技能を身につけます。児童文学や絵本等の作品分析や作家論の学びを深めるとともに、実践を交えた演習を通して、紙芝居の上演や絵本の読み聞かせの基礎的スキルを身につけます。造形・音楽の実践力を高め、造形・音楽活動を通じて子どもの成長や発達を支援する力を養います。

3年次では、これまで身につけてきた4領域の学びを統合した高い実践力を身につけるとともに、いずれかの領域のゼミに所属して、特定の領域に関する学びを深めます。ゼミにおいては、各自の興味・関心に応じて主題を設定し、主体的な学びを進めることにより、批判的・合理的に考える力を養います。

4年次では、4年間の学修を統合した卒業研究（論文・制作・演奏）に取り組むことを通じて、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

#### 心理学

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身に付け、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、心理学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、「心」の成り立ちと現象を学ぶとともに、科学としての心理学を学ぶなど、心理学の主要領域に関する基礎的知識を身につけ、また発展的講義で、心理学における研究法の学びを始めていきます。

2年次では、発展的講義で、心理学の各分野についての学びを深めます。また、心理学実験あるいは研究法の授業から選択して、実習及び演習形式での学びを行い、主体的にデータを収集し分析を行い、それに基づいて考える力を養います。2年次演習では、外国語文献の講読法についても学びます。

3年次では、発展的講義で心理学の領域の詳細な内容について学びをさらに深めていきます。心理学の分野から1つ選択して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

#### 家政学部

##### 食物栄養学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身に付け、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、食物栄養学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全

学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、基礎的の化学・生物学・有機化学を学ぶとともに、食物栄養基礎演習・基礎実験・科学英語などを通して食と健康に関する科目を理解していくために必要な基礎的知識を身につけ、また発展的講義で、解剖生理学、調理学実習など、管理栄養士に関する科目の専門基礎分野の学びを始めていきます。

2年次では、発展的講義で専門基礎分野に加えて専門分野も開始し、管理栄養士に関する科目の学びを、深めます。また、多くの実験・実習を通して、主体的に調査・実験し考える力を養います。この2年次の実験・実習では、臨床栄養学実習も行います。

3年次では、発展的講義で管理栄養士に関する科目（専門基礎分野・専門分野）の学びをさらに深めていきます。個々の将来の活躍の場を想定し、「臨床栄養」、「健康教育」、「研究開発」の3系列の中から1つを選択して講義を受け、校外実習や臨地実習を行い、また、卒業研究に備えた講義も受けることにより、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

##### 生活造形学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や、情報リテラシーなど、汎用的能力を身に付け、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、生活造形学（造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学）の分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、生活造形の基礎を学ぶとともに、デザイン、アパレル、空間など、3領域に関する基礎的知識を身につけます。また、演習・実習で、専門の学びを進めます。

2年次では、発展的講義で各専門領域の学びを、深めます。また、各自の興味に応じ、演習・実習形式での学びを通して、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習・実習では、デザインの手法についても学びます。後期からは、実験も始まります。

3年次では、発展的講義で各専門領域の学びをさらに深めていきます。後期からはゼミ単位に分かれて専門演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

#### 現代社会学部

##### 現代社会学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力を養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身に付け、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、現代社会に必要な学際的な視野を身につけます。また、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、以下のようになっています。

1年次では、自然科学から人文・社会科学までの幅広い分野のアプローチ科目を履修し、現代社会を理解する上で必要な基礎的知識

を学びます。また、スキル科目や基礎演習などを通じ、現代社会を生きる上で必要な技能やコミュニケーション能力を身につけます。また、2年次以降の発展的講義では、専攻ごとの教育課程の方針のもと、固有の授業科目群が編成され実施されます。各専攻には、プログラム科目が配置され、意欲のある学生は発展的な学びを、さらに追求できます。

#### 【現代社会専攻】

2年次の発展的講義では、現代社会が直面する人文・社会・自然各領域における諸課題についての学びを深めます。また、1 Semesterあたり1つのテーマに関するゼミを選択して少人数の演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、現代社会の諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

#### 【国際社会専攻】

2年次の発展的講義では、国際社会が直面する、政治・経済各領域における諸課題についての学びを深めます。また、1 Semesterあたり1つのテーマに関するゼミを選択して少人数の演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、国際社会の諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

#### 【情報システム専攻】

2年次の発展的講義では、現代社会が直面する、情報科学・情報工学領域における諸課題についての学びを深めます。また、1 Semesterあたり1つのテーマに関するゼミを選択し演習形式で学び、主体的に調査し考える力を養います。この2年次演習では、プレゼンテーションや質疑応答の仕方についても学びます。

3年次の発展的講義では、情報システムの諸課題についての学びをさらに深めていきます。また、卒論作成に向けて各自のテーマ関心に応じたゼミを選択し、主体的に調査し、かつ批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

各専攻とも、4年次では分野を1つに絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけ、指導教員の個別指導の下、4年間の学修を総合した卒業論文を執筆し、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

2年次の発展的講義では、法学・政治学の専門科目の学びを深めます。また、少人数教育の演習形式での学びを行い、主体的に調査し考える力を養います。この演習では3年次以降に専門とする分野の知識についても学びます。

3年次では、各分野の専門的知識を深め、リーガル・マインドを修得するための学びをさらに深めていきます。事例研究を通して演習を行い、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、対話能力も高めていきます。

4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指します。

## 法学部

### 法学科

学位授与の方針に基づいて、1年次からの共通教育においては、宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを養います。幅広い教養とともに、言語運用能力や情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけ、また、キャリアや健康科学についても学びます。専門領域においては、法学・政治学の全ての分野についての広い習熟と、各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成との両立を目指します。全学的教育理念であるアクティブ・ラーニングと少人数教育とを汎領域的教育方法として、体系的に配置された共通領域科目・専門領域科目での学びを、4年間、段階的に進めることで、学年・Semesterの進行ごとに学びを高め深めていきます。

専門領域の教育課程は、基本六法に行政法を加えた科目を中心とした基幹的法律専門科目と、女子大学の法学部としての特色を備えた女性のための法学科目を連携・関連させて編成しています。あわせて、現代法科目、国際関係法科目、政治学・経済学科目なども提供しています。専門課程における教育においても、「専門分野と職業とのかかわり」や「豊かな人間形成と人生設計」等の視点から、キャリア教育の実現を目指します。

1年次では、初年次演習とともに、法学・政治学に関する基礎的知識を身につけて、憲法、民法などの法律専門科目の学びを始めていきます。

## 京都女子大学 履修要項

京都女子大学（以下「大学」という。）を卒業するために必要な単位の修得方法及び教育職員免許状その他の資格取得の所要資格を得るに必要な単位の修得方法、その他修学上必要な事項については、この要項の定めるところによる。

学生は本要項を熟知し、誤りのないようにしなければならない。

### 第1章 卒業の要件

（卒業の要件）

第1条 大学を卒業するためには、大学に4年以上在学し、その間に学科（専攻）ごとに定める教育課程に従って、授業科目を履修し合計132単位以上を修得しなければならない。

（卒業に必要な単位）

第2条 卒業に必要な科目及び単位数は、別表1〔大学学則（以下「学則」という。）第13条別表〕のとおりとする。

（履修方法）

第3条 前条に定める授業科目の履修方法は、それぞれ次のとおりとする。

（1）仏教学

ア 1回生の前期及び後期、3回生の前期及び後期にそれぞれ開講される各2単位、合計8単位を必修とする。

イ 2回生の前期及び後期に開講されるアドバンスト科目は選択科目で、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

（2）言語コミュニケーション科目

ア 初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語）

a ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語のうち、1外国語の「I A 1（基礎Ⅰ）」・「I B 1（基礎Ⅱ）」・「I A 2（実習Ⅰ）」・「I B 2（実習Ⅱ）」各1単位4科目を履修し、合計4単位を修得しなければならない。

b 外国語検定等による単位認定も含め、「I」の4単位すべてを修得した者は、当該外国語の「Ⅱ」を履修することができる。修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

c 「Ⅲ」を履修するためには、「Ⅱ」から「Ⅱ A 1」を含む3科目の単位を修得していなければならない。修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

d 初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語）は、履修登録に先立って、指定された期日に予備登録をし、あらかじめ指定されたクラスで登録しなければならない。予備登録に際しては、『IRIS（イリス）』（「言語コミュニケーション科目」の手引き書）を参照すること。

イ 英語

a 英語「I A 1」・「I A 2」・「I B 1」・「I B 2」各1単位4科目を履修し、合計4単位を修得しなければならない。

b 英語「Ⅱ」・「Ⅲ」は選択科目で、指定された年次以降に自由に履修することができる。修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

c 英語「I A 1」・「I A 2」・「I B 1」・「I B 2」は、入学時に行うプレースメントテストの結果に基づき指定されたクラスで登録しなければならない。

ウ 本学入学前又は入学後に、文部科学大臣が定める英語・ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語の外国語検定等に合格又は規定の点数を取得した場合は、学則第19条の3及び第19条の4により、本学の授業科目に読み替え、単位を認定することができる。単位の認定等必要な事項は別に定める。

エ 語学研修科目

本学が行う語学研修に参加し、単位が認定された場合は、8単位までを卒業に必要な単位に含めることができる。履修登録、単位の認定等必要な事項は別に定める。

オ 外国人留学生の言語コミュニケーション科目履修

a 外国人留学生は、初修外国語として日本語（「日本語 I A 1」、「日本語 I A 2」、「日本語 I B 1」、「日本語 I B 2」）を履修することができる。

b 外国人留学生は、言語コミュニケーション科目として母語を履修することはできない。英語を母語とする外国人留学生は、「ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、日本語」より二外国語を選択し、それぞれにつき、I A 1、I A 2、I B 1、I B 2を修得して言語コミュニケーション科目の必修単位（合計8科目8単位）とする。

c 本学の「日本語プログラム科目」（学則別表3の2）を履修

して必要な単位を修得した場合は、当該修得単位を「日本語」の単位として認定することができる。

d 本学入学前に「日本語能力試験」又は「日本留学試験（日本語）」に合格又は規定の点数を取得した場合は、「日本語 I A 1」、「日本語 I A 2」、「日本語 I B 1」、「日本語 I B 2」の単位（合計4単位）に読み替え、認定することができる。

（3）情報コミュニケーション科目

ア 「情報リテラシー基礎」2単位を必修とする。

イ 「情報リテラシー応用」2単位は選択科目で、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。

ウ 情報コミュニケーション科目のアドバンスト科目を履修する場合、「情報リテラシー基礎」の単位を修得しておかなければならない。修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（4）健康科学科目

ア 「運動と健康科学」2単位を必修とする。

イ 「スポーツ実践」1単位は選択科目で、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができる。ただし、教育職員免許状を取得しようとする者は必ず修得しなければならない。

ウ 「スポーツ実践」を履修する者は、所定の期間内に別に定めるスポーツ実践実習費を納入しなければならない。

（5）京女の教養学

修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（6）キャリア形成科目

修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（7）連携活動科目

修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（8）学科・専攻開放科目

修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（9）他大学単位修得科目

ア 他の大学又は短期大学で修得した単位は学則第19条の2により、卒業に必要な単位に含めることができる。履修登録、単位の認定等必要な事項は別に定める。

イ 他の大学又は短期大学の授業科目の受講は、2回生から4回生前期の期間とする。

（10）専門科目

ア 各学科（専攻）の教育課程に従い、必修科目の修得及び選択必修科目の要件を満たしたうえで、72単位以上修得しなければならない。

イ 各学科（専攻）が指定する単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。

（11）本学入学前に大学等で修得した単位

本学入学前に大学又は短期大学で修得した単位は学則第19条の4により、本学の授業科目に読み替え単位を認定することができる。

2 第1項第2号ウ及び同第11号の規定により、本学入学前の本学以外での学修を本学の授業科目に読み替えて認定できる単位数は、あわせて60単位を上限とする。

3 第1項第2号ウ及び同第9号の規定により、本学入学後の本学以外での学修を本学の卒業に必要な単位に含めることができる単位数は、あわせて60単位を上限とする。

（諸課程履修科目）

第3条の2 資格等取得のために開講する「諸課程履修科目」で修得した単位は、卒業に必要な単位に含めることができない。

（副専攻プログラム）

第3条の3 学則第14条の2に規定する京都女子大学副専攻プログラムに関し必要な事項については、別に定める。

### 第2章 履修登録及び授業

（履修登録）

第4条 学生は、当該年度に履修しようとする授業科目について、あらかじめ指定された期日に、履修登録の手続きを行わなければならない。

2 授業科目の登録は、原則として当該学科（専攻）及び回生ごとに組

まれた開講一覧表（時間割表）に従わなければならない。

- 3 前項の定めにかかわらず、他学部・他学科（専攻）の学科・専攻開放科目及び発達教育学部教育学科の各専攻において履修が認められている他専攻の科目については履修登録することができる。
- 4 卒業要件として修得すべき単位のうち、1年間に登録できる授業科目の単位数の上限は49単位とする。ただし、校外実習・校外研修科目及び当該実習指導に関する科目、並びに卒業論文・卒業研究については、登録単位数の上限を超えて登録することができる。
- 5 一度単位認定された授業科目は再登録できない。

#### （履修登録の修正）

第5条 履修登録後の追加・変更及び取り消しは、授業開始後の指定された期日に修正の手続きをした者についてのみ認める。

#### （授業の方法）

第6条 授業科目は、その授業方法により講義、演習（講読）、実験・実習又は実技に区分し、授業はそのいずれかにより行う。また、これらの併用により行う場合がある。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

#### （単位の計算）

第7条 授業科目の単位の計算方法は、次の基準による。（学則第17条）各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
  - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目の単位数については、論文等作成に必要な学修等を考慮して定める。

#### （必修科目・選択科目の区分）

第8条 授業科目は、その履修方法により必修科目及び選択科目（選択必修科目を含む。）に区分する。

#### （必修科目の再履修）

第9条 必修科目が不合格で単位が認定されなかった場合は、必ずその科目の単位が認定されるまで履修しなければならない。

#### （言語コミュニケーション科目の再履修）

第10条 言語コミュニケーション科目（英語を除く）の再履修については、別に定める。

#### （選択必修科目の再履修）

第11条 選択必修科目が不合格で単位が認定されなかった場合は、選択できる範囲内の科目を履修してこれに代えることができる。

#### （開講期間）

第12条 授業科目は、その開講期間により学則第11条に定める前期に開講する前期開講科目、後期に開講する後期開講科目及び前期、後期を通じて開講する通年開講科目に区分する。

2 あらかじめ通年として開講されている授業科目は、通年受講しなければならない。

#### （受講）

第13条 受講に際しては、担当教員の出席簿に、出席・欠席・遅刻及び早退の記入をうけなければならない。

#### （出席日数）

第14条 当該授業科目の出席日数が、実験・実習・実技にあっては、開講日数の5分の4以下、その他にあっては開講日数の3分の2以下の者については、原則として単位認定は行わない。ただし、公欠及び忌引の期間は出席日数に含める。

2 削除

#### （公欠・忌引）

第15条 公欠又は忌引とは、次の各号のうち本学が認めた期間について適用する。

- (1) 父母、配偶者又は子の死亡による忌引の期間
- (2) 祖父母、兄弟、姉妹、曾祖父母、伯叔父母又は甥姪の死亡による忌引の期間

(3) 課程履修に伴う実習（介護等体験を含む。）の期間

(4) 就職試験の期日

(5) 学校保健法施行規則に定める伝染病治療の期日

(6) 団体等の学外活動の期間

(7) その他

#### （授業時間）

第16条 授業時間は、講時で表わし1講時を2時間と見なして計算する。講時配当時間は、次のとおりとする。

- |      |               |
|------|---------------|
| 1 講時 | 8:50 ~ 10:20  |
| 2 講時 | 10:35 ~ 12:05 |
| 3 講時 | 13:00 ~ 14:30 |
| 4 講時 | 14:45 ~ 16:15 |
| 5 講時 | 16:30 ~ 18:00 |
| 6 講時 | 18:10 ~ 19:40 |

## 第3章 試験

#### （試験）

第17条 学生は、履修登録を行った授業科目について、その担当教員の授業を受け、かつ、その指定するところから従って試験を受けなければならない。

2 前項の試験は、レポート等の提出をもってこれに代える場合がある。

#### （定期試験）

第18条 前条に定める試験のうち、本学が定める期間に行うものを定期試験という。

2 定期試験は、前期及び後期の各期末に行い、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを学年末試験という。

3 定期試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については学年末試験において実施する。ただし、通年開講科目であっても、前期試験を実施する場合がある。

#### （受験資格）

第19条 定期試験は、所定の期日までに当該科目の履修登録を行った者のうち、第14条に該当しない者に限り受験資格を認める。

#### （受験心得）

第20条 受験に際しては、予め当該授業科目で定められた方法及び時間を厳正に守るものとし、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従わなければならない。

#### （受験時の注意）

第21条 定期試験を受験する者は、試験場において次の規定を守らなければならない。

- (1) 着席は、少なくとも一席おきとする。
- (2) 学生証を机上に提示する。
- (3) 筆記用具及び特別に持込みを許可されたもの以外は、すべて鞆等の中に収納する。
- (4) 下敷の使用は、特に認められた場合を除き禁止する。
- (5) 配布された答案用紙は、退室の際、必ず監督者に提出すること。

#### （仮学生証）

第22条 前条第2号に定める学生証を携帯していない者は、証明書発行センターにおいて仮学生証の交付を受けることができる。

#### （不正行為の禁止）

第23条 受験に際しては、一切の不正行為を厳禁する。

#### （不正行為者に対する処置）

第24条 不正行為者に対しては、当該試験科目の評価をDにする。

2 学則第54条により懲戒されることがある。

#### （試験時間の重複）

第25条 同一時間に受験科目が重複するときは、定められた期間内に教務課へ申し出て、その指示を受けなければならない。

#### （レポート等の提出）

第26条 第17条第2項によるレポート等を提出する場合にあっては、提出期限を厳守しなければならない。

2 削除

#### （追試験）

第27条 定期試験が第15条又は次のいずれか一つに該当する事由により受験できなかった者で、第28条第1項に定める手続きを経て許可された者は、改めて追試験を受けることができる。

- (1) 病気のために受験することができなかった者
- (2) 事故のために受験することができなかった者
- (3) その他、やむをえざる事由により受験することができなかった者

(追試験の手続)

第28条 追試験を受けようとする者は、当該試験期間内に、所定の欠試験届に診断書又は事故証明書等、事由を証明する書類を添付して、教務部長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、当該試験期間内に願い出ることが困難な特別な事情があった場合は、当該試験期間後3日以内に願い出れば期限内に願い出たものとみなす。

- 2 前項により追試験の受験を許可された者は、追試験受験願(教務課所定)に必要な事項を記入し、教務課の承認を受けた後、所定の期間内に別に定める追試験料を納入しなければならない。

(追試験の時期)

第29条 追試験は、前期試験については9月、学年末試験については3月に実施する。

(追試験の評価)

第30条 追試験の成績評価方法は、正規の試験に準ずる。

(再試験)

第31条 卒業回生で、当該年度登録の卒業に必要な授業科目の単位のうち、未修得単位が最終的に6単位以内となり、かつ、卒業に必要な当該科目の採点結果が50点以上の者は、本学の指示する授業科目について第34条に定める手続を経たうえで、再試験を受けることができる。ただし、追試験受験科目については、これを適用しない。

(再試験科目)

第32条 前条に定める「本学が指示する授業科目」とは、当該年度登録の授業科目のうち、卒業の要件を満たすに必要な最低限度の科目で、かつ、当該科目の採点結果が50点以上、60点未満のものをいう。ただし、前期科目で該当する場合にあっても後期に同一科目を再登録した場合、及び「他大学単位修得科目」については、これを適用しない。

第33条 削除

(再試験の手続)

第34条 再試験を受ける者は、再試験受験願(教務課所定)に必要な事項を記入し、教務課の承認を受けた後、所定の期間内に別に定める再試験料を納入しなければならない。

(再試験の時期)

第35条 再試験は、3月に行う。  
2 前項のほか、前期で卒業の要件を満たし得る者のみ9月に行う。

(再試験の評価)

第36条 再試験の合格者の評価は、Cとする。

(規定の準用)

第37条 第20条から第26条までの規定は、追試験及び再試験においてもこれを準用する。

## 第4章 卒業論文又は卒業研究

(卒業論文又は卒業研究の履修登録)

第37条の2 卒業論文又は卒業研究の履修登録は、第4条第1項の規定により、原則として最終学年の者で3年以上在学し、当該年度卒業が見込まれる者が行う。

(論題の提出)

第38条 卒業論文題目又は卒業研究題目は、卒業論文又は卒業研究の提出時に、指導教員の署名捺印した所定の用紙により、教務課に届けるものとする。

(卒業論文又は卒業研究の提出)

第39条 文学部の卒業論文(英文学科は卒業研究)及び発達教育学部の卒業研究は最終学年の12月20日午後5時までに、家政学部の卒業研究は最終学年の1月20日午後5時までに、現代社会学部の卒業論文は最終学年の1月15日午後5時までに、法学部の卒業研究は最終学年の1月10日午後5時までに、教務課へ提出しなければならない。正当な理由がなく提出期限に遅れた場合は、受理されない。

- 2 4回生以上の学生で卒業論文または卒業研究の単位を修得せず、卒業延期となった者のうち、教務委員会の取り決めにより特に認められた場合に限り、最終学年前期(7月20日午後5時まで)にこれを提出し、単位の認定を受けることができる。

(卒業論文又は卒業研究の試験)

第40条 卒業論文試験又は卒業研究試験は、最終年次の学年で、所定の単位を修得した者について行う。

- 2 前項の試験は、審査及び試問(発表を含む。)によるものとする。

## 第5章 単位認定及び成績

(成績評価と単位認定)

第41条 授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、上位よりSS、S、A、B、C及びDをもって表示し、C以上を合格として当該授業科目の単位を認定する。

種別	採点結果	成績評価	GP	判定の基準
合格	100点	SS	5.0	授業科目の目標を完全に達成している。
	90点~99点	S	4.0~4.9	授業科目の目標をほぼ完全に達成している。
	80点~89点	A	3.0~3.9	授業科目の目標を相応に達成している。
	70点~79点	B	2.0~2.9	授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。
	60点~69点	C	1.0~1.9	授業科目の目標の最低限を満たしている。
	G	G	—	100点法では評価できない科目の合格。
不合格	D 0点~59点	D	0.0	授業科目の目標の最低限を満たしていない。
単位認定合格	N	N	—	他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。

- 2 文学部の卒業論文(英文学科は卒業研究)及び現代社会学部の卒業論文並びに法学部の卒業研究の成績評価は、100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
- 3 発達教育学部及び家政学部の卒業研究の成績評価は、G、Dをもって表わし、Gを合格とする。
- 4 教職実践演習及び教育実習等の学外実習・研修にかかる授業科目の成績評価は、G、Dをもって表わし、Gを合格とする。
- 5 当該年度学費未納者については、単位認定を保留する。

(成績の通知)

- 第42条 履修した授業科目の成績は、履修登録までに本人に通知する。
- 2 前項による通知には、授業科目ごとの採点結果及び成績評価に加え、履修登録したすべての授業科目を対象として、それぞれの成績評価のGP(グレードポイント)から計算した単位あたりの平均値(GPA)を記入する。GPAの計算方法は別に定める。
- 第42条の2 GPAが一定基準を下回った者は、本学教員による面談を受けなければならない。
- 2 一定期間にわたり成績の改善が見られない者に対して、本学が別に定める方法により、学修上の指導または各種勧告(改善勧告、休学勧告、退学勧告のいずれか)を行う場合がある。

(成績証明書の評語)

- 第43条 本学で発行する成績に関する証明書は、単位を修得した授業科目について、第41条にもとづき、SS、S、A、B、C、G又はNの評語をもって記入する。
- 2 削除

## 第6章 欠席・休学・復学・退学

(欠席届)

- 第44条 正規の授業を引続き1週間以上3カ月以内欠席する場合は、所定の欠席届を学生生活センターに提出しなければならない。
- 2 前項の欠席事由が病気の場合は、医師の診断書を添付しなければならない。
  - 3 3カ月をこえて、当該年度登録した授業科目のすべてを無断欠席した者は、学則第46条により除籍される。

(休学願)

- 第45条 学則第41条及び第42条に規定する休学の手続きは、所定の休学願を学生生活センターに提出しなければならない。
- 2 前項の休学事由が病気の場合は、医師の診断書を添付しなければ



らない。

(復学願)

第46条 学則第43条に規定する復学については、休学期間満了前に所定の復学願を学生生活センターに提出しなければならない。

2 前項の休学事由が病気の場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

(退学願)

第47条 学則第44条に規定する退学については、所定の退学願を保証人連署のうえ、学生生活センターに提出しなければならない。

2 学則第38条第2項に規定する他大学への転入学に際しては、退学願を学生生活センターに提出しなければならない。

## 第7章 編入学及び転部・転科（転専攻）

(編入学)

第48条 学則第37条に規定する編入学の取扱いは、別に定める。

第49条 削除

(転部・転科・転専攻)

第50条 学則第40条に規定する転部・転科（転専攻）を希望する者は、所定の願書及び必要書類に検定料を添えて保証人連署のうえ、教務課に提出しなければならない。

2 転部・転科（転専攻）に関する内規は、別に定める。

## 第8章 科目等履修

(科目等履修)

第51条 学則第56条に規定する科目等履修の取扱いは、別に定める。

## 第9章 教職課程

(教職課程)

第52条 学則第24条に基づき、本学に教職課程を置く。

(規定の準用)

第53条 教職課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(教職に関する科目等の履修)

第54条 教育職員免許状取得の所要資格を得ようとする者の、教科及び教職に関する科目の単位の修得方法は、本学の定めるところによる。

2 教職実践演習（中・高）、教職実践演習（幼・小）、保育・教職実践演習（幼）、教職実践演習（栄養教諭）及び教職実践演習（養護教諭）は原則として最終学年の者で、各学科・専攻で実施する必要なすべての教職面談をうけ、かつ、教育実習の履修登録ができる者について、履修を許可する。

(履修制限)

第55条 各学年終了時に第42条第2項の規定により計算した累積GPAが「2.0」未満の者については、原則として教職課程の履修を制限する。

2 前項にくわえ、免許の種類・教科ごとに別に定める基準を満たさない者について、教職課程の履修を制限することがある。

(免許状の種類・教科)

第56条 学則第24条第3項に基づき、各学科（専攻）において所要資格を得ることのできる教育職員免許状の種類及び教科を次のとおり定める。

学部	学科・専攻	種類	教科
文学部	国文学科	中学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	国語
	英文学科	中学校教諭一種免許状	外国語[英語]
		高等学校教諭一種免許状	外国語[英語]
	史学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
発達教育学部	教育学専攻	小学校教諭一種免許状	
		幼稚園教諭一種免許状	

発達教育学部	教育学専攻	特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）	
	教育学専攻	中学校教諭一種免許状	保健
		高等学校教諭一種免許状	保健
	教育学専攻	養護教諭一種免許状	
音楽教育学専攻		中学校教諭一種免許状	音楽
		高等学校教諭一種免許状	音楽
家政学部	食物栄養学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
		栄養教諭一種免許状	
	生活造形学科	中学校教諭一種免許状	家庭
高等学校教諭一種免許状		家庭	
現代社会学部	現代社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	情報
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民

2 発達教育学部教育学専攻の者で、特別支援学校教諭一種免許状取得希望者は、免許状取得要領に基づき、基礎となる教諭の免許状を併せて取得しなければならない。

3 家政学部食物栄養学科の者で、栄養教諭一種免許状の取得希望者は、本学の定める管理栄養士に関する履修科目表に規定する科目及び単位を修得しなければならない。

4 第1項に定める以外の免許状取得のための他学部・他学科（専攻）における授業科目の履修については、教務課に申し出て許可を得なければならない。

5 前項により他学部・他学科（専攻）の授業科目を履修し、単位を修得した場合、単位認定はされるが卒業に必要な単位に含むことはできない。ただし、発達教育学部教育学の各専攻において履修が認められている他専攻の科目についてはこの限りではない。

(教職課程履修費)

第57条 教職課程を履修する者は、所定の期間内に別に定める教職課程履修費を納入しなければならない。

(他学部・他学科への聴講)

第58条 第56条第4項の規定により許可する場合は、第4条第2項の規定にかかわらず。

(教育実習)

第59条 教育実習及び中学校教育実習は、次表に定める先修条件科目を前年度までに修得し、かつ、当該年度中に当該免許状取得の所要資格のすべてを充足し得る者についてこれを許可する。

学部	学科・専攻	種類	教科	先修条件科目
文学部	国文学科	中学校教諭一種免許状	国語	教職論、教育原論、教育心理学、国語科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	国語	
	英文学科	中学校教諭一種免許状	外国語[英語]	教職論、教育原論、教育心理学、英語科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	外国語[英語]	
	史学科	中学校教諭一種免許状	社会	教職論、教育原論、教育心理学、社会科学教育法（地理歴史分野）、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史	
発達教育学部	教育学専攻	小学校教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学、人権教育論
	教育学専攻	幼稚園教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学、人権教育論
	教育学専攻	中学校教諭一種免許状	保健	教職論、教育原論、教育心理学、保健科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	保健	

発達教育学部	教育学科 音楽教育学専攻	中学校教諭一種免許状	音楽	教職論、教育原論、教育心理学、音楽科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	音楽	
	児童学科	幼稚園教諭一種免許状		教職論、教育原論、教育心理学1、人権教育論
家政学部	食物栄養学科	中学校教諭一種免許状	家庭	教職論、教育原論、教育心理学、家庭科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	家庭	
	生活造形学科	中学校教諭一種免許状	家庭	教職論、教育原論、教育心理学、家庭科教育法1、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	家庭	
現代社会学部	現代社会学科	中学校教諭一種免許状	社会	教職論、教育原論、教育心理学、社会科教育法(地理歴史分野)、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	公民	教職論、教育原論、教育心理学、社会科教育法(公民分野)、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	情報	教職論、教育原論、教育心理学、情報科教育法1、人権教育論
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会	教職論、教育原論、教育心理学、社会科教育法(地理歴史分野)、人権教育論
		高等学校教諭一種免許状	公民	教職論、教育原論、教育心理学、社会科教育法(公民分野)、人権教育論

- 2 教育実習及び中学校教育実習を履修する者は、前年度から実施される教育実習オリエンテーションに怠りなく出席し、所定の手続きを経たうえで、当該年度当初の所定の期間内に教育実習履修登録をしなければならない。
- 3 栄養教育実習は、次に定める6科目の単位を前年度までに修得し、かつ、当該年度中に本学が定める管理栄養士に関する履修科目表に規定する科目及び単位、並びに栄養教諭一種免許状の所要資格のすべてを充足し得る者についてこれを許可する。

教職論、教育原論、教育心理学、人権教育論、学校栄養実践論、学校栄養指導論

- 4 栄養教育実習を履修する者は、「栄養教育実習指導」を履修登録し、かつ、前年度から実施される教育実習オリエンテーションに怠りなく出席し、所定の手続きを経たうえで、当該年度当初の所定の期間内に教育実習履修登録をしなければならない。
- 5 養護教育実習は、次に定める4科目の単位を前年度までに修得し、かつ、当該年度中に当該免許状取得の所要資格のすべてを充足し得る者についてこれを許可する。

教職論、教育原論、教育心理学、人権教育論

- 6 養護教育実習を履修する者は、前年度から実施される教育実習オリエンテーションに怠りなく出席し、所定の手続きを経たうえで、当該年度当初の所定の期間内に教育実習履修登録をしなければならない。
- 7 特別支援学校教育実習は、次に定める4科目の単位を前年度までに修得し、かつ、当該年度中に当該免許状ならびに基礎となる教諭の免許状の所要資格のすべてを充足し得る者についてこれを許可する。

特別支援教育総論、知的障害者の生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、知的障害教育論

- 8 特別支援学校教育実習を履修する者は、前年度から実施される教育実習オリエンテーションに怠りなく出席し、所定の手続きを経たうえで、当該年度当初の所定の期間内に教育実習履修登録をしなければならない。

- 9 教育実習を履修する者のうち、教育実習委託費が必要となる者は、所定の期間内に別に定める教育実習委託費を納入しなければならない。
- 10 教育実習及び中学校教育実習を履修する者のうち、中学校教諭一種免許状外国語「英語」または高等学校教諭一種免許状外国語「英語」取得希望者は、別に定める基準を前年度までに満たさなければならない。

#### (教育実習の中止)

第60条 教育実習にあたっては、次の各号に掲げる事項をすべて満たさなければならない。これに反する場合には実習を中止させることがある。

- (1) 教員になる強い意志を有すること
- (2) 教育実習に耐え得る健康体であること
- (3) 本学の指示する諸規定及び実習校(園)の定める諸規定に従うこと

#### (介護等体験)

第60条の2 小学校及び中学校の教育職員免許状の取得を希望する者は、免許状取得に係る単位取得のほか、社会福祉施設等での7日間の介護等体験をしなければならない。

- 2 介護等体験を希望する者は、介護等体験の事前指導(オリエンテーションを含む。)に怠りなく出席し、本学の指示に従わなくてはならない。
- 3 介護等体験を希望する者は、所定の期間内に別に定める体験費等を納入しなければならない。

## 第10章 管理栄養士課程

### (管理栄養士課程)

第61条 学則第25条に基づき、本学に管理栄養士養成のための課程(以下「管理栄養士課程」という。)を置く。

### (規定の準用)

第62条 管理栄養士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

### (管理栄養士専門科目の履修)

第63条 家政学部食物栄養学科の者で、管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める管理栄養士に関する履修科目表及び栄養士に関する履修科目表によらなければならない。

### (管理栄養士課程実習費)

第64条 管理栄養士課程を履修し、給食運営校外実習の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める管理栄養士課程実習費を納入しなければならない。

### (給食運営校外実習事前事後指導)

第64条の2 給食運営校外実習を履修する者は、給食運営校外実習事前事後指導を履修しなければならない。

### (臨地実習事前事後指導)

第64条の3 臨地実習(臨床栄養学Ⅰ)、臨地実習(臨床栄養学Ⅱ)、臨地実習(臨床栄養学Ⅲ)、臨地実習(給食経営管理論)及び臨地実習(公衆栄養学)を履修する者は、臨地実習事前事後指導を履修しなければならない。

### (校外実習・臨地実習)

第65条 校外実習及び臨地実習にかかる授業科目の履修は、それぞれ次に定める授業科目の単位をすでに修得し、かつ、当該授業科目にかかるオリエンテーションに怠りなく出席した者について、これを許可する。

#### 給食運営校外実習

食品学総論、食品学各論、基礎栄養学、栄養教育総論、給食運営論、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱの7科目

臨地実習(臨床栄養学Ⅰ)、臨地実習(臨床栄養学Ⅱ)及び臨地実習(臨床栄養学Ⅲ)

食品学総論、食品学各論、基礎栄養学、栄養教育総論、給食運営論、給食経営管理論、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、臨床栄養学の9科目  
臨地実習(給食経営管理論)

食品学総論、食品学各論、基礎栄養学、栄養教育総論、給食運営論、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、給食経営管理論、臨床栄養学の9科目

臨地実習(公衆栄養学)

食品学総論、食品学各論、基礎栄養学、栄養教育総論、給食運営論、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学の10科目

- 2 前項の実習にあたり、本学の指示する諸規定及び実習施設の定める諸規定に反する場合には、実習を中止させることがある。

## 第11章 博物館学芸員課程

(博物館学芸員課程)

第66条 学則第25条の2に基づき、本学に博物館学芸員養成のための課程(以下「学芸員課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第67条 学芸員課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(学芸員関係科目の履修)

第68条 文学部国文学科、同史学科、発達教育学部児童学科、家政学部生活造形学科及び現代社会学部現代社会学科の者で、学芸員資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める学芸員に関する履修科目表によらなければならない。

(学芸員課程実習費)

第69条 学芸員課程を履修し、「博物館実習Ⅱ」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める学芸員課程実習費を納入しなければならない。

(博物館実習)

第70条 博物館実習Ⅱは最終学年の者で、次に定める授業科目の単位をすでに履修し、かつ、当該年度中に所要資格取得のすべてを充足し得る者についてこれを許可する。  
博物館概論、博物館資料論、博物館経営論、博物館情報論、博物館実習Ⅰ 以上5科目

## 第12章 社会教育主事課程

(社会教育主事課程)

第71条 学則第25条の3に基づき、本学に社会教育主事養成のための課程(以下「社会教育主事課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第72条 社会教育主事課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(社会教育主事関係科目の履修)

第73条 発達教育学部教育学科(教育学専攻・音楽教育学専攻)及び児童学科の者で、社会教育主事となる資格(「社会教育士」の称号)を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める社会教育主事に関する履修科目表によらなければならない。

(社会教育主事課程実習費)

第74条 社会教育主事課程を履修し「社会教育基礎実習」、「社会教育実習」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める社会教育主事課程実習費をそれぞれ納入しなければならない。

## 第13章 1級建築士及び2級・木造建築士養成課程

(1級建築士及び2級・木造建築士養成課程)

第75条 建築士法第14条第1号に定める1級建築士試験の受験資格並びに建築士法第15条第1号に定める2級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格を得るための養成課程(以下「建築士養成課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第76条 建築士養成課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(建築士養成特別科目の履修)

第77条 家政学部生活造形学科の者で、1級建築士試験及び2級建築士試験・木造建築士試験の受験資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める1級建築士及び2級建築士・木造建築士に関する履修科目表によらなければならない。

(1級建築士及び2級・木造建築士課程履修費)

第78条 建築士の受験資格取得を目的として、建築士養成課程に次表のとおり「建築士養成特別科目」を置く。建築士養成特別科目をすべて履修する者は、所定の期間内に別に定める1級建築士及び2級・木造建築士課程履修費を納入しなければならない。

建築士養成特別科目	単位
建築法規	2
建築施工	2
空間デザイン実習ⅣAまたはⅣB	2

## 第14章 保育士課程

(保育士課程)

第79条 学則第25条の5に基づき、本学に保育士養成のための課程(以下「保育士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第80条 保育士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(保育士関係科目の履修)

第81条 発達教育学部児童学科の者で、保育士となる資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める保育士に関する履修科目表によらなければならない。

(保育士課程実習費)

第82条 保育士課程を履修し、「保育実習Ⅰ」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める保育士課程実習費を納入しなければならない。

(事前・事後指導)

第83条 保育実習にかかる授業科目を履修しようとする者は、保育実習事前・事後指導(オリエンテーションを含む。)に怠りなく出席しなければならない。

(保育実習)

第84条 保育実習にかかる授業科目を履修することができる者は、次に定めるとおりとする。

- (1)「保育実習Ⅰ」については、2回生前期までに開講される保育士課程の必修科目すべてについて、単位修得又は履修登録している者。
- (2)「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」については、「保育実習Ⅰ」の単位を修得し、3回生前期までに開講される保育士課程の必修科目すべてについて、単位修得又は履修登録している者。

## 第15章 情報処理士課程

(情報処理士課程)

第85条 全国大学実務教育協会が認定する情報処理士養成のための課程(以下「情報処理士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第86条 情報処理士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(情報処理士関係科目の履修)

第87条 情報処理士の資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める情報処理士に関する履修科目表によらなければならない。

(情報処理士資格申請手数料)

第88条 情報処理士の資格を取得しようとする者は、所定の期間内に別に定める情報処理士資格申請手数料を納入しなければならない。

## 第16章 上級情報処理士課程

(上級情報処理士課程)

第89条 全国大学実務教育協会が認定する上級情報処理士養成のための課程(以下「上級情報処理士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第90条 上級情報処理士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(上級情報処理士関係科目の履修)

第91条 現代社会学部現代社会学科の者で、上級情報処理士の資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める上級情報処理士に関する履修科目表によらなければならない。

(上級情報処理士資格申請手数料)

第92条 上級情報処理士の資格を取得しようとする者は、所定の期間内に別に定める上級情報処理士資格申請手数料を納入しなければならない。

## 第17章 (第93条～第96条) 削除

### 第18章 社会調査士課程

(社会調査士課程)

第97条 一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士養成のための課程(以下「社会調査士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第98条 社会調査士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(社会調査士関係科目の履修)

第99条 現代社会学部現代社会学科の者で、社会調査士の資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める社会調査士に関する履修科目表によらなければならない。

### 第19章 衣料管理士課程

(衣料管理士課程)

第100条 社団法人日本衣料管理協会が認定する衣料管理士(1級)養成のための課程(以下「衣料管理士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第101条 衣料管理士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(衣料管理士関係科目の履修)

第102条 家政学部生活造形学科の者で、衣料管理士の資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める衣料管理士(1級)に関する履修科目表によらなければならない。

(衣料管理士資格申請手数料)

第103条 衣料管理士(1級)資格認定証の交付を受けようとする者は、所定の期間内に別に定める衣料管理士資格申請手数料を納入しなければならない。

## 第20章 (第104条～第108条) 削除

### 第21章 社会福祉士課程

(社会福祉士課程)

第109条 学則第25条の7に基づき、本学に社会福祉士養成のための課程(以下「社会福祉士課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第110条 社会福祉士課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(社会福祉士関係科目の履修)

第111条 発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻の者で、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める社会福祉士に関する履修科目表によらなければならない。

(社会福祉士課程実習費)

第112条 社会福祉士課程を履修し、「社会福祉援助技術現場実習」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める社会福祉士課程実習費を納入しなければならない。

(社会福祉援助技術現場実習)

第113条 社会福祉援助技術現場実習は、「専門科目の必修科目」及び「社会福祉士に関する履修科目表に定める必修科目」のうち、2回生までに開講される科目の単位を修得したものにこれを許可する。

### 第22章 食品衛生管理者課程

(食品衛生管理者課程)

第114条 学則第25条の8に基づき、本学に食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成のための課程(以下「食品衛生管理者課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第115条 食品衛生管理者課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(食品衛生管理者関係科目の履修)

第116条 家政学部食物栄養学科の者で、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する履修科目表によらなければならない。

### 第23章 図書館司書課程

(図書館司書課程)

第117条 学則第25条の4第1項に基づき、本学に図書館司書養成のための課程(以下「司書課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第118条 司書課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(司書科目の履修)

第119条 図書館司書となる資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める図書館司書に関する履修科目表によらなければならない。

(司書課程履修費)

第120条 司書課程を履修する者は、所定の期間内に別に定める司書課程及び学校司書課程履修費を納入しなければならない。

(図書館実習費)

第120条の2 司書課程を履修し、「図書館実習」の受講を許可されたものは、所定の期間内に別に定める図書館実習費を納入しなければならない。

(図書館実習)

第120条の3 図書館実習の受講については、最終学年の者で、図書館司書に関する必修科目および「図書館総合演習」を履修済みであることを先修条件とするが、さらに図書館司書課程委員会の許可を必要とする。

### 第24章 学校図書館学講座

(司書教諭)

第121条 学校図書館法に定める司書教諭を養成するために、学校図書館学講座を開講する。

(学校図書館学講座)

第122条 司書教諭の資格を得ようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に基づく次の科目を履修し単位を修得しなければならない。

司書教諭講習規程に定める科目

科目	単位	必選の別
学校経営と学校図書館	2	必
学校図書館メディアの構成	2	必
学習指導と学校図書館	2	必
読書と豊かな人間性	2	必
情報メディアの活用	2	必

2 前項に定める単位の修得方法は、本学の定める学校図書館学講座要項によらなければならない。

(規定の準用)

第123条 学校図書館学講座の受講にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(学校図書館学講座受講料)

第124条 学校図書館学講座を受講する者は、所定の期間内に、別に定める受講料を納入しなければならない。

### 第25章 公認心理師課程

(公認心理師課程)

第125条 学則第25条の9に基づき、本学に公認心理師養成のための課程(以下「公認心理師課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第126条 公認心理師課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(公認心理師関係科目の履修)

第127条 発達教育学部心理学科の者で、公認心理師国家試験の受験資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める公認心理師に関する履修科目表によらなければならない。

(公認心理師課程実習費)

第128条 公認心理師課程を履修し、「心理実習」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定める公認心理師課程実習費を納入しなければならない。

(心理実習)

第129条 心理実習は、次に定める授業科目の単位をすべて修得したものであるものについてこれを許可する。

公認心理師の職責、心理学概論、臨床心理学概論、心理的アセスメント、心理学的支援法A、人体の構造と機能及び疾病、精神疾患とその治療、心理演習A(以上8科目)

### 第26章 スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程

(スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程)

第130条 学則第25条の10に基づき、本学にスクールソーシャルワーカー養成のための課程(以下「スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第131条 スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程関係科目の履修)

第132条 発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻の者で、スクールソーシャルワーカーの資格を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定めるスクール(学校) ソーシャルワーク教育課程に関する履修科目表によらなければならない。

(スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程実習費)

第133条 スクール(学校) ソーシャルワーク教育課程を履修し、「スクールソーシャルワーク実習」の履修登録をする者は、所定の期間内に別に定めるスクール(学校) ソーシャルワーク教育課程実習費を納入しなければならない。

(スクールソーシャルワーク実習)

第134条 スクールソーシャルワーク実習は、別に定める条件を満たしたものであるものについてこれを許可する。

### 第27章 日本語教師課程

(日本語教師課程)

第135条 学則第25条の10に基づき、本学に日本語教師養成のための課程(以下「日本語教師課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第136条 日本語教師課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(日本語教師関係科目の履修)

第137条 日本語教師課程修了証を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める日本語教師に関する履修科目表によらなければならない。

(日本語教師課程実習費)

第138条 日本語教師課程を履修し、「日本語教育実習」の履修登録を

する者は、所定の期間内に別に定める日本語教師課程実習費を納入しなければならない。

(日本語教育実習)

第139条 日本語教育実習の履修は、次に定める授業科目の単位をすべてに修得した者について、これを許可する。

日本語教育入門、言語と教育、日本語の構造(以上3科目)

### 第28章 学校司書課程

(学校司書課程)

第140条 学則第25条の4の第3項に基づき、本学に学校司書養成のための課程(以下「学校司書課程」という。)を置く。

(規定の準用)

第141条 学校司書課程の履修にあたっては、第2章及び第3章並びに第5章の規定を準用する。

(学校司書関係科目の履修)

第142条 学校司書課程修了証を得ようとする者の単位の修得方法は、本学の定める学校司書に関する履修科目表によらなければならない。

(学校司書課程実習費)

第143条 学校司書課程を履修する者は、所定の期間内に別に定める司書課程及び学校司書課程履修費を納入しなければならない。

### 第29章 履修上の伝達事項

(履修上の伝達事項)

第144条 履修上の伝達事項はすべて本学のポータルサイトに掲載する。

2 自己の責に帰すべき伝達事項の見落としで不利益を蒙った場合には、本学は、その責を負わない。

附 則

- この要項は、昭和53年4月1日から施行する。
- この要項の改廃は、連合教授会又は短期大学部教授会の議を経て学長が行う。
- 昭和45年4月1日制定の「教務規則」は、廃止する。

附 則

この要項は、昭和56年6月24日から施行する。

附 則

- この要項は、昭和60年4月1日から施行する。
- 第65条の規定は、昭和60年度入学生より適用する。

附 則

1 昭和59年度以前に入学者の卒業に必要な単位数

区分	仏教学	一般教育科目	保健体育科目	外国語科目	基礎教育科目	専門教育科目	合計
国文学科	8	24	4	8	12	76	132
英文学科	8	32	4	8	4	76	132
東洋史学科	8	24	4	8	12	76	132
教育学科(初等)	8	32	4	8	4	76	132
教育学科(音楽)	8	36	4	8	0	76	132
食物学科	8	36	4	8	0	76	132
被服学科	8	36	4	8	0	76	132
児童学科	8	24	4	8	12	76	132

一般教育科目及び基礎教育科目は学科によって必要な単位数が異なる。自分の所属する学科の必要単位を修得すること。

附 則

- この要項は、昭和62年4月1日から施行する。
- 第65条の規定は、昭和62年度入学生より適用する。

附 則

この要項は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

- この要項は、平成2年4月1日から施行する。
- この要項の改廃は、連合教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条、第 16 条、第 31 条、第 32 条第 1 項、第 35 条、第 11 章、第 12 章及び第 13 章の規定は、昭和 61 年度入学生より適用するものとし、他は従前のおりとする。

附 則

- 1 この要項は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条第 3 項、第 41 条第 4 項の規定は、昭和 61 年度入学生より適用するものとし、他は従前のおりとする。

附 則

この要項は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 39 条、第 41 条第 2 項、第 3 項、第 4 項、第 5 項及び第 6 項の規定は、平成 6 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 38 条の規定は、平成 7 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 37 条の 2 の規定は、平成 8 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この要項の改廃は、大学評議会の議を経て学長がこれを行う。

附 則

- 1 この要項は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 条の規定にかかわらず、本学入学前に大学又は短期大学で修得した単位の認定は、当分の間、次の各号に基づき取り扱うものとする。

- (1) 本学入学前に大学又は短期大学で修得した単位は、当該科目の内容を精査のうえ、本学の授業科目の一に読み替え、単位認定できるものとする。
- (2) 前号により認定できる単位の上限は 16 単位とする。
- (3) 単位の認定を希望する者は、原則として入学年度の 4 月末日までに修得した大学又は短期大学の学業成績証明書及び当該科目の講義概要を記載した書類を添えて、教務部長に願い出るものとする。
- (4) 単位の認定は、教務委員会で整合の上、教授会の議を経てこれを行う。
- (5) 第 3 号の定めにかかわらず、教務部長が教育上特に有益と認めるときは、平成 13 年度入学生にも適用できるものとし、その取扱いは前各号によるものとする。

附 則

この要項は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 28 条及び第 32 条の規定は平成 17 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用し、第 13 章及び第 18 章の規定は平成 16 年度入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 18 章の規定は平成 17 年度入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 39 条第 2 項の規定は、平成 21 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 6 条第 2 項及び第 3 項の規定は、平成 22 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 120 条の 2 及び第 120 条の 3 の規定は、平成 24 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

また、学芸員に関する履修科目表による本学規定科目及び単位数は、平成 24 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 54 条第 2 項の規定は、平成 27 年 4 月 1 日現在在籍している学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、教育職員免許状に関する履修科目表による本学規定科目及び単位数は、平成 27 年度入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 3 条第 1 項第 13 号連携活動科目及び別表 1 については、平成 27 年度入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1

教育課程及び履修方法

1 卒業に必要な単位

領域	科目区分	卒業要件単位数	
		必修	選択
共通領域	仏教学	8 単位	6 単位以上
	言語コミュニケーション科目	8 単位	
	情報コミュニケーション科目	2 単位	
	健康科学科目	2 単位	
	京女の教養学 キャリア形成科目 連携活動科目 学科・専攻開放科目 他大学単位修得科目	—	
	共通領域 計	20 単位	
専門領域	専門科目	72 単位以上	
合 計		132 単位	

# 外国語検定試験の単位認定基準

外国語試験の単位認定については P.13 に記載しています。

**入学前に外国語検定等に合格又は基準となる点数を取得した場合**

(申請時期：1 回生 4 月)

対 象	級・スコア等	認定単位	認 定 科 目 名
実用英語技能検定試験 (英検)	準1級	2単位	英語 I A 1・英語 I A 2
	1級	4単位	英語 I A 1・英語 I A 2・英語 I B 1・英語 I B 2
TOEIC 又は TOEIC・IP テスト	600～699点	1単位	英語 I A 1
	700～799点	2単位	英語 I A 1・英語 I A 2
	800点以上	4単位	英語 I A 1・英語 I A 2・英語 I B 1・英語 I B 2
TOEFL (PBT/ITP)	500～535点	1単位	英語 I A 1
	536～575点	2単位	英語 I A 1・英語 I A 2
	576点以上	4単位	英語 I A 1・英語 I A 2・英語 I B 1・英語 I B 2
TOEFL (iBT)	61～73点	1単位	英語 I A 1
	74～90点	2単位	英語 I A 1・英語 I A 2
	91点以上	4単位	英語 I A 1・英語 I A 2・英語 I B 1・英語 I B 2
ドイツ語技能検定試験 (独検)	4級	2単位	ドイツ語 I A 1・ドイツ語 I B 1
	3級	4単位	ドイツ語 I A 1・ドイツ語 I A 2・ドイツ語 I B 1・ドイツ語 I B 2
	2級以上	5単位	ドイツ語 I A 1・ドイツ語 I A 2・ドイツ語 I B 1・ドイツ語 I B 2 ドイツ語 II A 1
フランス語検定試験 (DAF)	4級	2単位	フランス語 I A 1・フランス語 I B 1
	3級	4単位	フランス語 I A 1・フランス語 I A 2・フランス語 I B 1・フランス語 I B 2
	準2級以上	5単位	フランス語 I A 1・フランス語 I A 2・フランス語 I B 1・フランス語 I B 2 フランス語 II A 1
中国語検定試験 (中検)	4級	2単位	中国語 I A 1・中国語 I B 1
	3級	4単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2
	2級以上	5単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2 中国語 II A 1
漢語水平考試 (HSK)	3級 180点以上	2単位	中国語 I A 1・中国語 I B 1
	4級 180点以上	4単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2
	5級 180点以上 6級 180点以上	5単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2 中国語 II A 1
	250～399点	4単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2
中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	400点以上	5単位	中国語 I A 1・中国語 I A 2・中国語 I B 1・中国語 I B 2 中国語 II A 1
	4級	2単位	コリア語 I A 1・コリア語 I B 1
「ハングル」能力検定試験	3級	4単位	コリア語 I A 1・コリア語 I A 2・コリア語 I B 1・コリア語 I B 2
	準2級以上	5単位	コリア語 I A 1・コリア語 I A 2・コリア語 I B 1・コリア語 I B 2 コリア語 II A 1
	日本語能力試験 (※)	N 1 (総得点 160 点以上)	4単位
日本留学試験 (日本語) (※)	読解・聴解・聴読解 の合計 350 点以上 かつ記述 45 点以上	4単位	日本語 I A 1・日本語 I A 2・日本語 I B 1・日本語 I B 2

(※) 外国人留学生のみ単位認定可能。

入学後に外国語検定等に合格又は基準となる点数を取得した場合

(申請時期：1回生9月)

対 象	級・スコア等	認定単位	認 定 科 目 名
実用英語技能検定試験 (英検)	準1級以上	2単位	英語 I B 1・英語 I B 2
TOEIC 又は TOEIC・IP テスト	600～699 点	1単位	英語 I B 1
	700 点以上	2単位	英語 I B 1・英語 I B 2
TOEFL (P B T / I T P)	500～535 点	1単位	英語 I B 1
	536 点以上	2単位	英語 I B 1・英語 I B 2
TOEFL (i B T)	61～73 点	1単位	英語 I B 1
	74 点以上	2単位	英語 I B 1・英語 I B 2
ドイツ語技能検定試験 (独検)	4 級	1単位	ドイツ語 I B 1
	3 級	2単位	ドイツ語 I B 1・ドイツ語 I B 2
	2 級以上	3単位	ドイツ語 I B 1・ドイツ語 I B 2・ドイツ語 II A 1
フランス語検定試験 (DAFP)	4 級	1単位	フランス語 I B 1
	3 級	2単位	フランス語 I B 1・フランス語 I B 2
	準2 級以上	3単位	フランス語 I B 1・フランス語 I B 2・フランス語 II A 1
中国語検定試験 (中検)	4 級	1単位	中国語 I B 1
	3 級	2単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2
	2 級以上	3単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2・中国語 II A 1
漢語水平考試 (HSK)	3 級 180 点以上	1単位	中国語 I B 1
	4 級 180 点以上	2単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2
	5 級 180 点以上	3単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2・中国語 II A 1
	6 級 180 点以上	3単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2・中国語 II A 1
中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	250～399 点	2単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2
	400 点以上	3単位	中国語 I B 1・中国語 I B 2・中国語 II A 1
「ハングル」能力検定試験	4 級	1単位	コリア語 I B 1
	3 級	2単位	コリア語 I B 1・コリア語 I B 2
	準2 級以上	3単位	コリア語 I B 1・コリア語 I B 2・コリア語 II A 1

(申請時期：2回生4月)

対 象	級・スコア等	認定単位	認 定 科 目 名
ドイツ語技能検定試験 (独検)	2 級以上	1単位	ドイツ語 II A 1
フランス語検定試験 (DAFP)	準2 級以上	1単位	フランス語 II A 1
中国語検定試験 (中検)	2 級以上	1単位	中国語 II A 1
漢語水平考試 (HSK)	5 級 180 点以上 6 級 180 点以上	1単位	中国語 II A 1
中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	400 点以上	1単位	中国語 II A 1
「ハングル」能力検定試験	準2 級以上	1単位	コリア語 II A 1





